イントロダクション

・全商簿記試験の概要

公益財団法人全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定試験（以下、「全商簿記」と略します）の概要は以下のとおりです。

①　試験時間：１時間30分

②　合格点：70点以上（満点100点）

③　試験日：１月、６月

（注）詳しくは公益財団法人全国商業高等学校協会へお問い合わせ下さい。

・学習の仕方

授業を受けていただき、授業の内容を理解することが大切です。授業を受けた後も、理解できるまでテキストを繰り返し読んで下さい。

また、簿記は授業を聴くだけでは身につきません。必ず、実際に自分で手を動かして問題を解くようにして下さい。まずは、テキストの例題を解けるようにして下さい。

授業の内容を理解しているかを確認するために、章ごとに自己学習用教材として、問題を用意していますので、試験当日までこれらの問題を繰り返し解いて、簿記力を高めて下さい。

一度、全商簿記の試験範囲を学習し、ある程度理解ができている方は、試験対策から学習して、理解不足等がある分野について、個別に学習するといった使い方が効率的だと思います。

・重要性について

各論点ごとに「Ａ・Ｂ・Ｃ」のランク付けをしていますが、それぞれの意味は以下となります。

Ａ：試験に頻出している論点なので、必ずマスターすべき論点です。

Ｂ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点ですが、それほど難易度が高くないため、時間がある方はマスターしてほしい論点です。

Ｃ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点で、かつ、難易度も高い論点なので、ＡとＢの論点をマスターした方で、なお、時間がある方のみ学習すれば良い論点です。

第１章　簿記の基礎①

１－１　簿記の意義

【重要性：A】

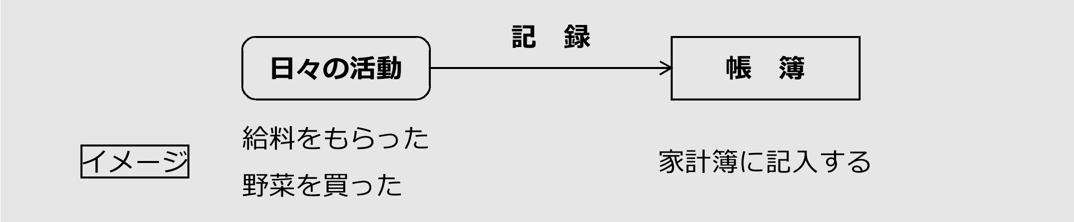
ＰＯＩＮＴ！

①　**簿記とはどのようなことをするのか、イメージできるようにしよう！**

②　**２つの報告書を覚えよう！**

（１）簿記とは？

お店や会社は日々の経営活動を記録・計算し、どのくらい儲(もう)かったのかや、どのくらいの財産(ざいさん)があるのかを明らかにする必要があります。この日々の経営活動を記録する手続きを、**簿記(ぼき)**といいます。簿記とは「帳簿記入(ちょうぼきにゅう)」を略した言葉といわれますが、お店や会社の日々の経営活動を、**帳簿(ちょうぼ)**という書類（ノートをイメージして下さい）に記録（記入）します。



お店や会社の日々の経営活動を帳簿に記入することによって、お店や会社がいくら儲けたのか（これを**経営成績(けいえいせいせき)**といいます）、現金や商品、土地などの財産がいくらあるのか（これを**財政状態(ざいせいじょうたい)**といいます）を明らかにし、経営者(けいえいしゃ)や出資者(しゅっししゃ)、銀行、国（税務署(ぜいむしょ)）といった関係者に報告書(ほうこくしょ)を作成して報告します。

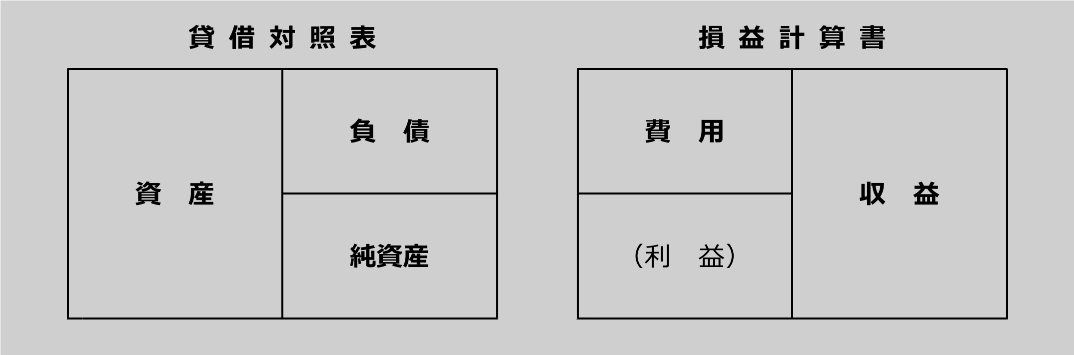
（2）報告書の種類

簿記で用いる報告書は**財務諸表**といい、様々な種類がありますが、全商簿記３級で出題されるのは損益計算書と貸借対照表です。

損益計算書とは、会社や個人商店がどれくらい儲かったのかという**経営成績**を表す報告書です。一般に英語で、Profit and Loss Statement といいますので、**P/L（ピーエル）**と略します。

貸借対照表とは、会社や個人商店が、現金や商品、土地といったものをどれくらい持っているのか、銀行からどれくらいお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。一般に英語で、Balance Sheet といいますので、**B/S（ビーエス）**と略します。

以下に、損益計算書と貸借対照表のイメージを記載しました。具体的な内容はこれから学習していきます。



（3）簿記の対象

簿記は、会社、個人商店、自治体など様々な主体を対象に行われますが、全商簿記３級では、主に**個人商店**を前提とした簿記が出題されます。したがって、これからは株式会社などの会社形態ではない、お店を営んでいる個人をイメージして学習して下さい。

１－２　簿記の５要素

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　簿記の５要素を覚えよう！

②　簿記上の取引を理解しよう！

（１）簿記の５要素

簿記は日々の経営活動（これを**取引**といいます）を帳簿へ記入しますが、**財政状態**を表す要素として**資産**、**負債**、**純資産**、**経営成績**を表す要素として**収益**、**費用**の５つの要素に分類して処理します。これを**簿記の５要素**といいます。

①　資産

資産とは、商売に役立つものをいいます（**プラスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、現金、預金、商品、建物、備品、土地などが該当します。

②　負債

負債とは、支払う義務があるものをいいます（**マイナスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、借入金、未払金などが該当します。

③　純資産

純資産とは、資産から負債を差し引いたもの（**資産－負債＝純資産**）です（プラスの財産である資産からマイナスの財産である負債を差し引いた**純額の財産**とイメージして下さい）。また、純資産は商売を始める時にはじめに用意したお金（これを**元手**といいます）と商売で儲けたお金（これを**利益**といいます）から構成されます。

貸　借　対　照　表

<table>
<tr><td rowspan="2">資　産</td><td>負　債</td></tr>
<tr><td>純資産</td></tr>
</table>

④　収益

収益とは、商品を販売した売上など、財産を増やす原因であり、商売によって獲得した成果です。具体的には、売上、受取利息、受取家賃、受取手数料などが該当します。このように、収益は「受取」という言葉が付く場合が多いです。

⑤　費用

費用とは、商品を購入（仕入といいます）した金額や人件費、広告料など、財産を減らす原因であり、収益を獲得するためにかかった犠牲です。具体的には、仕入、給　料、広告料、支払利息、支払手数料、通信費、水道光熱費などが該当します。このように、費用は「支払」や「費」という言葉が付く場合が多いです。

損 益 計 算 書

借方	貸方
費　用	**収　益**
（利　益）	

（注）利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

（２）簿記上の取引

簿記は日々の経営活動（**取引**）を帳簿に記入しますが、帳簿へ記入すべき取引は簿記の５要素である**資産・負債・純資産・収益・費用を増減させる取引**です。これを**簿記上の取引**といいます。一般に用いる「取引」という言葉と意味内容が異なる場合があるので注意して下さい。

例えば、不動産賃貸契約を取り交わした場合、一般には取引という言葉を用いるかもしれませんが、簿記では、契約の段階では簿記の５要素が増減していませんので、簿記上の取引とはなりません。実際に賃貸期間が開始し、賃料を支払った時に簿記の５要素が増減するため、簿記上の取引となります。

１－３　簿記の５要素とP/L・B/Sの関係

【重要性：A】

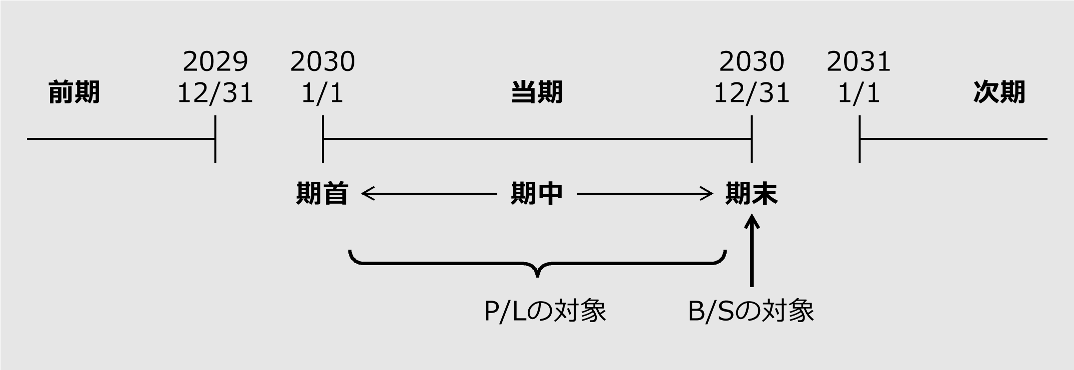
ＰＯＩＮＴ！

簿記の５要素とP/L・B/Sの関係を覚えよう！

（1）会計期間

簿記は、お店や会社の経営活動を一定の期間に区切って、経営成績や財政状態を記録します。この一定の期間を**会計期間**（または、**会計年度**、**事業年度**）といいます。全商簿記３級では主に個人商店を前提としますので、暦どおり１月１日から12月31日までの１年間が会計期間となります（なお、会社は自由に会計期間を決めることができます）。

会計期間の始めを**期首**、会計期間の終わりを**期末**（または、**決算日**）、期首と期末の間を**期中**といいます。現在の会計期間を**当期**、当期より一つ前の会計期間を**前期**、当期より一つ後の会計期間を**次期**（または、**翌期**、**来期**）といいます。



（2）損益計算書と貸借対照表

損益計算書（P/L）とは、**一会計期間**において、どれくらい儲かったのかという**経営成績**を表す報告書です。したがって、個人商店の損益計算書は１月１日から12月31日という**期間が対象**となります。

貸借対照表（B/S）とは、**期末**において、現金、商品や土地といったものがどれだけあるのか、銀行からどれだけお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。したがって、個人商店の貸借対照表は、期末である12月31日という**一時点が対象**となります。

（３）簿記の５要素と損益計算書・貸借対照表との関係

資産、**負債**、**純資産**は**財政状態**を表す要素ですので、**貸借対照表（B/S）**に記載します。また、**収益**、**費用**は**経営成績**を表す要素ですので、**損益計算書（P/L）**に記載します。

貸借対照表の**左側に資産**を、**右側に負債・純資産**を記載します。ここで、貸借対照表の左側の合計金額と右側の合計金額は必ず一致します（**資産＝負債＋純資産**）。貸借対照表は左側と右側が一致（バランス）しますので、バランスシートというのです。

損益計算書の**右側に収益**を、**左側に費用**を記載し、収益と費用の差額で**利益**を算定します（**収益－費用＝利益**）。なお、利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

貸 借 対 照 表

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書

費　用	**収　益**
（利　益）	

Point!　簿記の5要素がB/S・P/Lの右か左のどちらに記載されるかを覚えよう！

１－４　勘定

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　借方と貸方を覚えよう！

②　勘定記入のルールを覚えよう！

（１）勘定とは？

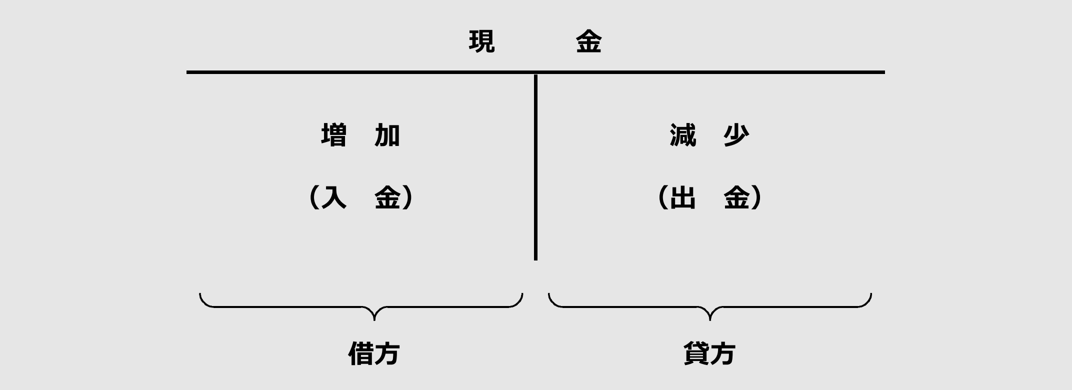
勘　定とは、日々の経営活動である取引を記録する表であり、**勘定口座**ともいいます。勘定には資産・負債・純資産・収益・費用の増加と減少を左側と右側に分けて記入します。これにより、それらの増加及び減少、さらには残りの金額（**残高**といいます）を記録します。勘定にはその内容がわかるように具体的な名前をつけますが、その名前を**勘定科目**といいます。

例として、現金勘定を示します。正式な勘定の形式は以下です。

現　　　金

日付	摘　　要	仕丁	借　方	日付	摘　　要	仕丁	貸　方

また、アルファベットの「Ｔ」の形をしているＴ勘定という簡略版の勘定で示しますと、以下のようになります。現金の増加（入金）は左側、現金の減少（出金）は右側に記入します。なお、簿記では左側のことを**借方**、右側のことを**貸方**といいます。



Point!　借方の「り」と貸方の「し」に着目して、借方が左、貸方が右と覚えよう！

（2）勘定記入のルール

各勘定への記入は、簿記の５要素に関連して記入のルールが決まっています。

貸借対照表と損益計算書の**左側（借方）**に記載される**資産・費用**については、**増加は左側（借方）**に、減少は右側（貸方）に記入します。貸借対照表と損益計算書の**右側（貸方）**に記載される**負債・純資産・収益**については、**増加は右側（貸方）**に、減少は左側（借方）に記入します。

貸借対照表

資産	**負債**
	純資産

損益計算書

費用	**収益**
（利益）	

資産の勘定

増加	減少

収益の勘定

減少	**増加**

負債の勘定

減少	**増加**

費用の勘定

増加	減少

純資産の勘定

減少	**増加**

Point!　P/LとB/Sに記載される側が、「増加の記入側」と覚えよう！

第１章　簿記の基礎①　問題

問題1-1　以下の①から⑤にあてはまる語句を記入しなさい。

貸 借 対 照 表

①	②
	③

損 益 計 算 書

④	⑤
利　益	

問題1-2　以下の①から⑩に、その勘定の借方または貸方へ増加したときに記入される場合には「増加」、減少したときに記入される場合には「減少」と記入しなさい。

資産の勘定

①	②

負債の勘定

③	④

純資産の勘定

⑤	⑥

収益の勘定

⑦	⑧

費用の勘定

⑨	⑩

第１章　簿記の基礎①　答案用紙

問題1-1

①		②		③	
④		⑤			

問題1-2

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	
⑩					

第１章　簿記の基礎①　解答解説

問題1-1　**解答**

①	資　産	②	負　債	③	純資産
④	費　用	⑤	収　益		

問題1-1　**解説**

貸借対照表の借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債、純資産を記入します。また、損益計算書の貸方（右側）に収益、借方（左側）に費用を記入し、収益から費用を差し引いて利益を算定します。

貸 借 対 照 表

① 資　産	② 負　債
	③ 純資産

損 益 計 算 書

④ 費　用	⑤ 収　益
利　益	

問題1-2　**解答**

①	増　加	②	減　少	③	減　少
④	増　加	⑤	減　少	⑥	増　加
⑦	減　少	⑧	増　加	⑨	増　加
⑩	減　少				

問題1-2　**解説**

　資産・費用は増加は借方（左側）に、減少は貸方（右側）に記入します。また、負債・純資産・収益は増加は貸方（右側）に、減少は借方（左側）に記入します。

資産の勘定

①増　加	②減　少

負債の勘定

③減　少	④増　加

純資産の勘定

⑤減　少	⑥増　加

収益の勘定

⑦減　少	⑧増　加

費用の勘定

⑨増　加	⑩減　少

第２章　簿記の基礎②

２－１　仕訳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

仕訳の手順をマスターしよう！

（1）仕訳とは？

取引をいきなり勘定（かんじょう）に記入すると記入間違えをしてしまうかもしれないので、勘定に記入する前に**仕訳**（しわけ）という手続きを行います。**仕訳**とは、取引を借方（かりかた）と貸方（かしかた）に分け、勘定科目（かんじょうかもく）と金額を決める手続きをいいます。

（2）仕訳の手順

① 借方と貸方の簿記の５要素の決定

取引を借方と貸方に分け、簿記の５要素のどれにあてはまるかを決定します。

② 勘定科目の決定

取引を適切に表す具体的な勘定科目を決定します。

③ 金額の決定

各勘定科目の金額を決定します。なお、必ず借方と貸方の金額は一致します。

例えば、「備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

① 借方と貸方の簿記の５要素の決定

備品という資産が増加（借方）し、現金という資産が減少（貸方）しました。

② 勘定科目の決定

備品は「備品」勘定（資産）、現金は「現金」勘定（資産）を用います。

③ 金額の決定

借方と貸方ともに、1,000円です。

したがって、仕訳は以下のようになります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
備　　　　品	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

簡略版として、以下のように仕訳が示される場合もあります。

備　　　　品　　1,000 /　現　　　　金　　1,000

例題２－１　**現金3,000円を元手として、開業した。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、元手（もとで）は純資産の増加（貸方＝右側）として「**資本金**（しほんきん）」勘定（純資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**3,000**	**資　本　金**	**3,000**

例題２－２　**現金2,000円を銀行から借り入れた。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、借入金（かりいれきん）という負債が増加（貸方＝右側）しましたので「**借入金**」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**2,000**	**借　入　金**	**2,000**

例題２－３　**借入金の利息400円を現金で支払った。**

現金という資産が減少（貸方＝右側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の減少として処理します。また、支払利息（しはらいりそく）という費用が増加（借方＝左側）しましたので「**支払利息**」勘定（費用）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
支　払　利　息	**400**	**現　　　金**	**400**

例題２－４　**販売に関する手数料として、700円の現金を受け取った。**

現金という資産が増加（借方＝左側）しましたので、「**現金**」勘定（資産）の増加として処理します。また、受取手数料（うけとりてすうりょう）という収益が増加（貸方＝右側）しましたので、「**受取手数料**」勘定（収益）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**700**	**受　取　手　数　料**	**700**

Point!　勘定科目は新しく出てきた都度、覚えていきましょう！

２－２　転記

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　転記のルールをマスターしよう！

②　貸借平均の原理の内容を理解しよう！

（１）転記とは？

仕訳のデータを各勘定へ記入することを**転記**といいます。

仕　訳 ──転　記──→ 勘　定

（２）転記のルール

① 借方に仕訳された勘定科目はその勘定の借方に記入し、貸方に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方に記入します。

② 日付欄には、仕訳が行われた日付（取引日）を記入します。

③ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目（貸借反対側の勘定科目）を記入します。

④ 借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

例えば、「１月１日に備品1,000円を現金で購入した」という取引を考えてみます。

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1	**備　　品**	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

備品が増加したので、備品勘定の借方に記入 ↓ **転記**

転記 ↓ 現金が減少したので、現金勘定の貸方に記入

備　　品

(日付)	(摘　要)	(借　方)	
1/1	**現　金**	**1,000**	

現　　金

	(日付)	(摘　要)	(貸　方)
	1/1	**備　品**	**1,000**

摘要欄に相手勘定科目を記入することによって、勘定のみでも取引内容がわかります。「備品」勘定の摘要欄に「現金」勘定が記入されていることから、備品を「現金」で購入したことがわかります。また、現金勘定の摘要欄に「備品」勘定が記入されていることから、現金が減少したのは「備品」を購入したためであることがわかります。

Point!　慣れるまで、実際に手を動かして、勘定へ転記してみましょう！

例題２－５　**次の仕訳を各勘定に転記しなさい。**

日付		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	1	現金	3,000	資本金	3,000
2	2	現金	2,000	借入金	2,000
3	3	支払利息	300	現金	300
4	4	現金	700	受取手数料	700

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000				
4	4	受取手数料	700				

借　入　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	1	現金	3,000

受取手数料

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				4	4	現金	700

支払利息

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
3	3	現金	300				

（３）貸借平均の原理

仕訳において、借方（左側）と貸方（右側）の金額は必ず一致します。

また、仕訳のデータを各勘定に転記しますが、すべての勘定の借方（左側）に記入された金額の合計金額と貸方（右側）に記入された金額の合計金額も必ず一致します。

さらに、すべての勘定の借方残高の合計金額と貸方残高の合計金額も必ず一致します。これを**貸借平均の原理**といいます。

例題２－５ を用いて説明します。

仕訳は以下のとおりですが、借方合計6,000円と貸方合計6,000円は必ず一致します。

日付		借方科目	金額	貸方科目	金額
1	1	現金	3,000	資本金	3,000
2	2	現金	2,000	借入金	2,000
3	3	支払利息	300	現金	300
4	4	現金	700	受取手数料	700
		借方合計	**6,000**	**貸方合計**	**6,000**

次に、勘定は以下のとおりです（実際の記入の仕方とは違う部分があります）。

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000				
4	4	受取手数料	700				
		借方合計	**5,700**			**貸方合計**	**300**

残高（借方）＝5,700－300＝5,400

借 入 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				2	2	現　　　　　　金	2,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**2,000**

残高（貸方）＝2,000－0＝2,000

資 本 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　　　金	3,000
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**3,000**

残高（貸方）＝3,000－0＝3,000

受取手数料

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				4	4	現　　　　　　金	700
		借方合計	**0**			**貸方合計**	**700**

残高（貸方）＝700－0＝700

支 払 利 息

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	3	現　　　　　　金	300				
		借方合計	**300**			**貸方合計**	**0**

残高（借方）＝300－0＝300

すべての勘定の借方合計6,000円（＝現金5,700円＋支払利息300円）とすべての勘定の貸方合計6,000円（＝現金300円＋借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）は必ず一致します。

また、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝現金5,400円＋支払利息300円）と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円（＝借入金2,000円＋資本金3,000円＋受取手数料700円）も必ず一致します。

２－３　試算表

【重要性：A】

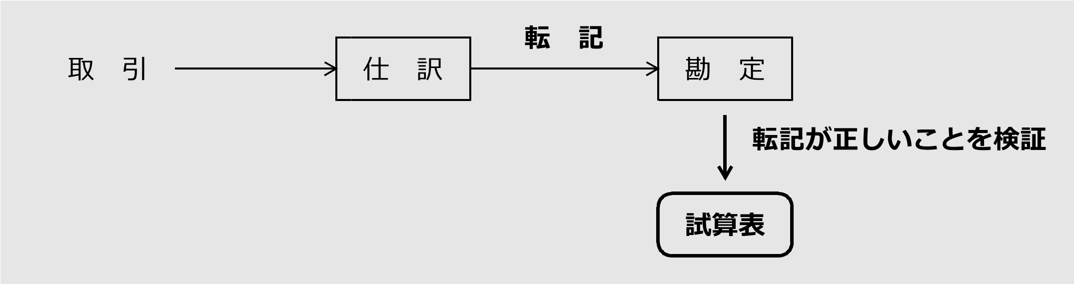
ＰＯＩＮＴ！

残高試算表と合計試算表の違いを理解しよう！

（１）試算表とは？

取引が発生したら仕訳を行い、各勘定に転記します。しかし、転記が間違って行われる可能性があります。そこで、仕訳のデータが各勘定へ正しく転記されたかを検証するために、**試算表**を作成します。試算表は各勘定の金額を集計した表であり、借方合計と貸方合計が一致すること（**貸借平均の原理**）により、転記が正しいことを検証します。試算表は英語で Trial Balance というので、**T/B（ティービー）**と略します。

また、試算表を作成することで、損益計算書と貸 借 対 照 表を作成しやすくすることができます（この点については［３－３］で学習します）。



（２）試算表の種類

試算表には、各勘定の貸借の**合計金額**を集計した**合計試算表**と、各勘定の**残高**を集計した**残高試算表**があります。

例題２－６　次の勘定に基づいて、①合計試算表、②残高試算表を作成しなさい（ **例題２－５** と同じ数値です）。

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受　取　手　数　料	700				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				2	2	現　金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　金	3,000

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	4	現　金	700

支 払 利 息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　金	300				

①　合計試算表

貸借平均の原理によって、すべての勘定の借方合計6,000円とすべての勘定の貸方合計6,000円は必ず一致しますので、合計試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

合　計　試　算　表

借　方	勘　定　科　目	貸　方
5,700	現　金	300
	借　入　金	2,000
	資　本　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
6,000		6,000

② 残高試算表

貸借平均の原理により、借方に残高がある勘定の残高合計5,700円と貸方に残高がある勘定の残高合計5,700円も必ず一致しますので、残高試算表で貸借が一致することで転記の正確性を検証します。

残 高 試 算 表

借　方	勘 定 科 目	貸　方
5,400	現　　金	
	借 入 金	2,000
	資 本 金	3,000
	受取手数料	700
300	支払利息	
5,700		5,700

第２章　簿記の基礎②　問題

問題2-1　以下の取引について、仕訳を答えなさい。

①　現金100,000円を元手として、開業した。
②　備品3,000円を現金で購入した。
③　受取利息として現金2,000円を受け取った。
④　広告料1,000円を現金で支払った。
⑤　銀行から9,000円を借り入れ、現金を受け取った。
⑥　家賃700円を現金で支払った。
⑦　土地20,000円を現金で購入した。
⑧　給料8,000円を現金で支払った。
⑨　借入金5,000円を現金で返済した。
⑩　受取手数料として現金1,500円を受け取った。

問題2-2　以下の取引について、①仕訳を行い、②各勘定へ転記を行いなさい。

1/1　現金80,000円を元手として、開業した。
1/2　建物11,000円を現金で購入した。
1/3　受取家賃として現金9,000円を受け取った。
1/4　交通費1,000円を現金で支払った。
1/5　銀行から4,000円を借り入れた。

問題2-3　以下の勘定にもとづいて、①合計試算表、②残高試算表を作成しなさい。

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	40,000	1	2	建　物	20,000
	3	受　取　家　賃	5,000		4	水　道　光　熱　費	1,000
	5	借　入　金	7,000				

建　　物

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	2	現　金	20,000				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	5	現　金	7,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　金	40,000

受 取 家 賃

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	3	現　金	5,000

水道光熱費

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	4	現　金	1,000				

第２章　簿記の基礎②　答案用紙

問題2-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

問題2-2

①　仕訳

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
1/1				
1/2				
1/3				
1/4				
1/5				

② 勘定記入

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

建　　物

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

借 入 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

資 本 金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

受取家賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

交 通 費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方

問題2-3

① 合計試算表

合 計 試 算 表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	建 物	
	借 入 金	
	資 本 金	
	受 取 家 賃	
	水 道 光 熱 費	

② 残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	建 物	
	借 入 金	
	資 本 金	
	受 取 家 賃	
	水 道 光 熱 費	

第２章　簿記の基礎②　解答解説

問題2-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	現金	100,000	資本金	100,000
②	備品	3,000	現金	3,000
③	現金	2,000	受取利息	2,000
④	広告料	1,000	現金	1,000
⑤	現金	9,000	借入金	9,000
⑥	支払家賃	700	現金	700
⑦	土地	20,000	現金	20,000
⑧	給料	8,000	現金	8,000
⑨	借入金	5,000	現金	5,000
⑩	現金	1,500	受取手数料	1,500

問題2-1　**解説**

まずは現金が増加したか、減少したかを考えましょう。現金が増加した場合には借方（左側）に、現金が減少した場合には貸方（右側）に記入します。次に現金の相手勘定科目を現金が記入された側の反対側に記入しましょう。

① 元手は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。

② 備品は資産です。「備品」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

③ 受取利息は銀行に預金したことや取引先にお金を貸したことにより受け取った利息（利子）であり、収益です。「受取利息」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

④ 広告料は費用です。「広告料」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑤　銀行から借りたお金は借入金という負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

⑥　支払家賃は費用です。「支払家賃」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑦　土地は資産です。「土地」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑧　給料は費用です。「給料」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

⑨　借入金を返済すると負債が減少します。「借入金」勘定（負債）の減少として、借方（左側）に記入します。

⑩　受取手数料は収益です。「受取手数料」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

問題2-2　**解答**

①　仕訳

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
1/1	**現　金**	**80,000**	**資　本　金**	**80,000**
1/2	**建　物**	**11,000**	**現　金**	**11,000**
1/3	**現　金**	**9,000**	**受　取　家　賃**	**9,000**
1/4	**交　通　費**	**1,000**	**現　金**	**1,000**
1/5	**現　金**	**4,000**	**借　入　金**	**4,000**

②　勘定記入

現　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	80,000	1	2	建　物	11,000
	3	受　取　家　賃	9,000		4	交　通　費	1,000
	5	借　入　金	4,000				

建　物

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	2	現　金	11,000				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	5	現　　　　　金	4,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　　　　金	80,000

受取家賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	3	現　　　　　金	9,000

交　通　費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	4	現　　　　　金	1,000				

問題2-2　**解説**

①　仕訳

1/1　元手は「資本金」勘定（純資産）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/2　建物は資産です。「建物」勘定（資産）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/3　受取家賃は収益です。「受取家賃」勘定（収益）の増加として、貸方（右側）に記入します。

1/4　交通費は費用です。「交通費」勘定（費用）の増加として、借方（左側）に記入します。

1/5　借入金は負債です。「借入金」勘定（負債）の増加として、貸方（右側）に記入します。

②　転記記入

借方に仕訳された勘定科目はその勘定の借方に記入し、貸方に仕訳された勘定科目はその勘定の貸方に記入します。摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入し、借方欄または貸方欄には、仕訳の金額を記入します。

問題2-3 **解答**

① 合計試算表

合 計 試 算 表

借　　方	勘 定 科 目	貸　　方
52,000	現　　　　金	21,000
20,000	建　　　　物	
	借　入　金	7,000
	資　本　金	40,000
	受 取 家 賃	5,000
1,000	水道光熱費	
73,000		73,000

② 残高試算表

残 高 試 算 表

借　　方	勘 定 科 目	貸　　方
31,000	現　　　　金	
20,000	建　　　　物	
	借　入　金	7,000
	資　本　金	40,000
	受 取 家 賃	5,000
1,000	水道光熱費	
52,000		52,000

問題2-3 **解説**

①合計試算表には、各勘定の借方合計金額、貸方合計金額を記入します。単純に、借方に記入されている金額を合計し、貸方に記入されている金額を合計するだけです。

②残高試算表には、各勘定の残高を記入します。各勘定の借方合計と貸方合計を相殺して残高を算定する必要があります。

第３章　簿記の基礎③

３－１　P/LとB/Sのひな形

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

新しく勘定を学習したら、P/LとB/Sのひな形で確認しよう！

新しく勘定科目(かんじょうかもく)を学習したら、それが損益計算書(そんえきけいさんしょ)または貸借対照表(たいしゃくたいしょうひょう)のどこに記載されるかを確認して下さい。なお、勘定科目の記載順番は覚える必要はありません。

損益計算書

2030年1月1日から2030年12月31日まで

売上原価	×××	売上高	×××
給料	×××	受取手数料	×××
広告料	×××	受取家賃	×××
旅費	×××	受取地代	×××
交通費	×××	受取利息	×××
通信費	×××	雑益	×××
消耗品費	×××	有価証券売却益	×××
水道光熱費	×××	固定資産売却益	×××
支払手数料	×××		
支払家賃	×××		
支払地代	×××		
保険料	×××		
発送費	×××		
租税公課	×××		
減価償却費	×××		
修繕費	×××		
貸倒損失	×××		
貸倒引当金繰入	×××		
雑費	×××		
支払利息	×××		
手形売却損	×××		
雑損	×××		
有価証券売却損	×××		
固定資産売却損	×××		
当期純利益	×××		
	×××		×××

貸借対照表

2030年12月31日

現金		×××	支払手形	×××
小口現金		×××	買掛金	×××
当座預金		×××	借入金	×××
普通預金		×××	手形借入金	×××
定期預金		×××	未払金	×××
受取手形	×××		未払消費税	×××
売掛金	×××		前受金	×××
貸倒引当金	×××	×××	仮受金	×××
立替金		×××	預り金	×××
貸付金		×××	商品券	×××
手形貸付金		×××	資本金	×××
未収金		×××	当期純利益	×××
前払金		×××		
仮払金		×××		
有価証券		×××		
商品		×××		
建物		×××		
備品		×××		
車両運搬具		×××		
土地		×××		
		×××		×××

３－２　当期純利益の算定

【重要性：A】

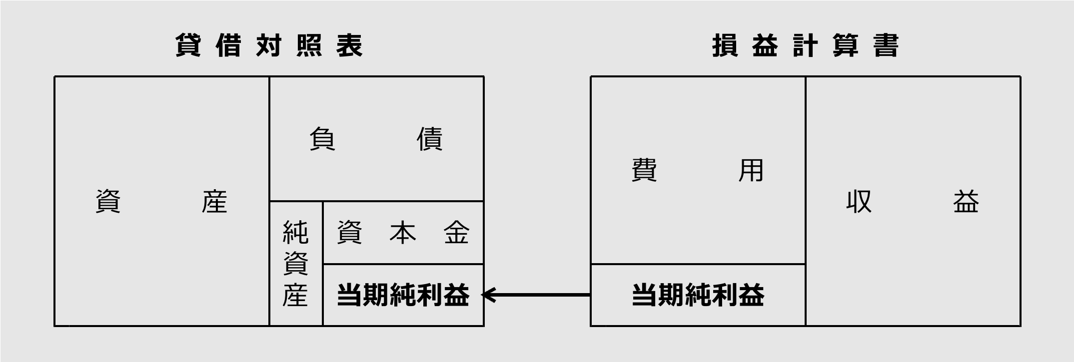
ＰＯＩＮＴ！

当期純利益の算定式を覚えよう！

損益計算書では、収益から費用を差し引いて**利益**を算定します。その利益は当期の１年間で獲得した純額の利益ですので損益計算書において**当期純利益**として表示されます。

収益　－　費用　＝　当期純利益

この当期純利益は、貸借対照表において**純資産**に**当期純利益**として計上されます。



３－３　P/L・B/Sの作成

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

勘定残高とP/L・B/Sの関係をマスターしよう！

（１）勘定残高からP/L・B/Sの作成

各勘定の残高をもとに損益計算書（そんえきけいさんしょ）・貸借対照表（たいしゃくたいしょうひょう）を作成します。

仕　訳 ―（転　記）→ **勘　定** → **P/L・B/S**

勘定から損益計算書・貸借対照表を作成する場合も転記と同様に行います。つまり、**借方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**借方**に記載し、**貸方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**貸方**に記載します。通常、資産（しさん）・費用（ひよう）は借方残高に、負債（ふさい）・純資産（じゅんしさん）・収益（しゅうえき）は貸方残高になります。

例題３－１　**次の勘定に基づいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**
（ 例題２－６ と同じ数値です）

現　　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	資　本　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　入　金	2,000				
4	4	受 取 手 数 料	700				

借　入　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				2	2	現　金	2,000

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現　金	3,000

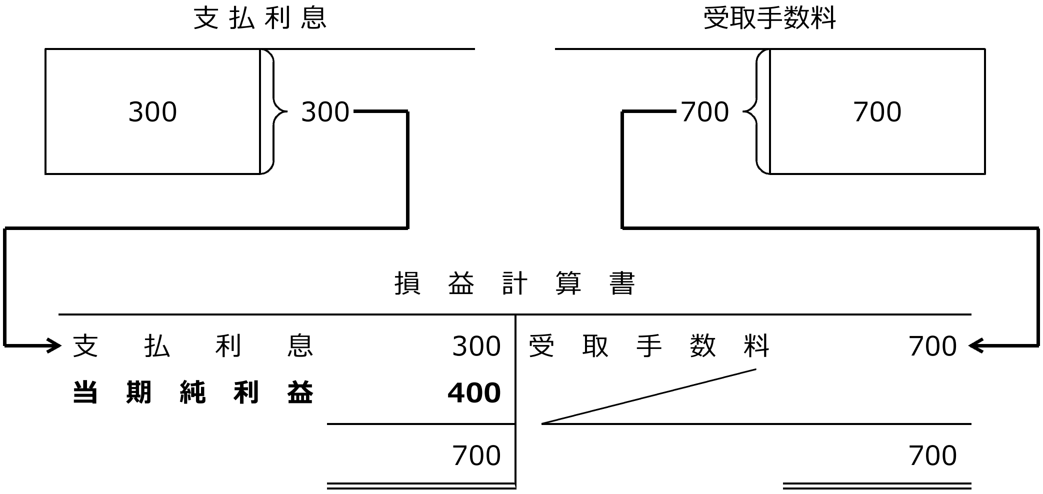
受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				4	4	現　金	700

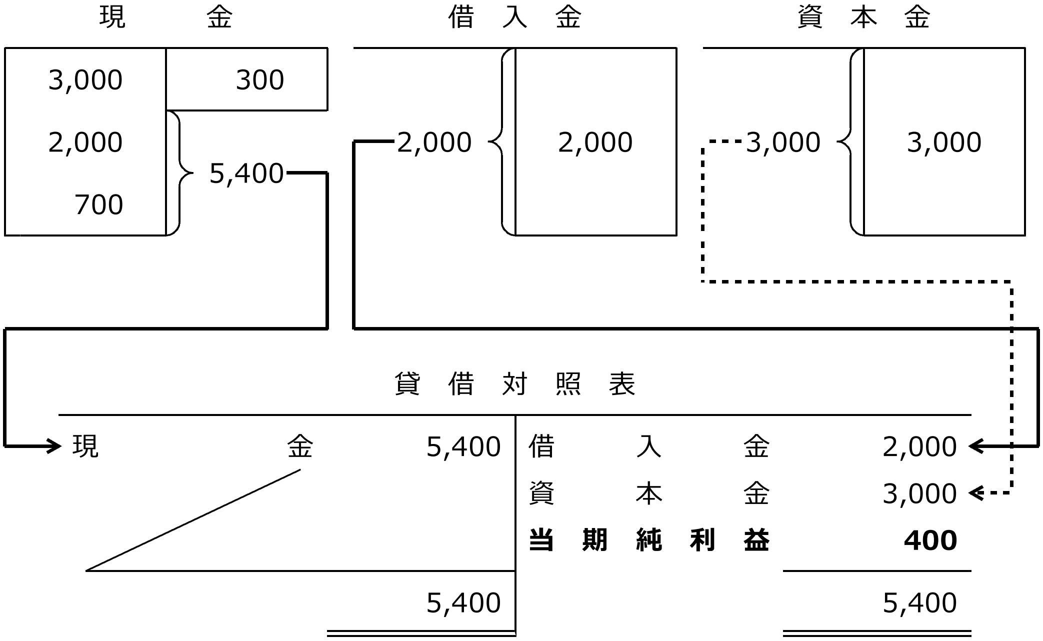
支 払 利 息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　金	300				

各勘定の残高を算定し、収益・費用は損益計算書へ、資産・負債・純資産は貸借対照表へ記載します。イメージしやすいように各勘定残高とP/L・B/Sの関係を示すと、以下のようになります。



当期純利益は**収益－費用**で算定します。



損益計算書で算定した当期純利益は貸借対照表では**純資産**として貸方に計上します。

（2）残高試算表からP/L・B/Sの作成

ざんだかしさんひょう
残高試算表をもとにして、損益計算書・貸借対照表を作成することもできます。その作成方法は勘定残高の場合と同様に、**借方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**借方**に記載し、**貸方残高**の勘定は損益計算書または貸借対照表の**貸方**に記載します。

例題３－２　**次の残高試算表に基づいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**
（ 例題３－１ と同じ数値です）

残　高　試　算　表

借　方	勘 定 科 目	貸　方
5,400	現　　金	
	借　入　金	2,000
	資　本　金	3,000
	受 取 手 数 料	700
300	支 払 利 息	
5,700		5,700

損　益　計　算　書

支　払　利　息	300	受　取　手　数　料	700
当　期　純　利　益	400		
	700		700

当期純利益は**収益－費用**で算定します。

貸　借　対　照　表

現　　金	5,400	借　入　金	2,000
		資　本　金	3,000
		当　期　純　利　益	400
	5,400		5,400

損益計算書で算定した当期純利益は貸借対照表では**純資産**として貸方に計上します。

Point!　P/LとB/Sが当期純利益でつながっていることを理解しましょう！

３－４　主要簿と補助簿

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

帳簿の種類を覚えよう！

（１）仕訳帳と総勘定元帳

仕訳を記入する帳簿を**仕訳帳**（しわけちょう）といいます。また、各勘定を記入する帳簿を**総勘定元帳**（そうかんじょうもとちょう）（単に、**元帳**（もとちょう）という場合もあります）といいます。仕訳帳は仕訳を行うノート、総勘定元帳は各勘定が集まったノートをイメージして下さい。

取　引　――仕　訳→　**仕　訳　帳**　――転　記→　**総勘定元帳**

仕訳帳と総勘定元帳のひな形を以下に示しますが、具体的な記入方法は［15－１］で学習します。

仕　訳　帳

4

日付		摘　　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	(現　　　金)	1	10,000	
		(資　本　金)	7		10,000
		元入れして開業した			

総 勘 定 元 帳

現　　金　　1

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
1	1	資　本　金	4	10,000					

資　本　金　　7

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
					1	1	現　　　金	4	10,000

（2）主要簿と補助簿

仕訳帳と**総勘定元帳**は損益計算書と貸借対照表を作成するために、必ず必要な帳簿ですので**主要簿**といわれます。

また、お店や会社は必要に応じて主要簿以外の帳簿を使う場合があります。特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**という帳簿を使用します。なお、補助簿は**補助記入帳**と**補助元帳**に分けられます。

補助記入帳とは、特定の取引の明細を記録する補助簿をいいます。補助元帳とは、特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する補助簿をいいます。

例えば、以下のものがあります。

- **主　要　簿**　仕訳帳、総勘定元帳：［15－１］で学習します。
- **補　助　簿**
  - **補助記入帳** …
    - 現金出納帳：［16－１］で学習します。
    - 小口現金出納帳：［５－３、16－３］で学習します。
    - 当座預金出納帳：［16－２］で学習します。
    - 売上帳：［15－５］で学習します。
    - 仕入帳：［15－６］で学習します。
    - 受取手形記入帳：［16－４］で学習します。
    - 支払手形記入帳：［16－５］で学習します。
  - **補助元帳** …
    - 売掛金元帳：［15－３］で学習します。
    - 買掛金元帳：［15－４］で学習します。
    - 商品有高帳：［16－６］で学習します。

３－５　簿記一巡

【重要性：A】

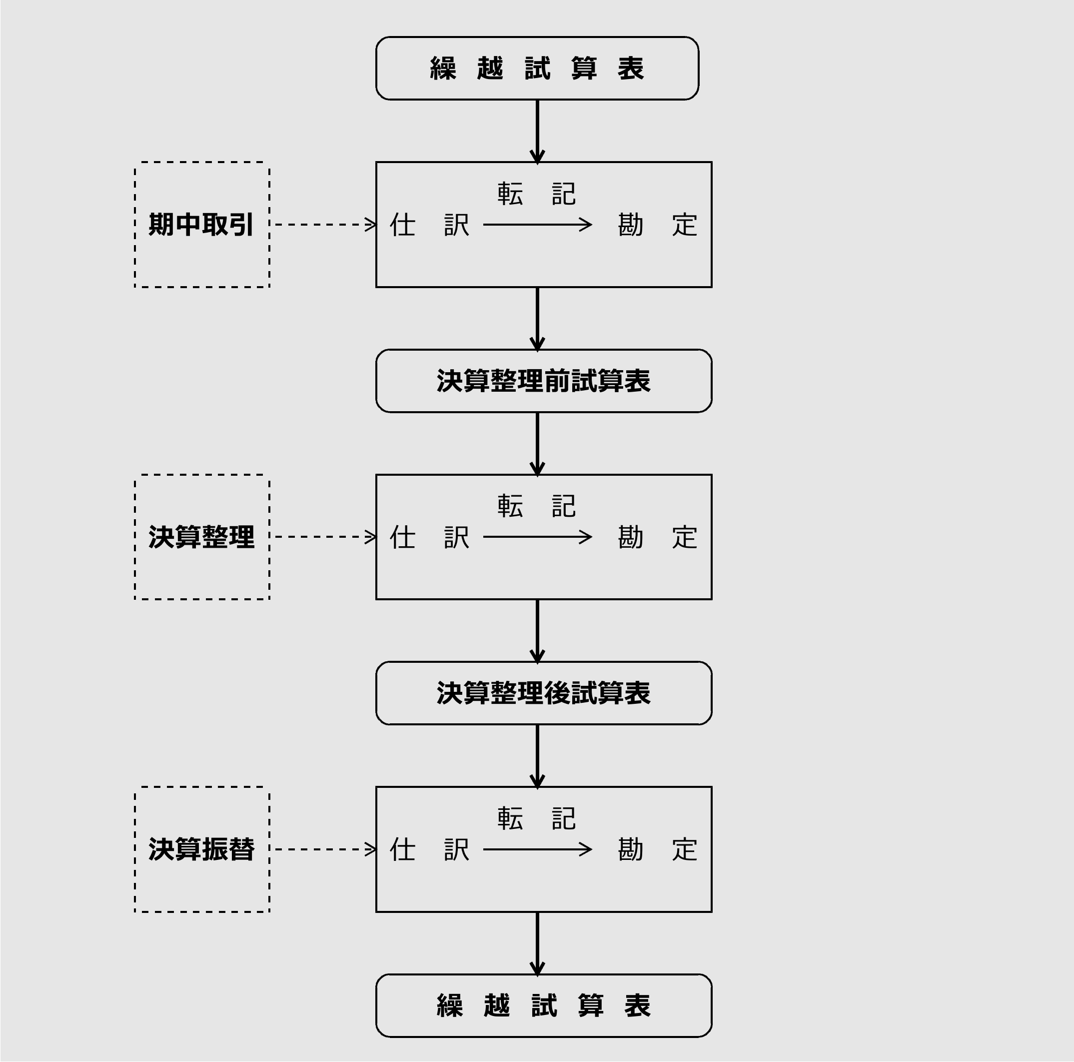
ＰＯＩＮＴ！

①　簿記一巡をイメージできるようにしよう！

②　決算整理をイメージできるようにしよう！

（1）簿記一巡

簿記の手続きには、①期中取引、②決算整理、③決算振替があります。それら一会計期間に行う簿記の手続きを**簿記一巡**といいます。簿記一巡を図で示すと以下のようになります。



これまで日々の取引について仕訳を行ってきましたが、それは①期中取引に該当します。ここでは、②決算整理について説明します。

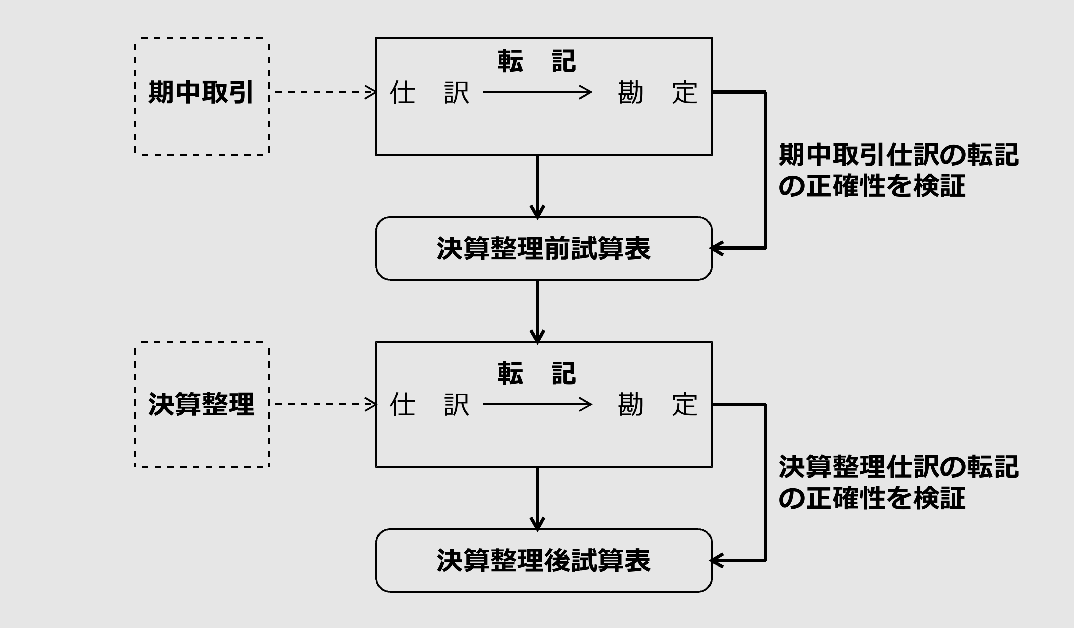
なお、③決算振替については第18章で学習します。なお、これからの学習において、処理している仕訳が期中取引仕訳なのか、決算整理仕訳なのかをしっかり区別することが大切です。

（2）決算整理

決算とは、経営成績や財政状態を明らかにするため、必要な処理を行い、帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成するという一連の手続きをいいます。

その中でも、期中取引が正しく行われていても当期の経営成績や財政状態を正しく表すために、必要な修正を行うことを**決算整理**といい、決算整理に関する仕訳を**決算整理仕訳**といいます。

決算作業に入る前に、期中取引仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理前試算表（前T/B）**といいます。また、決算整理仕訳が行われた後に、決算整理仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理後試算表（後T/B）**といいます。



決算整理としては、例えば以下のものがあります。

・売上原価の算定：［４－１］で学習します。
・固定資産の減価償却：［８－２］で学習します。
・現金過不足の処理：［12－２］で学習します。
・貸倒引当金の設定：［13－２］で学習します。
・引出金の整理：［14－２］で学習します。

Point!　前T/Bと後T/Bの違いを理解しましょう！

第３章　簿記の基礎③　問題

問題3-1　以下の勘定にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

現　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	40,000	1	2	建物	20,000
	3	受取家賃	5,000		4	水道光熱費	1,000
	5	借入金	7,000				

建　物

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	2	現金	20,000				

借入金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	5	現金	7,000

資本金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	1	現金	40,000

受取家賃

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
				1	3	現金	5,000

水道光熱費

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	4	現金	1,000				

問題3-2 以下の合計試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

合 計 試 算 表

借 方	勘定科目	貸 方
74,000	現 金	69,000
40,000	建 物	11,000
30,000	土 地	
6,000	借 入 金	25,000
	資 本 金	40,000
3,000	受 取 家 賃	12,000
4,500	旅 費 交 通 費	500
157,500		157,500

第３章　簿記の基礎③　答案用紙

問題3-1

損　益　計　算　書

水道光熱費	（　　）	受取家賃	（　　）
当期純利益	（　　）		
	（　　）		（　　）

貸　借　対　照　表

現金	（　　）	借入金	（　　）
建物	（　　）	資本金	（　　）
		当期純利益	（　　）
	（　　）		（　　）

問題3-2

損　益　計　算　書

旅費交通費	（　　）	受取家賃	（　　）
当期純利益	（　　）		
	（　　）		（　　）

貸　借　対　照　表

現金	（　　）	借入金	（　　）
建物	（　　）	資本金	（　　）
土地	（　　）	当期純利益	（　　）
	（　　）		（　　）

第３章　簿記の基礎③　解答解説

問題3-1　**解答**

損　益　計　算　書

水道光熱費	(1,000)	受取家賃	(5,000)
当期純利益	(4,000)		
	(5,000)		(5,000)

貸　借　対　照　表

現金	(31,000)	借入金	(7,000)
建物	(20,000)	資本金	(40,000)
		当期純利益	(4,000)
	(51,000)		(51,000)

問題3-1　**解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、現金は31,000（＝40,000＋5,000＋7,000－20,000－1,000）として表示します。

当期純利益は収益5,000－費用1,000の差額（＝4,000）として算定します。

問題3-2　**解答**

損　益　計　算　書

旅費交通費	(4,000)	受取家賃	(9,000)
当期純利益	(5,000)		
	(9,000)		(9,000)

貸　借　対　照　表

現金	(5,000)	借入金	(19,000)
建物	(29,000)	資本金	(40,000)
土地	(30,000)	当期純利益	(5,000)
	(64,000)		(64,000)

問題3-2　**解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、各勘定の表示される金額は以下となります。

現　　金：74,000－69,000＝5,000
建　　物：40,000－11,000＝29,000
借 入 金：25,000－6,000＝19,000
受取家賃：12,000－3,000＝9,000
旅費交通費：4,500－500＝4,000

当期純利益は収益9,000－費用4,000の差額（＝5,000）として算定します。

第４章　商品売買①

４－１　三分法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　三分法の仕訳をマスターしよう！

②　前T/B・後T/Bにおけるそれぞれの勘定の意味を理解しよう！

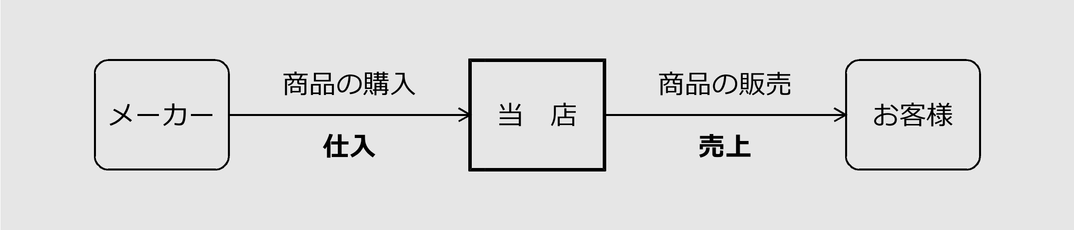
主な勘定科目

「繰越商品」勘定（資産）

「仕入」勘定（費用）

「売上」勘定（収益）

全商簿記３級では、他の会社やお店が製造した商品を仕入れて、外部に販売することを前提としています（このような簿記を**商業簿記**（しょうぎょうぼき）といいます）。ここでは、商品を仕入れ、外部に販売するという商品の売買取引の処理方法を学習します。



（１）三分法

三分法（さんぶんほう）とは、商品売買取引を「**繰越商品**（くりこししょうひん）」勘定（**資産**）、「**仕入**（しいれ）」勘定（**費用**）、「**売上**（うりあげ）」勘定（**収益**）の３つの勘定を用いて仕訳する方法です。

商品売買取引については、［17－３］で学習する分記法（ぶんきほう）という方法もありますが、問題文に特に指示がない場合には三分法で処理して下さい。

（２）売上高

売上高（うりあげだか）とは、商品を販売したことによる**収益**であり、「**売上**」勘定（収益）で処理します。

（３）売上原価

売上原価（うりあげげんか）とは、販売した商品の購入代金（こうにゅうだいきん）（これを**取得原価**（しゅとくげんか）といいます）をいい、**費用**の科目です。売上原価は、当期に仕入れた（購入した）商品の金額ではなく、当期に売り上げた（販売した）商品の購入代金です。売上原価は以下の式で算定します。

売上原価　＝　期首の商品在庫(期首商品棚卸高（きしゅしょうひんたなおろしだか）)　＋　当期商品仕入高
－　期末の商品在庫(期末商品棚卸高（きまつしょうひんたなおろしだか）)

（４）期首商品がない場合

例題４－１ **@100円の商品10個を仕入れ、代金1,000円は現金で支払った。そのうち、８個を@120円で販売し、代金960円は現金で受け取った。その結果、当期末に商品200円（@100円、２個）が在庫として残っている。**

① ボックス図

商品売買について、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　　品

期首商品	0	売上原価	∴ 800
当期仕入	1,000	期末商品	200

② 仕入時（期中取引）

商品を購入すると資産である商品が増加しますが、この商品は販売することを目的として購入した資産であり、これを販売すると売上という収益を獲得する犠牲である**費用**に変わります。そこで、三分法では販売することを想定して、商品購入時に資産でなく**費用**である「**仕入**」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　　　入	**1,000**	**現　　　金**	**1,000**

③ 売上時（期中取引）

商品を販売した時には「**売上**」勘定（収益）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　金	**960**	**売　　　上**	**960**

④ 決算整理前残高試算表

扱う論点に着目してもらうために、以下の決算整理前残高試算表は扱う論点に関係のある勘定科目のみを示しています。この場合、借方合計と貸方合計は一致していませんが、あくまでも一部のみを示していますので注意して下さい。

決算整理前残高試算表（一部）

仕　　　入	1,000	売　　　上	960

⑤　決算整理（売上原価の算定）

前T/Bでは「仕入」勘定（費用）の金額は当期に仕入れた10個分の1,000円となっています。しかし、そのうち２個は期末に在庫として残っており、費用とはなりません。費用とすべき金額は販売した商品の購入金額である800円（＝@100円×８個）です。また、期末在庫200円（＝@100円×２個）は資産としての価値がありますので、資産として計上すべきです。

そこで、決算にあたり、期末商品の金額を「仕入」勘定（費用）から差し引くとともに、「**繰越商品**」勘定（資産）に計上します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰　越　商　品	**200**	**仕　　　入**	**200**

⑥　決算整理後残高試算表

決算整理を行うことによって、決算整理後の「仕入」勘定（費用）は売上原価800円となります。また、「繰越商品」勘定（資産）は期末商品200円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　　上	960
仕　　　入	800		

後T/B 仕入：前T/B 1,000－期末商品200＝売上原価800

⑦　損益計算書・貸借対照表における表示

損益計算書において「売上」勘定（収益）は「**売上高**」として、「仕入」勘定（費用）は「**売上原価**」として表示されます。また、貸借対照表において「繰越商品」勘定（資産）は「**商品**」として表示されます。

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	800	売　上　高	960

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　品	200		

（５）期首商品がある場合

例題４－２　**期首に商品200円（@100円、２個）があった。@100円の商品11個を仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、３個）が在庫として残っている。**

①　ボックス図

商　　　品

期首商品	200	売上原価	∴ 1,000
当期仕入	1,100	期末商品	300

②　繰越試算表

繰越試算表（くりこししさんひょう）とは、決算において次期に繰り越される資産、負債、純資産の各勘定の残高を集計した試算表です。繰越試算表は、前期から繰り越された資産、負債、純資産の各勘定の残高を集計した試算表です。ここでは繰越商品が前期から200円繰り越されてきたことがわかればよいです。なお、詳しくは［18－３］で学習します。

繰　越　試　算　表（一部）

繰　越　商　品	200		

③　仕入時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**1,100**	**現　　　　金**	**1,100**

④　売上時（期中取引）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**1,200**	**売　　　　上**	**1,200**

⑤　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　　　上	1,200
仕　　　　入	1,100		

⑥　決算整理（売上原価の算定）

・期首商品

売上原価を算定するため、期首商品を「繰越商品」勘定（資産）から「**仕入**」勘定（費用）に振り替えます。期首商品が当期にすべて売れたと仮定するとよいでしょう。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　　入	**200**	**繰　越　商　品**	**200**

・期末商品

売上原価を算定するため、期末商品を「仕入」勘定（費用）から「**繰越商品**」勘定（資産）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰　越　商　品	**300**	**仕　　　　　入**	**300**

⑦　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

繰　越　商　品	300	売　　　　上	1,200
仕　　　　　入	1,000		

後T/B 仕入：前T/B 1,100＋期首商品200－期末商品300＝売上原価1,000

⑧　損益計算書・貸借対照表における表示

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	1,000	売　　上　　高	1,200

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　　　品	300		

（6）まとめ　三分法

①　売上原価の算定の仕訳（決算整理仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　　　　　入	**×××**	**繰　越　商　品**	**×××**
繰　越　商　品	**×××**	**仕　　　　　入**	**×××**

Point!　「仕入/繰商、繰商/仕入」または「し・くり・くり・し」と覚えましょう！
（しいれくりしょう　くりしょうしいれ）

②　前T/B・後T/Bにおける各勘定の意味

決算整理仕訳を行うと、「繰越商品」勘定（資産）と「仕入」勘定（費用）の金額が、決算整理前残高試算表（前T/B）と決算整理後残高試算表（後T/B）で異なります。

「繰越商品」勘定（資産）は決算整理前残高試算表（前T/B）においては**期首商品**の金額を表しますが、決算整理後残高試算表（後T/B）では**期末商品**の金額を表します。また、「仕入」勘定（費用）は決算整理前残高試算表（前T/B）においては当期に仕入れた商品（**当期仕入**）の金額を表しますが、決算整理前残高試算表（前T/B）では**売上原価**の金額を表します。

	決算整理前残高試算表	決算整理後残高試算表
繰越商品勘定	**期首商品**	**期末商品**
仕　入　勘　定	**当期仕入**	**売上原価**
売　上　勘　定	**売　上　高**	

４－２　売掛金・買掛金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　売掛金・買掛金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「売掛金」勘定（資産）

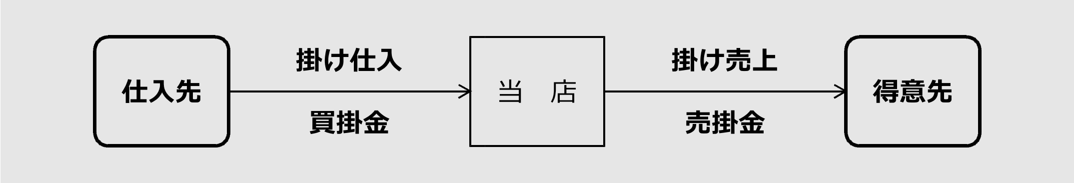
「買掛金」勘定（負債）

（1）売掛金・買掛金とは？

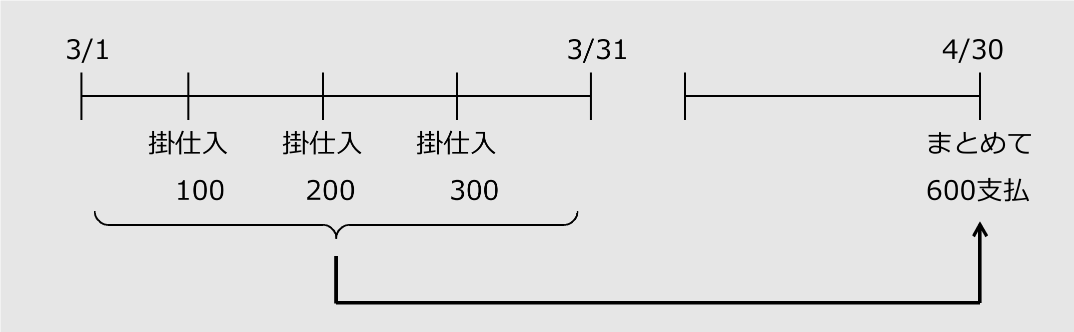
売掛金とは、商品の販売代金を売上時には受け取らず、後日に販売代金を受け取る権利をいい、「**売掛金**」勘定（**資産**）で処理します。

買掛金とは、商品の購入代金を仕入時には支払わず、後日に購入代金を支払う義務をいい、「**買掛金**」勘定（**負債**）で処理します。

なお、仕入を行う取引先を**仕入先**、販売を行う取引先を**得意先**といいます。



このように、取引時に代金の支払や受取をせず、後日に代金の支払や受取を行う取引を**掛け**による取引といいます。これにより、取引の都度お金を用意する必要がなくなります。「月末締め、翌月末払い」といった取引条件は、取引の都度支払を行わずに１ヶ月間の取引高を合計して、取引月の翌月にまとめて支払うことですので、掛けによる取引を意味します。



（２）買掛金の処理

① 掛仕入時

買掛金という、後日代金を支払う義務（負債）が生じたので「買掛金」勘定（負債）の増加として処理します。

例題４－３　商品1,000円を掛けで仕入れた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**買掛金**	**1,000**

② 買掛金支払時

代金を支払うと買掛金という負債が減少するので「買掛金」勘定（負債）の減少として処理します。

例題４－４　買掛金1,000円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**1,000**	**現金**	**1,000**

（３）売掛金の処理

① 掛売上時

売掛金という、後日代金を受け取る権利（資産）が生じたので「売掛金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題４－５　商品を1,200円で掛けで売り上げた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,200**	**売上**	**1,200**

② 売掛金回収時

代金を受け取ると売掛金という資産が減少するので「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題４－６　売掛金1,200円を現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,200**	**売掛金**	**1,200**

４－３　前払金・前受金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　前払金・前受金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「前払金」勘定（資産）

「前受金」勘定（負債）

（１）前払金・前受金とは？

商品を仕入れる前に代金の一部を内金や手付金として支払う場合があります。これを**前払金**（まえばらいきん）といいます。この場合、後日、商品を受け取る権利が生じますので、これを「**前払金**」勘定（**資産**）で処理します。

商品を販売する前に代金の一部を内金や手付金として受け取る場合があります。これを**前受金**（まえうけきん）といいます。この場合、後日、商品を引き渡す義務が生じますので、これを「**前受金**」勘定（**負債**）で処理します。

（２）前払金の処理

① 仕入代金の内金の支払時

前払金という資産が増加したので「前払金」勘定（資産）の増加として処理します。なお、仕入代金の一部を支払っていますが、仕入を認識するのは商品購入時ですので、注意して下さい。

例題４－７　**商品800円を注文し、内金として200円を現金で支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払金	**200**	**現金**	**200**

② 仕入時（内金の充当）

実際に商品を仕入れたので、前払金という商品を受け取る権利（資産）が減少したので「前払金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題４－８　**商品800円を仕入れ、代金のうち200円は注文時に支払った内金と相殺し、残額600円は掛けとした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**800**	**前払金**	**200**
		買掛金	**600**

（３）前受金の処理

①　売上代金の内金の受取時

前受金という負債が増加したので「前受金」勘定（負債）の増加として処理します。なお、売上代金の一部を受け取っていますが、売上を認識するのは商品販売時ですので、注意して下さい。

例題４－９　商品800円の注文を受け、内金として200円を現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**200**	**前受金**	**200**

②　売上時（内金の充当）

実際に商品を販売したので、前受金という商品を引き渡す義務（負債）が減少したため「前受金」勘定（負債）の減少として処理します。

例題４－10　商品800円を売り上げ、代金のうち200円は注文時に受け取った内金と相殺し、残額600円は掛けとした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前受金	**200**	**売上**	**800**
売掛金	**600**		

第４章　商品売買①　問題

問題4-1　**期末商品は2,000円であった。そこで、①決算整理仕訳を行うとともに、②仕入勘定と繰越商品勘定を記入（勘定の締切りは不要）し、③決算整理後残高試算表の空欄にあてはまる金額を答えなさい。なお、決算日は12月31日である。**

決算整理前残高試算表（一部）

繰　越　商　品	1,500	売　　　　上	16,000
仕　　　　入	13,000		

問題4-2　**以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。**

①　商品4,000円を仕入れ、代金のうち1,000円は現金で支払い、残額は掛けとした。
②　商品を6,000円で売り渡し、代金のうち1,500円は現金で受け取り、残額は掛けとした。
③　商品3,000円を注文し、手付金として500円を現金で支払った。
④　商品仕入の掛け代金3,000円を現金で支払った。
⑤　商品4,200円を仕入れ、代金のうち500円は手付金として支払っていたので、残額を現金で支払った。
⑥　商品4,800円の注文を受け、内金として1,200円を現金で受け取った。
⑦　商品売上の掛け代金4,500円を現金で受け取った。
⑧　商品4,800円を販売し、代金のうち1,200円は内金として受け取っていたので相殺し、残額を現金で受け取った。

第４章　商品売買①　答案用紙

問題4-1

①　決算整理仕訳

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
12/31				
〃				

②　勘定記入

繰越商品

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	前期繰越	1,500				

仕　入

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
8	8	現　金	13,000				

③　決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表

繰越商品（　　　）	売上（　　　）
仕入（　　　）	

問題4-2

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

第４章　商品売買①　解答解説

問題4-1　**解答**

①　決算整理仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
12/31	**仕入**	**1,500**	**繰越商品**	**1,500**
〃	**繰越商品**	**2,000**	**仕入**	**2,000**

②　勘定記入

繰越商品

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	前期繰越	1,500	12	31	仕入	1,500
12	31	仕入	2,000				

仕入

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
8	8	現金	13,000	12	31	繰越商品	2,000
12	31	繰越商品	1,500				

③　決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表

繰越商品	(2,000)	売上	(16,000)
仕入	(12,500)		

問題4-1 **解説**

・勘定記入

　決算整理仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。

・後T/B

　「繰越商品」は期末商品を意味し、「仕入」勘定は売上原価を意味します。

商　　品

借方		貸方	
期首商品	1,500	売上原価	12,500
当期仕入	13,000	期末商品	2,000

問題4-2 **解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	4,000	現金	1,000
			買掛金	3,000
②	現金	1,500	売上	6,000
	売掛金	4,500		
③	前払金	500	現金	500
④	買掛金	3,000	現金	3,000
⑤	仕入	4,200	前払金	500
			現金	3,700
⑥	現金	1,200	前受金	1,200
⑦	現金	4,500	売掛金	4,500
⑧	前受金	1,200	売上	4,800
	現金	3,600		

問題4-2　**解説**

①　商品を掛けで仕入れた場合、「買掛金」勘定（負債）で処理します。

②　商品を掛けで売り上げた場合、「売掛金」勘定（資産）で処理します。

③　商品を仕入れる前に代金の一部を内金や手付金として前払いした場合、「前払金」勘定（資産）で処理します。

④　仕入に関する掛け代金を支払った場合、「買掛金」勘定（負債）の減少として処理します。

⑤　前払金として以前に支払っており、実際に仕入れた場合、「前払金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥　商品を販売する前に代金の一部を内金や手付金として前受けした場合、「前受金」勘定（負債）で処理します。

⑦　売上に関する掛代金を受け取った場合、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧　前受金として以前に支払っており、実際に売り上げた場合、「前受金」勘定（負債）の減少として処理します。

第５章　現金預金①

５－１　当座預金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　**当座預金の内容を理解しよう！**

②　**小切手がどのようなものか理解しよう！**

③　**発生と消滅の仕訳をマスターしよう！**

主な勘定科目

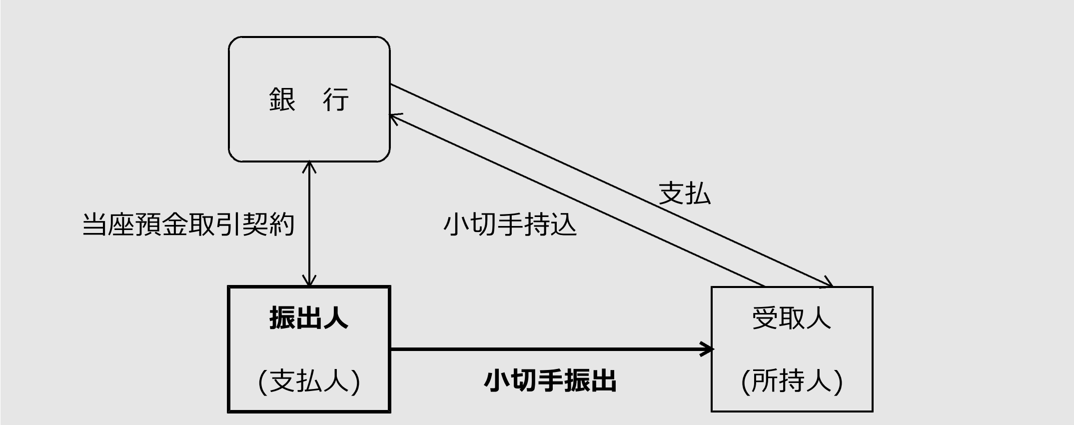
「当座預金」勘定（資産）

（1）当座預金とは？

預金には普通預金、定期預金など様々な種類がありますが、全商簿記３級において重要なのは、**当座預金**です。

当座預金は決済用の預金といわれ、利息が付かない点と預金を引き出すときに**小切手**を使用する点が特徴です。当座預金については「**当座預金**」勘定（**資産**）で処理します。

小切手とは、振出人（支払人）が小切手に記載されている金額を受取人（小切手所持人）に支払うことを約束する証券です。小切手を振り出した人がお金を支払い、小切手を受け取った人は小切手を指定の金融機関でお金に換えることができます。また、小切手を受け取った人はその小切手を支払手段として他人に渡すこともできます。



（2）当座預金の処理

① 当座預金口座に預け入れた時

当座預金口座に現金を預け入れた場合、当座預金という資産が増加するので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－１　**現金1,000円を当座預金口座に預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

② 小切手の振出

小切手の振出時にはまだ実際の銀行の当座預金口座から預金が減少していませんが、後日、小切手が持ち込まれたら当座預金口座から引き落とされるので、あらかじめ当座預金という資産を減少させておくため「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－２　Ａ商店から商品200円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　　入	**200**	**当　座　預　金**	**200**

③ 小切手の決済

小切手を振り出した時に「当座預金」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳は行いません。

例題５－３　当店振出小切手200円が銀行に持ち込まれ、銀行はＡ商店に支払った。

仕訳なし

④ 自動引き落とし

当座預金という資産が減少しますので「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－４　水道代100円が当座預金口座から引き落とされた。

水道代は「水道光熱費（すいどうこうねつひ）」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
水　道　光　熱　費	**100**	**当　座　預　金**	**100**

５－２　現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「簿記上の現金」の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

（１）簿記上の現金

一般に現金とは硬貨及び紙幣という通貨（つうか）を指しますが、簿記上は金融機関ですぐに換金できるもの（**通貨代用証券**（つうかだいようしょうけん）といいます）も「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。通貨代用証券には様々なものがありますが、ここでは、他人振出小切手（たにんふりだしこぎって）を学習します。

（２）他人振出小切手の処理

他人が振り出した小切手を受け取った場合、銀行に持ち込めばすぐに換金できます。そこで、簿記上は他人振出小切手を「**現金**」勘定（**資産**）で処理します。

① 他人振出小切手を受け取った場合

現金という資産が増加しますので、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－５　**商品2,000円を売り上げ、代金はＡ商店振出小切手を受け取った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　金	**2,000**	**売　　　上**	**2,000**

② 受け取った小切手を当座預金口座に預け入れた場合

当座預金という資産が増加しますので「当座預金」勘定（資産）の増加として処理し、また、現金という資産が減少しますので「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－６　**昨日受け取ったＡ商店振出小切手2,000円を当座預金に預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当　座　預　金	**2,000**	**現　　　金**	**2,000**

③　他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合

他人振出小切手を受け取り（現金の増加）、直ちに当座預金に預け入れた（現金の減少）場合、現金の増加及び現金の減少として処理しないで、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題５－７　**商品2,000円を売り上げ、代金はＡ商店振出小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**2,000**	**売　　　　上**	**2,000**

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

現　　　　金	2,000	/	売　　　　上	2,000
当　座　預　金	2,000	/	現　　　　金	2,000

④　他人振出小切手を支払手段として他人に渡した場合

他人振出小切手を受け取った時は「現金」勘定（資産）の増加として処理しますので、他人振出小切手を他人に渡して減少した場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題５－８　**Ｂ商店から商品2,000円を仕入れ、代金はＡ商店振出小切手で支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**2,000**	**現　　　　金**	**2,000**

<小切手の処理のまとめ>

①　小切手の振出　＝　当座預金の減少

②　他人振出小切手の受取　＝　現金の増加

③　他人振出小切手の受取　＋　直ちに当座預金に預入　＝　当座預金の増加

④　他人振出小切手の譲渡　＝　現金の減少

５－３　小口現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「小口現金」勘定（資産）

（１）小口現金とは？

会社では文房具を購入するなど日常業務で発生する少額の支払に備えて、各部署に少額の現金を用意しておき､この現金で支払を行うことがあります。この少額の現金を**小口現金**といいます。小口現金は「**小口現金**」勘定（**資産**）で処理します。

前渡する金額を一定とする**定額資金前渡制度**（**インプレスト・システム**ともいいます）と必要に応じて随時補給する制度がありますが、通常は、定額資金前渡制度が採用されます。

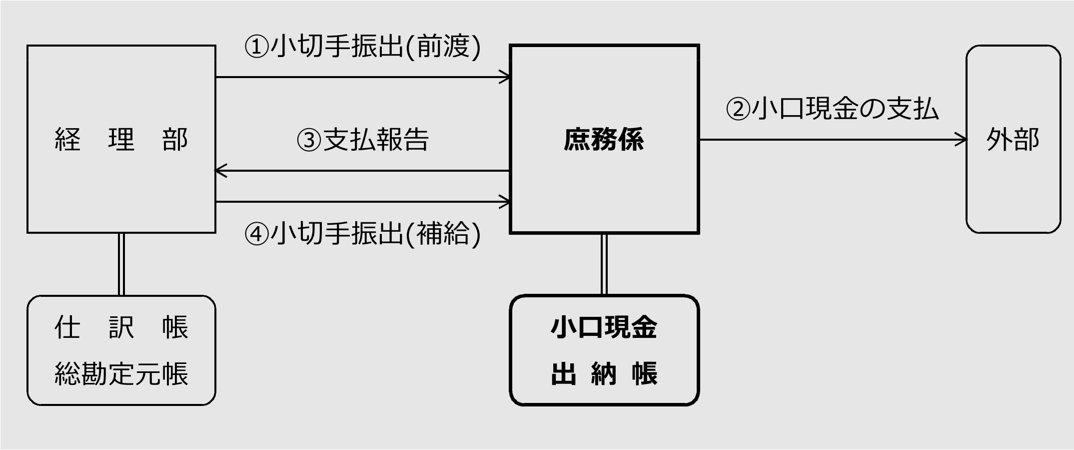
定額資金前渡制度は以下の流れで行われます。

① 経理部（または会計係）は庶務係（または、小口現金係、用度係、小払係）に少額の金額を渡します。

② 庶務係は日常の少額の諸経費を小口現金から支払います。そして、その支払明細を**小口現金出納帳**に記入します。なお、小口現金出納帳は小口現金の支払明細を記帳する補助簿（補助記入帳）です。

③ 一定期間ごとに庶務係は経理部に支払報告を行い、それに伴って経理部は仕訳を行います。仕訳を行うのは、庶務係でなく経理部なので注意して下さい。

④ 経理部は庶務係に小口現金を補給します。



① 小口現金の前渡

例題５－９　**１月１日 小口現金2,000円を小切手を振り出して庶務係に前渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**2,000**	**当座預金**	**2,000**

② 小口現金の支払

例題５－10　庶務係は１月９日に電車代300円、１月15日に切手代150円、１月21日にお茶菓子代100円、１月25日に切手代50円を小口現金で支払った。

庶務係が諸経費を小口現金で支払っても、経理部は報告を受けていないので、仕訳は行いません（仕訳を行うのは経理部です）。庶務係は小口現金の使用明細を以下のように小口現金出納帳に記入します（記入の仕方は［16－３］で学習します）。

小 口 現 金 出 納 帳

受　入	日　付		摘　　要	支　払	内訳		
					交通費	通信費	雑　費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合　計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			
2,000	2	1	前月繰越				

③ 小口現金の支払報告

例題５－11　庶務係から１月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子代100円）を受けた。

経理部は庶務係からの支払報告に基づき、使用した分は適切な勘定で処理します。また小口現金という資産が減少したので「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。なお、電車代は「交通費（または、旅費交通費）」勘定（費用）、切手代は「通信費」勘定（費用）、お茶菓子代は「雑費（ざつひ）」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
交 通 費	**300**	**小 口 現 金**	**600**
通 信 費	**200**		
雑 費	**100**		

④　小口現金の補給

例題５－12　**１月31日 小口現金を補給するため庶務係へ600円の小切手を振り出した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**600**	**当座預金**	**600**

⑤　小口現金の支払報告を受け、直ちに小口現金を補給した場合

例題５－13　**庶務係から１月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子100円）を受け、直ちに小切手600円を振り出して小口現金を補給した。**

支払報告を受けたと同時に小切手を振り出して補給した場合、小口現金の減少と小口現金の増加が同額であるため、「小口現金」勘定（資産）を用いずに処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
交通費	**300**	**当座預金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

交通費	300	小口現金	600
通信費	200		
雑費	100		
小口現金	600	当座預金	600

（２）小口現金で使われる勘定科目

小口現金の主な支払内容と勘定科目は以下のとおりです。

勘定科目	支払内容
交通費	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代など
通信費	切手代、はがき代、電話代など
水道光熱費	水道代、電気代、ガス代など
消耗品費（しょうもうひんひ）	文房具代、コピー用紙など
雑　費	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目

第５章　現金預金①　問題

問題5-1　以下の取引に関して、(1)仕訳を行いなさい。また、(2)当座預金勘定への転記を行いなさい。なお、日付は省略すること。

① 当座預金口座を開設し、現金80,000円を預け入れた。
② 広告料2,000円の支払いのために、小切手を振り出した。
③ 商品40,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取った。
④ 商品30,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取り、直ちに当座預金口座へ預け入れた。
⑤ 商品25,000円を仕入れ、代金は得意先振出の小切手で支払った。
⑥ 商品50,000円を売り上げ、代金は送金小切手を受け取った。
⑦ 小口現金係から今月の支払報告（交通費1,000円、通信費1,500円、雑費400円）を受けた。
⑧ 小口現金を補給するために、小口現金係へ2,900円の小切手を振り出した。

第５章　現金預金①　答案用紙

問題5-1

(1) 仕訳

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

(2) 当座預金勘定の記入

当 座 預 金

日付	摘　要	借　方	日付	摘　要	貸　方
省略			省略		

第５章　現金預金①　解答解説

問題5-1　**解答**

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	80,000	現金	80,000
②	広告料	2,000	当座預金	2,000
③	現金	40,000	売上	40,000
④	当座預金	30,000	売上	30,000
⑤	仕入	25,000	現金	25,000
⑥	現金	50,000	売上	50,000
⑦	交通費	1,000	小口現金	2,900
	通信費	1,500		
	雑費	400		
⑧	小口現金	2,900	当座預金	2,900

(2) 当座預金勘定の記入

当座預金

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
省略	現金	80,000	省略	広告料	2,000
	売上	30,000		小口現金	2,900

問題5-1 **解説**

(1) 仕訳

① 当座預金口座に預け入れた場合、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

② 小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

③ 他人振出小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

④ 他人振出小切手を受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた場合、厳密には「現金」勘定（資産）の増加及び減少となりますが、その処理を省略し、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑤ 他人振出小切手を支払手段に用いた場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥ 送金小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑦ 小口現金係から小口現金の支払報告を受けたときに、「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧ 小口現金を補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。

(2) 当座預金勘定の記入

仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。

第６章　手　形

６－１　約束手形

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　約束手形の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「受取手形」勘定（資産）

「支払手形」勘定（負債）

（1）手形

手形とは、一定の日に一定の金額を支払うために取り交わした証券です。手形には法律上、**約束手形**と**為替手形**があります。なお、為替手形は出題頻度が乏しいため、試験対策で説明します。

簿記上は、手形債権の受取人であれば将来、金銭を受け取る権利があるため「**受取手形**」勘定（**資産**）で処理します。また、手形債務の支払人であれば将来、金銭を支払う義務があるため「**支払手形**」勘定（**負債**）で処理します。

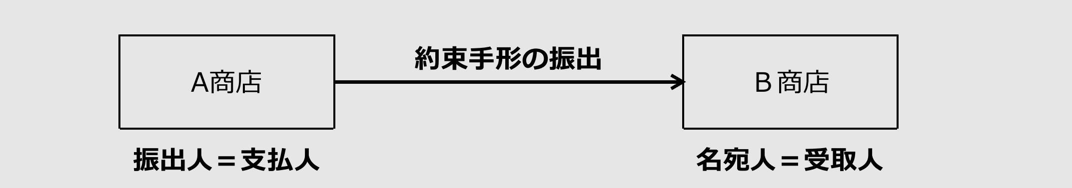
手形債権の**受取人**　→　「**受取手形**」勘定で処理
手形債務の**支払人**　→　「**支払手形**」勘定で処理

（２）約束手形

約束手形とは、振出人（支払人）が名宛人（約束手形の宛名の人で、受取人）に対して満期日（または支払日）に手形金額（または額面金額）を支払うことを約束する証券です。簡略化した約束手形の見本は次のとおりです。

> **約　束　手　形**
>
> Ｂ　商　店　殿
>
> 金額 1,000,000円
>
> 支払期日 2030年×月×日
>
> 上記金額をあなたへこの約束手形と引換えに**お支払いいたします。**
>
> 振出日2030年×月×日
>
> 振出人　A商店

したがって、振出人は支払人なので「**支払手形**」勘定で処理し、名宛人は受取人なので「**受取手形**」勘定で処理します。



①　振出人（A商店）

・約束手形の振出時

約束手形を振り出すと、満期日に手形金額を支払う義務が生じますので「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。

例題６－１　**Ｂ商店から商品2,000円を仕入れ、代金は約束手形を振り出した。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　入	**2,000**	**支　払　手　形**	**2,000**

・手形の満期日到来時（手形代金の支払時）

満期日に手形金額を支払うと支払手形という負債が減少しますので「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

例題６－２　**約束手形2,000円の満期が到来したため、代金を当座により支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
支　払　手　形	**2,000**	**当　座　預　金**	**2,000**

② 名宛人（B商店）

・約束手形の受取時

約束手形を受け取ると、満期日に手形金額を受け取る権利が生じますので「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

例題６－３　A商店へ商品2,000円を売り上げ、代金は約束手形を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	**2,000**	**売上**	**2,000**

・手形の満期日到来時（手形代金の受取時）

満期日に手形金額を受け取ると受取手形という資産が減少しますので「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

例題６－４　約束手形2,000円の満期が到来し、代金を受け取り当座に預け入れた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**受取手形**	**2,000**

６－２　手形の裏書

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

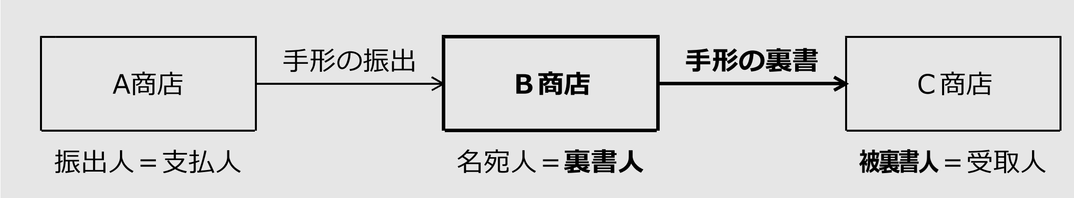
①　「手形の裏書」の内容を理解しよう！

②　裏書時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「受取手形」勘定（資産）

手形の所持人は支払期日の前に、支払手段として手形を第三者に譲渡することができます。この際、手形の裏面に必要な事項を記入することから、**手形の裏書（裏書譲渡）**といいます。持っていた手形を譲渡しますので、**「受取手形」**勘定（**資産**）を減少させます。



① 手形を裏書した場合（裏書人Ｂ商店）

手形の裏書を行うと、所持していた手形が減少するので手形債権が減少します。したがって、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

例題６－５　Ｃ商店から商品2,000円を仕入れ、代金は手許にあるＡ商店振出約束手形を裏書譲渡した。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**2,000**	**受　取　手　形**	**2,000**

② 裏書した手形の満期日（裏書人Ｂ商店）

手形の裏書時に「受取手形」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳はありません。

例題６－６　裏書譲渡した手形2,000円の満期日が到来し、無事決済された。

仕訳なし

③ 裏書された手形を受け取った場合（被裏書人＝受取人Ｃ商店）

手形を受け取ると手形債権が増加しますので、通常の手形の受取と同様に「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

例題６－７　Ｂ商店に商品2,000円を売り上げ、代金はＡ店振出約束手形を裏書譲渡された。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
受　取　手　形	**2,000**	**売　　　　上**	**2,000**

６－３　手形の割引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「手形の割引」の内容を理解しよう！

②　割引時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「受取手形」勘定（資産）

「手形売却損」勘定（費用）

手形の所持人は支払期日の前に、銀行等に手形を買い取ってもらうことができます。これを**手形の割引**（わりびき）といいます。この際、銀行等に**割引料**（わりびきりょう）を支払います。これは銀行等が手形金額を受け取るのは満期日であるので、割引料は割引を行った日から満期日までの**利息相当額**（りそくそうとうがく）ということができます。割引料を支払うので、割引により受け取る金額は手形金額より少なくなります。

手形の裏書と同様に、持っていた手形を譲渡しますので、「**受取手形**」勘定（**資産**）を減少させます。また、割引料は手形を売却したと考え、「**手形売却損**」（てがたばいきゃくそん）勘定（**費用**）で処理します。

①　手形を割引した場合（Ｂ商店）

手形の割引を行うと、所持していた手形が減少するので手形債権が減少します。したがって、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。また、割引料は「手形売却損」勘定（費用）の増加として処理します。

例題６－８　**手形2,000円を割り引き、割引料100円が差し引かれた1,900円を当座に預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**1,900**	**受　取　手　形**	**2,000**
手　形　売　却　損	**100**		

②　割引した手形の満期日（Ｂ商店）

手形の割引時に「受取手形」勘定（資産）を減少させていますので、仕訳はありません。

例題６－９　**割り引いた手形2,000円の満期日が到来し、無事決済された。**

仕訳なし

第６章　手　形　問題

問題6-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　商品30,000円を仕入れ、代金は約束手形を振り出して支払った。

②　商品を40,000円で売り上げ、代金は約束手形で受け取った。

③　所有している約束手形50,000円の満期日が到来し、代金は当座預金に預け入れた。

④　商品45,000円を仕入れ、代金は所有する得意先振出の約束手形で支払った。

⑤　所有する約束手形60,000円を銀行で割り引き、割引料1,000円を差し引かれた残額を当座預金に預け入れた。

⑥　振り出した約束手形30,000円の満期日が到来し、代金を当座預金により支払った。

第６章　手　形　答案用紙

問題6-1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

第6章　手　形　解答解説

問題6-1　解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	30,000	支払手形	30,000
②	受取手形	40,000	売上	40,000
③	当座預金	50,000	受取手形	50,000
④	仕入	45,000	受取手形	45,000
⑤	当座預金 手形売却損	59,000 1,000	受取手形	60,000
⑥	支払手形	30,000	当座預金	30,000

問題6-1 **解説**

① 約束手形を振り出した場合、「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。

② 約束手形を受け取った場合、「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。

③ 保有している約束手形の代金を受け取った場合、「受取払手形」勘定（資産）の減少として処理します。

④ 他人振出の約束手形で支払ったというのは、手形の裏書譲渡を意味します。したがって、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

⑤ 手形を割り引いた場合、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。また、割引料については「手形売却損」勘定（費用）で処理します。

⑥ 振り出した約束手形の代金を支払った場合、「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

第７章　有価証券

７－１　取得

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　有価証券の内容を理解しよう！

②　取得時の仕訳をマスターしよう！

③　付随費用に注意しよう！

主な勘定科目

「有価証券」勘定（資産）

（１）有価証券とは？

有価証券（ゆうかしょうけん）とは、株式会社が発行する株式（かぶしき）や社債（しゃさい）、国が発行する国債（こくさい）、地方公共団体が発行する地方債（ちほうさい）などをいいます。なお、国債、地方債、社債をあわせて**公社債**（こうしゃさい）といいます。また、株式は１株、２株と数えるのに対して、公社債は１口（くち）、２口（くち）と数えます。

有価証券は様々な目的で取得しますが、全商簿記３級においては、売買目的で保有する場合を学習します。売買目的の有価証券は「**有価証券**」勘定（**資産**）で処理します。

（２）取得

有価証券を購入した場合、支払った金額（**取得原価**（しゅとくげんか）といいます）で「**有価証券**」勘定（**資産**）の増加として処理します。

取得原価は、有価証券の購入金額（**購入代価**（こうにゅうだいか）といいます）に証券会社等に支払った買入手数料（有価証券の購入に付随する費用なので、これを**付随費用**（ふずいひよう）といいます）の合計額となります。

取得原価　＝　購入代価　＋　付随費用

①　株式の場合

株式を購入した場合、１株あたりの購入代価（株価）に購入株式数を乗じて購入代価を算定します。

取得原価　＝　１株あたりの購入代価　×　購入株式数　＋　付随費用

例題７－１　**売買目的でA社株式10株を１株あたり150円で購入し、代金は購入手数料100円とともに現金で支払った。**

有価証券という資産が増加するので「有価証券」勘定（資産）の増加として処理します。取得原価は@150円×10株＋付随費用100円＝1,600円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**1,600**	**現金**	**1,600**

② 公社債の場合

公社債を購入した場合、１口あたりの購入代価に購入口数を乗じて購入代価を算定します。なお、購入口数は購入した額面総額を１口あたりの額面金額で割ることにより算定します。

取得原価 ＝ １口あたりの購入代価 × 購入口数 ＋ 付随費用

購入口数 ＝ 購入額面総額 ÷ １口あたりの額面金額

例題７－２ **売買目的でB社社債額面総額30,000円（額面100円につき96円）で購入し、代金は買入手数料50円とともに現金で支払った。**

有価証券という資産が増加するので、「有価証券」勘定（資産）の増加として処理します。購入口数は、額面総額30,000円÷額面100円＝300口、取得原価は@96円×300口＋付随費用50円＝28,850円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**28,850**	**現金**	**28,850**

７－２　売却

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

売却時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「有価証券」勘定（資産）

「有価証券売却益」勘定（収益）

「有価証券売却損」勘定（費用）

有価証券（株式及び公社債）を売却した場合、有価証券という資産が減少するので「**有価証券**」勘定（**資産**）の減少として処理します。

取得原価より高く売却した場合は、取得原価と売却価額の差額を「**有価証券売却益**（ゆうかしょうけんばいきゃくえき）」勘定（**収益**）として処理します。また、取得原価より安く売却した場合は、取得原価と売却価額の差額を「**有価証券売却損**（ゆうかしょうけんばいきゃくそん）」勘定（**費用**）として処理します。

取得原価 ＜ 売却価額（**高く売却**） → 有価証券売却**益**
取得原価 ＞ 売却価額（**安く売却**） → 有価証券売却**損**

① 帳簿価額より高く売却した場合

有価証券という資産が減少するので、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。取得原価より高く売却していますので、売却価額と取得原価の差額は「有価証券売却益」勘定（収益）の増加として処理します。

例題７－３　以前に取得したＡ社株式10株（売買目的、取得原価1,600円）を１株あたり200円で売却し、代金は現金で受け取った。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**2,000**	**有　価　証　券**	**1,600**
		有価証券売却益	**400**

現金：@200×10株＝売却価額2,000

② 帳簿価額より安く売却した場合

有価証券という資産が減少するので、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。取得原価より安く売却していますので、取得原価と売却価額と差額は「有価証券売却損」勘定（費用）の増加として処理します。

例題７－４　以前に取得したＢ社社債額面総額10,000円（売買目的、100口、取得原価9,700円）を額面100円につき95円で売却し、代金は現金で受け取った。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　金	**9,500**	**有　価　証　券**	**9,700**
有価証券売却損	**200**		

現金：@95×100口株＝売却価額9,500

第７章　有価証券　問題

問題7-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　X社株式50株を１株あたり2,000円で購入し、代金は購入手数料1,500円とともに小切手を振り出して支払った。

②　①で取得したX社株式のうち、30株を１株あたり2,010円で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。

③　Y社社債（額面400,000円）を額面100円につき96円で購入し、代金は購入手数料4,000円とともに小切手を振り出して支払った。

④　③で取得したY社社債のうち額面300,000円を額面100円につき99円で売却し、代金は小切手で受け取った。

第７章　有価証券　答案用紙

問題7-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				

第７章　有価証券　解答解説

問題7-1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	有価証券	101,500	当座預金	101,500
②	当座預金	60,300	有価証券	60,900
	有価証券売却損	600		
③	有価証券	388,000	当座預金	388,000
④	現金	297,000	有価証券	291,000
			有価証券売却益	6,000

問題7-1　**解説**

①　取得原価：@2,000×50株＋付随費用1,500＝101,500
　　有価証券を取得した場合、「有価証券」勘定（資産）で処理します。

②　１株あたりの取得原価：101,500÷50株＝@2,030
　　売却したX社株式30株の取得原価：@2,030×30株＝60,900
　　売却価額：@2,010×30株＝60,300
　　有価証券売却損：取得原価60,900－売却価額60,300＝600

③　取得口数：額面400,000÷額面100＝4,000口
　　取得原価：@96×4,000口＋購入手数料4,000＝388,000

④　１口あたりの取得原価：388,000÷4,000口＝@97
　　売却したY社社債額面300,000の口数：額面300,000÷額面100＝3,000口
　　売却したY社社債額面300,000の取得原価：@97×3,000口＝291,000
　　売却価額：@99×3,000口＝297,000
　　有価証券売却益：売却価額297,000－取得原価291,000＝6,000

第８章　固定資産

８－１　取得

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　固定資産の内容を理解しよう！

②　取得時の仕訳をマスターしよう！

③　付随費用に注意しよう！

主な勘定科目

「建物」勘定（資産）

「備品」勘定（資産）

「車両運搬具」勘定（資産）

「土地」勘定（資産）

（1）固定資産とは？

固定資産（こていしさん）とは、お店や会社が活動するために長期間使用するために保有する資産です。具体的には、建物、備品、車両運搬具（しゃりょううんぱんぐ）、土地などがあります。

勘定科目	内容
建物	本社ビル、店舗、事務所、倉庫
備品	机、いす、パソコン、棚
車両運搬具	配送用トラック、営業用車両
土地	建物の敷地

（2）取得

固定資産を購入した場合、**取得原価**（しゅとくげんか）で「建物」「備品」「車両運搬具」「土地」勘定（**資産**）などの該当する勘定の増加として処理します。取得原価は、有価証券と同様に、購入金額（**購入代価**（こうにゅうだいか））に仲介手数料、登記料、据付費（すえつけひ）（設置費用）、引取運賃、買入手数料（購入手数料）、登録手数料、整地費用などの**付随費用**（ふずいひよう）を加算した金額となります。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題８－１　建物100,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。また、不動産会社へ仲介手数料2,000円を現金で支払った。

建物という資産が増加するので「建物」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**102,000**	**当座預金**	**100,000**
		現金	**2,000**

建物：購入代価100,000＋付随費用2,000＝取得原価102,000

８－２　減価償却（定額法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　減価償却の内容を理解しよう！

②　減価償却の計算方法をマスターしよう！

（１）減価償却

固定資産を使用することで収益の獲得に貢献します。土地以外の固定資産は使用することや時の経過によって価値が減少していきます。そこで、決算において価値の減少分だけ固定資産の帳簿価額を減少させるとともに、同額を費用として計上します。この手続きを**減価償却**（げんかしょうきゃく）といいます。減価償却によって計上する費用は「**減価償却費**（げんかしょうきゃくひ）」勘定（**費用**）で処理します。

減価償却は土地以外の固定資産の取得原価を、それを使用する期間に費用として配分する手続きです。なお、土地は減価償却を行いません。

（２）減価償却の３要素

減価償却は固定資産の**取得原価**（しゅとくげんか）、**耐用年数**（たいようねんすう）、**残存価額**（ざんそんかがく）の３つの要素を使って計算します。

取得原価とは、固定資産の取得に要した支出額です。耐用年数とは、固定資産の利用可能年数です。残存価額とは、固定資産を耐用年数まで使用した後に残っている価値です。なお、残存価額はゼロの場合もあります。

減価償却は、取得原価から残存価額を差し引いた金額を耐用年数にわたって、各期に費用として配分する手続きです。

（３）定額法

減価償却方法には様々な方法がありますが、全商簿記３級では**定額法**（ていがくほう）が出題されます。

① 計算式

定額法とは、固定資産の耐用期間中、毎期同額の減価償却費を計上する方法です。したがって、１年あたりの減価償却費は同じとなります。

１年あたりの減価償却費 ＝ (取得原価 － 残存価額) ÷ 耐用年数

全商簿記３級では「残存価額がゼロ」という出題が多いのですが、その場合、以下の式で減価償却費を算定します。

１年あたりの減価償却費 ＝ 取得原価 ÷ 耐用年数

「残存価額は取得原価の10%」の場合には、以下の式で減価償却費を算定します。

１年あたりの減価償却費 ＝ 取得原価 × 0.9 ÷ 耐用年数

例題８－２　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額ゼロ、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。**

取得原価120,000÷耐用年数30年＝4,000

例題８－３　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。**

(取得原価120,000－残存価額120,000×0.1)÷耐用年数30年

＝取得原価120,000×0.9÷耐用年数30年＝3,600

②　期中取得

前期以前に取得した固定資産や期首に取得した固定資産は１年間使用していますので、１年分の減価償却費を計上します。

期中に取得した固定資産については、１年間使用していませんので、使用期間に応じて**月割計算**して減価償却費を計上します。

減価償却費　＝　(取得原価　－　残存価額)　÷　耐用年数　÷　12ヶ月　×　使用月数

例題８－４　**当期４月１日に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額はゼロ、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却費を計算しなさい。決算日は12月31日である。**

(取得原価120,000－残存価額０)÷耐用年数30年÷12ヶ月×９ヶ月

＝取得原価120,000÷耐用年数30年÷12ヶ月×９ヶ月＝3,000

８－３　記帳方法（直接法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　直接法の内容を理解しよう！

②　減価償却の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「減価償却費」勘定（費用）

減価償却の記帳方法(きちょうほうほう)には直接法(ちょくせつほう)と間接法(かんせつほう)がありますが、全商簿記３級では**直接法**が出題されます。なお、減価償却費は原則として、**決算整理**で計上します。

直接法とは、減価償却費を固定資産の金額から直接減額する方法です。直接法で記帳する場合、固定資産の各勘定の金額は、取得原価から過去の減価償却をマイナスした金額となります。仕訳は以下となります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
減　価　償　却　費	×××	**固　　定　　資　　産**	×××

例題８－５　**当期首に取得した建物（取得原価120,000円、残存価額ゼロ、耐用年数30年、定額法）について、当期の減価償却の仕訳を答えなさい（例題８－２と同じ数値です）。**

「減価償却費」勘定（費用）の増加として処理するとともに「建物」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
減　価　償　却　費	**4,000**	**建　　　　　　物**	**4,000**

減価償却費：(取得原価120,000－残存価額０)÷耐用年数30年＝4,000

８－４　売却

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

売却時の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「固定資産売却益」勘定（収益）

「固定資産売却損」勘定（費用）

固定資産を売却した場合、固定資産という資産が減少するので、具体的な「固定資産」勘定（資産）の減少として処理します。

売却時の帳簿価額（ちょうぼかがく）より高く売却した場合は、売却時の帳簿価額と売却価額の差額を「**固定資産売却益**（こていしさんばいきゃくえき）」勘定（**収益**）として処理します。また、売却時の帳簿価額より安く売却した場合は、売却時の帳簿価額と売却価額の差額を「**固定資産売却損**（こていしさんばいきゃくそん）」勘定（**費用**）として処理します。

取得原価 ＜ 売却価額（**高く売却**） → 固定資産売却**益**（収益）
取得原価 ＞ 売却価額（**安く売却**） → 固定資産売却**損**（費用）

① 帳簿価額より高く売却した場合

備品という資産が減少するので、売却時の帳簿価額を「備品」勘定（資産）から減少させます。また、売却時の帳簿価額より高く売却していますので、売却価額と売却時の帳簿価額との差額は「固定資産売却益」勘定（収益）の増加として処理します。

例題８－６　備品（帳簿価額6,000円）を6,300円で売却し、代金は小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**6,300**	**備品**	**6,000**
		固定資産売却益	**300**

② 帳簿価額より安く売却した場合

備品という資産が減少するので、売却時の帳簿価額を「備品」勘定（資産）から減少させます。また、売却時の帳簿価額より安く売却していますので、売却時の帳簿価額と売却価額との差額は「固定資産売却損」勘定（費用）の増加として処理します。

例題８－７　備品（帳簿価額6,000円）を5,500円で売却し、代金は小切手で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**5,500**	**備品**	**6,000**
固定資産売却損	**500**		

第８章　固定資産　問題

問題8-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。なお、決算日は12月31日であり、減価償却の記帳方法は直接法を採用している。

・2030年1月1日
　備品845,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。また、引取運賃として5,000円を現金で支払った。
・2030年12月31日（決算日）
　減価償却（定額法、残存価額：取得原価の10%、耐用年数５年）を行う。
・2031年1月1日
　2030年1月1日に取得した備品のうち、取得原価100,000円（帳簿価額82,000円）を70,000円で売却し、代金は現金で受け取った。

問題8-2　以下の取引に関して、直接法を採用している場合における車両勘定への転記を行いなさい。なお、決算日は12月31日である。

1月1日　車両720,000円を購入し、代金は現金で支払った。
12月31日　定額法（残存価額ゼロ、耐用年数6年）により減価償却を行う。

第８章　固定資産　答案用紙

問題8-1

2030年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1				
12/31				

2031年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1				

問題8-2

車　　両

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方

第８章　固定資産　解答解説

問題8-1　**解答**

2030年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	備品	850,000	当座預金	845,000
			現金	5,000
12/31	減価償却費	153,000	備品	153,000

2031年	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/1	現金	70,000	備品	82,000
	固定資産売却損	12,000		

問題8-1　**解説**

2030年1月1日　取得原価：購入代価845,000＋付随費用5,000＝850,000

2030年12月31日　取得原価850,000×0.9÷5年＝153,000

2031年1月1日　固定資産売却損：帳簿価額82,000－売却価額70,000＝12,000

問題8-2 **解答**

車　　　両

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	現　　　金	720,000	12	31	減価償却費	120,000

問題8-2 **解説**

・車両の購入

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
車　　両	**720,000**	**現　　金**	**720,000**

・減価償却費：720,000÷6年＝120,000

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減価償却費	**120,000**	**車　　両**	**120,000**

第９章　その他の取引①

９－１　未収金・未払金

【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　未収金・未払金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未収金」勘定（資産）

「未払金」勘定（負債）

（１）未収金とは？

取引時には代金を受け取らず、後日、一定の日に代金を受け取る場合があります。この後日受け取る代金（権利）は、商品を売り上げた時は「売掛金（うりかけきん）」勘定（資産）で処理しますが、有価証券や固定資産など商品以外の取引は「**未収金**（みしゅうきん）」勘定（**資産**）で処理します。

① 未収金の発生時

後日代金を受け取る権利（資産）が生じ、商品の販売以外の取引であるため「未収金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題９－１　**土地1,000円を1,200円で売却し、代金は月末に受け取ることとした。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収金	**1,200**	**土地**	**1,000**
		固定資産売却益	**200**

② 未収金の回収時

未収金という資産が減少したので、「未収金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題９－２　**月末になり、土地の売却代金1,200円を現金で受け取った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,200**	**未収金**	**1,200**

（2）未払金とは？

取引時には代金を支払わず、後日、一定の日に代金を支払う場合があります。この後日支払う代金（義務）は、商品を仕入れた時は「買掛金（かいかけきん）」勘定（負債）で処理しますが、有価証券や固定資産など商品以外の取引は「**未払金**（みばらいきん）」勘定（**負債**）で処理します。

① 未払金の発生時

後日代金を支払う義務（負債）が生じ、商品の仕入以外の取引であるため「未払金」勘定（負債）の増加として処理します。

例題９－３　土地1,000円を購入し、代金は月末払いとした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
土地	**1,000**	**未払金**	**1,000**

② 未払金の支払時

未払金という負債が減少したので、「未払金」勘定（負債）の減少として処理します。

例題９－４　月末になり、土地の購入代金1,000円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未払金	**1,000**	**現金**	**1,000**

９－２　仮払金・仮受金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仮払金・仮受金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「仮払金」勘定（資産）

「仮受金」勘定（負債）

現金の支払や受取があったが、その内容がわからなかったり、金額や相手勘定科目が決まっていないことがあります。この場合、相手勘定科目や金額が決まるまで一時的に「**仮払金**（かりばらいきん）」勘定（**資産**）や「**仮受金**（かりうけきん）」勘定（**負債**）で処理しておきます。

そして、内容が判明し、金額や相手勘定科目が確定したら、適切な勘定に振り替えます。

（１）仮払金

① 仮払金の支払時

まだ、交通費等の費用の金額が確定していないので、一時的に「仮払金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題９－５ **従業員の出張にあたり、交通費の概算額（がいさんがく）として1,000円を現金で渡した。**

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仮 払 金	**1,000**	**現 金**	**1,000**

② 仮払金の精算

費用の金額が確定したので、「仮払金」勘定（資産）を減少させるとともに、適切な勘定に振り替えます。なお、仮払金があまって現金で返却を受けた場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題９－６ **従業員が出張から戻り、概算額1,000円のうち、交通費として800円を使用したとの報告を受け、残金200円は現金で受け取った。**

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
交 通 費	**800**	**仮 払 金**	**1,000**
現 金	**200**		

（２）仮受金

①　仮受金の発生時

内容が不明であるため、一時的に「仮受金」勘定（負債）の増加として処理します。

例題９－７　**当座預金に1,000円の入金があったが、内容が不明であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**1,000**	**仮　受　金**	**1,000**

②　仮受金の内容判明時

内容が判明したので、「仮受金」勘定（負債）を減少させるとともに、適切な勘定に振り替えます。

例題９－８　**内容不明な入金額1,000円の内容が、売掛金の決済額であることが判明した。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仮　受　金	**1,000**	**売　掛　金**	**1,000**

９－３　立替金・預り金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　立替金・預り金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「立替金」勘定（資産）

「預り金」勘定（負債）

（１）立替金

従業員が支払うべき金額を代わりに立て替えた場合など、金銭を一時的に立替払いする場合があります。これを**立替金**（たてかえきん）といいます。立て替えた金銭は、後日、返してもらう権利が生じますので、「**従業員立替金**（または、**立替金**）」勘定（**資産**）として処理します。

① 立替金の発生時

従業員に対する立替金は、「従業員立替金」勘定（資産）の増加として処理します。

例題９－９　**従業員が負担すべき支出1,000円を現金で立て替えた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
従業員立替金	**1,000**	**現金**	**1,000**

② 立替金の回収時

従業員に対する立替金を回収した場合、「従業員立替金」勘定（資産）の減少として処理します。

例題９－10　**従業員に対する立替金1,000円の返金を現金で受けた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**従業員立替金**	**1,000**

（２）預り金

従業員の給料に対して所得税（しょとくぜい）が課せられますが、従業員に給料を支払う際に、その給料から所得税を天引きし、残額を従業員に支払います。天引きしたお金は従業員に代わって、後日、税務署（ぜいむしょ）に支払います。これを**預り金**（あずかりきん）といいます。預かった金銭は、後日、支払う義務が生じますので、「**所得税預り金**（または、**預り金**、**従業員預り金**）」勘定（**負債**）として処理します。

① 預り金の発生時

所得税の預り金が生じた場合、「所得税預り金」勘定（負債）の増加として処理します。

例題９－11　給料10,000円のうち、所得税500円を差し引いた残額9,500円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
給料	**10,000**	**所得税預り金**	**500**
		現金	**9,500**

② 預り金の支払時

所得税の預り金を支払った場合、「所得税預り金」勘定（負債）の減少として処理します。

例題９－12　税務署に所得税500円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
所得税預り金	**500**	**現金**	**500**

第９章　その他の取引①　問題

問題9-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　A社株式10,000円を購入し、代金は後日、支払うこととした。

②　X社株式10,000円を12,000円で売却し、代金は後日、受け取ることとした。

③　備品250,000円を購入し、代金は翌月末に支払うこととした。なお、当該備品の購入に際して引取費用2,000円が生じたが、現金で支払った。

④　土地77,000円を99,000円で販売し、代金は翌月末に受け取ることとした。

⑤　従業員の出張に際し、旅費の概算額40,000円を現金で支払った。

⑥　⑤の従業員が出張から戻り、旅費の残金として5,000円を現金で受け取った。

⑦　出張中の従業員から当座預金口座に35,000円の入金があったが、このうち25,000円は回収した売掛代金であるが、残額は不明であった。

⑧　⑦の原因不明な入金が得意先から注文を受けた商品100,000円の内金10,000円であることが判明した。

⑨　取引先の旅費4,000円を立替払いし、現金で支払った。

⑩　従業員に対する給料にかかる所得税10,000円を差し引き、手取金190,000円を当座より支払った。

第９章　その他の取引①　答案用紙

問題9-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

第９章　その他の取引①　解答解説

問題9-1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	有価証券	10,000	未払金	10,000
②	未収金	12,000	有価証券	10,000
			有価証券売却益	2,000
③	備品	252,000	未払金	250,000
			現金	2,000
④	未収金	99,000	土地	77,000
			固定資産売却益	22,000
⑤	仮払金	40,000	現金	40,000
⑥	旅費	35,000	仮払金	40,000
	現金	5,000		
⑦	当座預金	35,000	売掛金	25,000
			仮受金	10,000
⑧	仮受金	10,000	前受金	10,000
⑨	立替金	4,000	現金	4,000
⑩	給料	200,000	預り金	10,000
			当座預金	190,000

問題9-1 **解説**

① 商品以外の代金を後日支払う場合には「未払金」勘定（負債）で処理します。

② 商品以外の代金を後日受け取る場合には「未収金」勘定（資産）で処理します。

③ 商品以外の代金を後日支払う場合には「未払金」勘定（負債）で処理します。

④ 商品以外の代金を後日受け取る場合には「未収金」勘定（資産）で処理します。

⑤ 勘定科目や金額が決まっていない支払については「仮払金」勘定（資産）で処理します。

⑥ 勘定科目や金額が確定したら、「仮払金」勘定（資産）から適切な勘定へ振り替えます。

⑦ 勘定科目が不明な入金があった場合、「仮受金」勘定（負債）で処理します。

⑧ 内容が判明したら、「仮受金」勘定（負債）から適切な勘定へ振り替えます。

⑨ 取引先の費用を立て替えた場合、「立替金」勘定（資産）で処理します。

⑩ 従業員の所得税を預かった場合、「預り金」勘定（負債）で処理します。

第10章　商品売買②

10－1　付随費用（三分法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　付随費用は、商品の取得原価に含めること！

②　三分法では「仕入」勘定で処理する。

主な勘定科目

「仕入」勘定（費用）

商品を仕入れる時には商品を移動させるため、様々な費用がかかります。これを諸掛り（しょがかり）といいます。諸掛りとしては、発送費（送料）、運賃、荷役費（にやくひ）、保険料、購入手数料、関税などがあります。

仕入に関する諸掛りは**付随費用**（ふずいひよう）なので、有価証券や固定資産と同様に、商品の取得原価に含めますので、「仕入」勘定（費用）で処理します。取得原価とは購入代価に付随費用を加算した金額です。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題10－1　**商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取費用50円を現金で支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**850**	**買掛金**	**800**
		現金	**50**

仕入：購入代価800＋付随費用50＝850

10－２　返品・値引（三分法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　**返品と値引の違いを理解しよう！**

②　**返品と値引の仕訳をマスターしよう！**

主な勘定科目

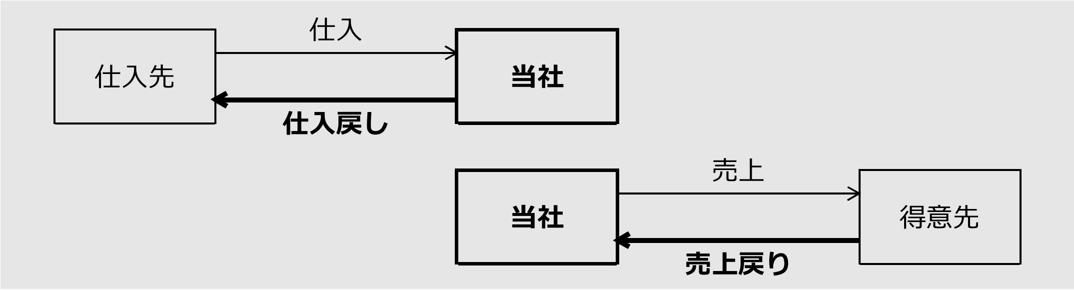
①　**仕入戻し・仕入値引：「仕入」勘定（費用）**

②　**売上戻り・売上値引：「売上」勘定（収益）**

（１）返品

商品の品違いや品質不良、傷、汚れなどを理由に商品を仕入先に戻したり、得意先から戻ってくることを**返品**（へんぴん）といいます。仕入れた商品を返品することを**仕入戻し**（しいれもどし）、売り上げた商品が返品されることを**売上戻り**（うりあげもどり）といいます。

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。



① 仕入戻し

仕入れた商品を返品した場合、仕入がなかったことになるため、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

例題10－２　**仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　　　入　　100 / 買　掛　金　　100

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**100**	**仕入**	**100**

これにより、仕入はなかったことになります。

② 売上戻り

売り上げた商品が返品された場合、売上がなかったことになるため、「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

例題10－３　**得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　　120 / 売　　　上　　120

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**120**	**売掛金**	**120**

これにより、売上はなかったことになります。

（2）値引

商品の数や量の不足、品質不良、傷、汚れなどを理由に商品の代金を安くしてもらうことを**値引**といいます。仕入れた商品の値引を**仕入値引**（しいれねびき）、売り上げた商品の値引を**売上値引**（うりあげねびき）といいます。値引は傷などが返品するほどでなく、その代わりに代金を安くしてもらうことですので、返品と違って商品を送り返すことはありません（商品は移動しません）。

値引があると、当初の仕入価額や売上金額より安くなったことになるので、「仕入」勘定（費用）や「売上」勘定（収益）を減少する処理を行います。

① 仕入値引

仕入れた商品について値引を受けた場合、当初より仕入が安くなりますので、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

例題10－4　仕入先から掛仕入した商品100円に傷があったので値引10円を受けた。

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　　　入　　　100 / 買　掛　金　　　100

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
買　掛　金	**10**	**仕　　　入**	**10**

これにより、90円で商品を仕入れたことになります。

② 売上値引

売り上げた商品について値引を行った場合、当初より売上が安くなりますので、「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

例題10－5　得意先へ掛売上した商品220円（仕入原価150円）に傷があったので値引10円を行った。

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　　　220 / 売　　　上　　　220

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
売　　　上	**10**	**売　掛　金**	**10**

これにより、210円で商品を売り上げたことになります。

10－３　商品券

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　商品券勘定は「負債」であることを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「商品券」勘定（負債）

デパートなどが発行する商品券（しょうひんけん）は、贈答用（ぞうとうよう）など販売促進（はんばいそくしん）を目的として発行しています。商品券を受け取った人は、将来、商品券と引き替えに商品を買うことができます。一方、商品券を発行した側は、将来、商品券と引き替えに商品を引き渡す義務があります。そこで、商品券を発行した場合には、「**商品券**」勘定（**負債**）で処理します。

① 商品券の発行時

将来、商品を引き渡す義務を「商品券」勘定（負債）の増加として処理します。なお、商品券を販売することが目的でなく、商品を販売することが目的なので、商品券を発行した時には売上を計上しないことに注意して下さい。

例題10－6　**商品券1,000円を発行し、現金を受け取った。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　金	**1,000**	**商　品　券**	**1,000**

② 当店が発行した商品券を受け取った時

商品を引き渡す義務が減少しましたので「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。なお、商品を販売（引渡）した時に売上を計上します。

例題10－7　**商品1,200円を売り上げ、代金は当店発行の商品券1,000円と現金200円を受け取った。**

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
商　品　券	**1,000**	**売　　　上**	**1,200**
現　　　金	**200**		

第10章　商品売買②　問題

問題10-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　商品30,000円を仕入れ、代金は小切手で支払った。なお、運送業者へ送料1,000円を現金で支払った。

②　以前に得意先へ掛け売り上げした商品60,000円のうち、5,000円が品違いのため返品された。なお、返品に伴い、掛代金を減額した。

③　以前に仕入先から掛け仕入れした商品40,000円について、汚損があったため1,500円の値引を受けた。なお、値引に伴い、掛代金が減額された。

④　商品65,000円を売り上げ、代金のうち42,000円は当店発行の商品券で、残額は現金で受け取った。

第10章　商品売買②　答案用紙

問題10-1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				

第10章　商品売買②　解答解説

問題10-1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	31,000	当座預金	30,000
			現金	1,000
②	売上	5,000	売掛金	5,000
③	買掛金	1,500	仕入	1,500
④	商品券	42,000	売上	65,000
	現金	23,000		

問題10-1　**解説**

①　仕入諸掛は商品の取得原価に含めますので、「仕入」勘定（費用）で処理します。

②　売上戻りは「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

③　仕入値引は「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

④　当店発行の商品券を受け取った場合、「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。

第11章　その他の取引②

11－1　租税公課

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「租税公課」勘定で処理する税金を覚えよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「租税公課」勘定（費用）

租税公課とは、税金のうち費用の性格を有するものであり、具体的には、印紙税、店舗の固定資産税、事業税などがあります。これらは「**租税公課**」勘定（**費用**）で処理します。なお、具体的な内容を示すために、「印紙税」勘定、「固定資産税」勘定、「事業税」勘定を用いる場合もあります。

なお、租税公課として費用計上できるのは、事業にかかる分だけです。同じ税金でも個人商店の店主個人の所得税や住民税などは事業に関連しない個人の支払なので、租税公課として処理しませんので注意して下さい。商店のお金を店主個人のために使った場合の会計処理は［14－２］で説明します。

例題11－１　**店舗の固定資産税200円を現金で支払った。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**200**	**現金**	**200**

11－2　消費税

【重要性：A】

【税込方式の重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　消費税の仕組みを理解しよう！

②　税抜方式の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目（税抜方式）

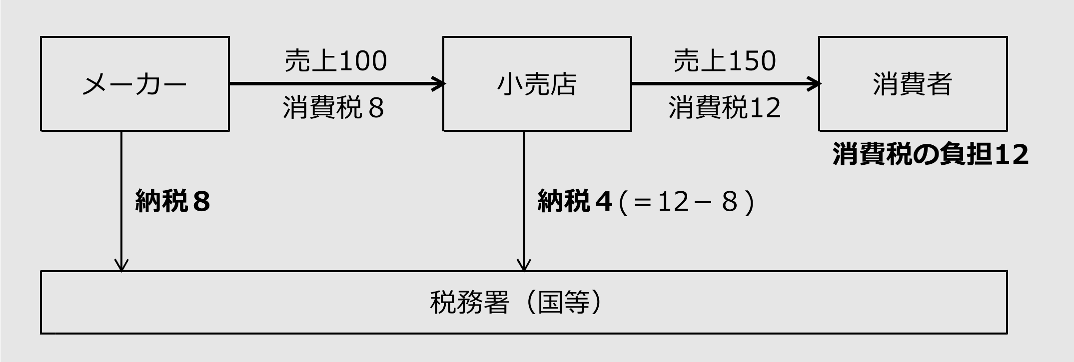
「仮払消費税」勘定（資産）

「仮受消費税」勘定（負債）

「未払消費税」勘定（負債）

（１）消費税とは？

消費税とは、事業者が国内で行った資産の譲渡やサービスの提供等に課せられる税金です。消費税は、製造、流通等の過程で課税されますが、最終的には消費者が税を負担します。したがって、消費税は消費者でない事業主の損益には影響を与えません。



消費税の会計処理には、**税抜方式**（ぜいぬきほうしき）と**税込方式**（ぜいこみほうしき）があります。全商簿記では主に税抜方式が出題されていますので、税込方式は参考として下さい。

（２）税抜方式

① 仕入時

商品を仕入れた場合等、消費税を支払ったときには「**仮払消費税**」勘定（**資産**）で処理します。

例題11－２ **商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**10,000**	**買掛金**	**10,800**
仮払消費税	**800**		

仮払消費税：10,000×８％＝800

買掛金：10,000＋消費税800＝10,800

② 売上時

商品を売り上げた場合等、消費税を受け取ったときには「**仮受消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

例題11－３ **商品10,000円を15,000円で販売し、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**16,200**	**売上**	**15,000**
		仮受消費税	**1,200**

仮受消費税：15,000×８％＝1,200

売掛金：15,000＋消費税1,200＝16,200

③ 決算時

受け取った消費税と支払った消費税を相殺した差額を納付しますので、「**未払消費税**」勘定（**負債**）で処理します。

例題11－４ **決算において、受け取った消費税1,200円と支払った消費税800円を相殺し、納付額を決定する。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮受消費税	**1,200**	**仮払消費税**	**800**
		未払消費税	**400**

④　納付時

納付額の支払時に「**未払消費税**」勘定（**負債**）を減少させます。

例題11－5　**消費税の納付額400円を当座預金から支払った。なお、消費税の処理として税抜方式を採用している。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未払消費税	**400**	**当座預金**	**400**

（3）税込方式（参考）

①　仕入時

商品を仕入れた場合等、消費税を支払ったときには消費税を「仕入」勘定等の費用に含めて処理します。

例題11－6　**商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕入	**10,800**	**買掛金**	**10,800**

消費税：10,000×８％＝800

仕入：10,000＋消費税800＝10,800

②　売上時

商品を売り上げた場合等、消費税を受け取ったときには消費税を「売上」勘定等（収益）で処理します。

例題11－7　**商品10,000円を15,000円で販売し、代金は掛けとした。なお、消費税率は８％である。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売掛金	**16,200**	**売上**	**16,200**

消費税：15,000×８％＝1,200

売上：15,000＋消費税1,200＝16,200

③　決算時

受け取った消費税と支払った消費税を相殺した差額を納付しますので、「租税公課」勘定（費用）と「未払消費税」勘定（負債）で処理します。

例題11－8　**決算において、受け取った消費税1,200円と支払った消費税800円を相殺し、納付額を決定する。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**400**	**未払消費税**	**400**

④　納付時

納付額の支払時に「**未払消費税**」勘定（**負債**）を減少させます。

例題11－9　**消費税の納付額400円を当座預金から支払った。なお、消費税の処理として税込方式を採用している。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
未払消費税	**400**	**当座預金**	**400**

11－３　貸付金・借入金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸付金と借入金を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸付金」勘定（資産）

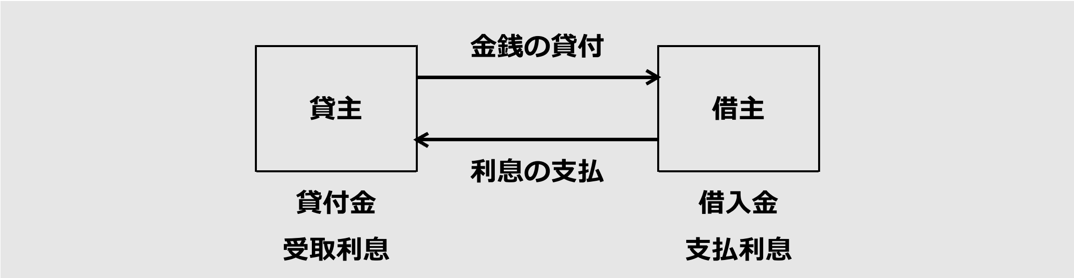
「受取利息」勘定（収益）

「借入金」勘定（負債）

「支払利息」勘定（費用）

取引先や従業員にお金を貸し付けることがあります。その場合、将来、貸し付けた金銭を返してもらう権利が生じますので「**貸付金**」勘定（**資産**）で処理します。また、銀行からお金を借り入れた場合、将来、借り入れた金銭を返済する義務が生じますので「**借入金**」勘定（**負債**）で処理します。

金銭の貸借に伴って、通常、利息が生じます。金銭を貸し付けることによって受け取る利息は「**受取利息**」勘定（**収益**）で処理します。また、金銭を借り入れることによって支払う利息は「**支払利息**」勘定（**費用**）で処理します。



（１）貸付金

①　貸付時

例題11－10　**取引先に1,000円を現金で貸し付けた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸　　　付　　　金	**1,000**	**現　　　　　　　金**	**1,000**

②　利息の受取時

例題11－11　**貸付金の利息20円を現金で受け取った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　　　金	**20**	**受　　取　　利　　息**	**20**

③　貸付金の回収時

例題11－12　**貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　　座　　預　　金	**1,000**	**貸　　　付　　　金**	**1,000**

（2）借入金

① 借入時

例題11－13　**銀行から1,000円を借り入れ、当座に振り込まれた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**1,000**	**借　　入　　金**	**1,000**

② 利息の支払時

例題11－14　**借入金の利息20円を当座により支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
支　払　利　息	**20**	**当　座　預　金**	**20**

③ 借入金の返済時

例題11－15　**借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
借　　入　　金	**1,000**	**当　座　預　金**	**1,000**

１１－４　手形貸付金・手形借入金

【重要性：Ｂ】

ＰＯＩＮＴ！

①　手形貸付金と手形借入金を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「手形貸付金」勘定（資産）

「手形借入金」勘定（負債）

金銭の貸借は通常、借用証書（しゃくようしょうしょ）を用いますが、借用証書の代わりに手形を用いる場合があります。手形を用いた貸付・借入は通常の貸付金・借入金と区別するために、「**手形貸付金**（てがたかしつけきん）」勘定（**資産**）、「**手形借入金**（てがたかりいれきん）」勘定（**負債**）を用いて処理します。

また、約束手形を振り出したり、受け取ったりしますが、「支払手形」勘定（負債）や「受取手形」勘定（資産）を用いないように注意して下さい。

（1）手形貸付金

①　手形貸付時

例題11－16　**取引先に1,000円を現金で貸し付け、借用証書の代わりに約束手形を受け取った。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
手形貸付金	**1,000**	**現金**	**1,000**

②　手形貸付金の回収時

例題11－17　**手形貸付金1,000円が返済され、当座に振り込まれた。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**1,000**	**手形貸付金**	**1,000**

（2）手形借入金

①　手形借入時

例題11－18　**取引先から現金1,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現金	**1,000**	**手形借入金**	**1,000**

②　手形借入金の返済時

例題11－19　**手形借入金1,000円を返済し、当座により支払った。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
手形借入金	**1,000**	**当座預金**	**1,000**

第11章　その他の取引②　問題

問題11-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 1月1日に銀行から100,000円を借り入れ、当座預金に預け入れた。

② 6月30日に借入金100,000円にかかる半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。

③ 12月31日に元本100,000円と半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。

④ 取引先へ50,000円を現金にて貸し付けた。

⑤ 取引先から貸付金の元本50,000円の返済と貸付期間1年分の利息（年利率1%）を現金にて受け取った。

⑥ 取引先から約束手形80,000円を受け取ったが、これは現金の貸し付けに関して受け取ったものであった。

⑦ 取引先から現金30,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。

⑧ 店舗の固定資産税44,000円を現金で支払った。

⑨ 当社は得意先に商品を420,000円で販売し、消費税33,600円とともに現金で受け取った。なお、消費税の会計処理として税抜方式を採用している。

⑩ 決算に際して、消費税の納付額を計算し、これを確定する。なお、当期の消費税仮払分は742,000円、消費税仮受分は990,000円であり、消費税の処理は税抜方式によっている。

第11章　その他の取引②　答案用紙

問題11-1

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

第11章　その他の取引②　解答解説

問題11-1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	当座預金	100,000	借入金	100,000
②	支払利息	1,000	当座預金	1,000
③	借入金 支払利息	100,000 1,000	当座預金	101,000
④	貸付金	50,000	現金	50,000
⑤	現金	50,500	貸付金 受取利息	50,000 500
⑥	手形貸付金	80,000	現金	80,000
⑦	現金	30,000	手形借入金	30,000
⑧	租税公課	44,000	現金	44,000
⑨	現金	453,600	売上 仮受消費税	420,000 33,600
⑩	仮受消費税	990,000	仮払消費税 未払消費税	742,000 248,000

問題11-1 **解説**

① 銀行からお金を借り入れた場合、「借入金」勘定（負債）で処理します。

② 利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷２＝1,000

③ 元本の返済は「借入金」勘定（負債）の減少として処理します。また、利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷２＝1,000

④ 取引先への貸し付けは、「貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑤ 貸付金の元本の返済は「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、利息の受け取りは「受取利息」勘定（収益）で処理します。

50,000×1%＝500

⑥ 手形による貸し付けは、「手形貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑦ 手形による借入は、「手形借入金」勘定（負債）で処理します。

⑧ 固定資産税は、「租税公課」勘定（費用）で処理します。

⑨ 税抜方式では受け取った消費税を「仮受消費税」勘定（負債）で処理します。

⑩ 仮受消費税と仮払消費税の差額が未払の納付額であり、「未払消費税」勘定（負債）で処理します。

第12章　現金預金②

12－1　当座借越

【重要性：A】

【一勘定制の重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座借越の仕組みを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目（二勘定制）

「当座預金」勘定（資産）

「当座借越」勘定（負債）

通常は当座預金の残高を超える金額の小切手を振り出すことはできません。しかし、銀行と当座借越契約（とうざかりこしけいやく）を結んでおけば、決められた借越限度額（かりこしげんどがく）まで当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことができます。この当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことを**当座借越**（とうざかりこし）といいます。当座借越は銀行からの一時的な借入を意味します。

当座借越の処理方法には**二勘定制**（にかんじょうせい）と**一勘定制**（いちかんじょうせい）がありますが、全商簿記３級では主に、二勘定制が出題されていますので、一勘定制は参考として下さい。

（１）二勘定制

二勘定制とは、資産としての当座預金は「**当座預金**」勘定（**資産**）で、負債としての当座借越は「**当座借越**」勘定（**負債**）を用いて処理します。

なお、１つの銀行に対する当座預金口座については、「当座預金」勘定（資産）の残高がある場合は「当座借越」勘定（負債）はゼロ、「当座借越」勘定（負債）の残高がある場合は「当座預金」勘定（資産）はゼロとなります。つまり、どちらか一方にしか残高は生じません。

① 当座借越が生じた場合

例題12－１　**商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は800円であり、当座借越契約における借越限度額は5,000円である。また、当座借越について当座借越勘定を用いて処理している。**

振り出した小切手1,000円のうち、800円は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理し、当座預金残高を超える200円は実質的には銀行からの借入金なので「当座借越」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**当座預金**	**800**
		当座借越	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）の残高はゼロとなり、「当座借越」勘定（負債）に残高が生じます。

当座預金

借方	貸方
800	**800**

当座借越

借方	貸方
残高 200	**200**

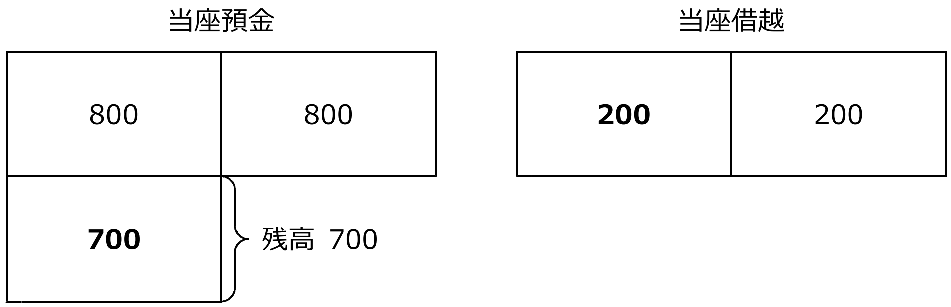
②　当座借越が生じた後に当座預金に入金があった場合

例題12－２　**例題12－１の後に　現金900円を当座に預け入れた。**

当座借越が生じた後に当座預金に入金した場合、まずは負債としての当座借越の返済に充てられ、残りが資産としての当座預金の増加となります。したがって、「当座借越」勘定（負債）の減少と「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座借越	**200**	**現金**	**900**
当座預金	**700**		

この結果、「当座借越」勘定（負債）の残高はゼロとなり、「当座預金」勘定（資産）に残高が生じます。



（2）一勘定制（参考）

一勘定制とは、資産としての当座預金も、負債としての当座借越も「**当座**」勘定（または、「当座預金」勘定）という１つの勘定で処理します。したがって、「当座」勘定が借方残高なら**資産**としての**当座預金**を意味し、当座勘定が貸方残高なら**負債**としての**当座借越**を意味します。

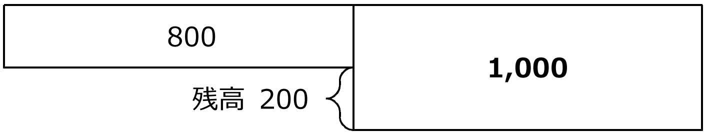
①　当座借越が生じた場合

例題12－3　**商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座勘定の残高は800円であり、当座借越契約における借越限度額は5,000円である。また、当座預金及び当座借越について当座勘定を用いて処理している。(例題12－1 と同じ数値です）**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**1,000**	**当　　　　座**	**1,000**

この結果、当座勘定は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。

当　　座



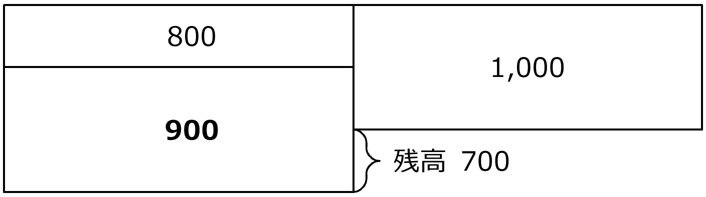
②　当座借越が生じた後に当座預金に入金があった場合

例題12－4　**例題12－3 の後に 現金900円を当座に預け入れた。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　　　　座	**900**	**現　　　　金**	**900**

この結果、当座勘定は借方残高700円となり、資産としての当座預金を意味します。

当　　座



12－２　現金過不足

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金過不足の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　帳簿残高を実際有高に合わせることに注意しよう！

主な勘定科目

「現金過不足」勘定

「現金」勘定（資産）

「雑益」勘定（収益）

「雑損」勘定（費用）

現金の帳簿残高（現金勘定の残高）と実際有高（実際の現金の金額）が一致しないことがあります。この帳簿残高と実際有高の差額を**現金過不足**といいます。

現金過不足が生じた場合、実態に合わせるため、帳簿残高を実際有高と一致させる必要がありますが、不一致原因がわからないため、一時的に「**現金過不足**」勘定で処理します。

不一致原因が判明した場合には、「現金過不足」勘定から適切な勘定へ振り替えます。

（１）期中に現金過不足が判明したとき

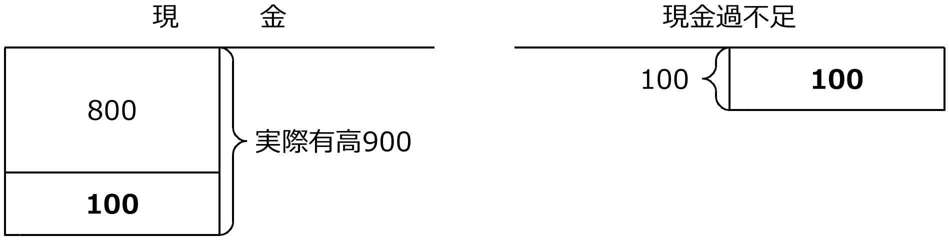
① 帳簿残高 ＜ 実際有高

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を増加させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の貸方に記入します。

例題12－５　現金残高が800円であったところ、実際有高は900円であった。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　金	**100**	**現 金 過 不 足**	**100**

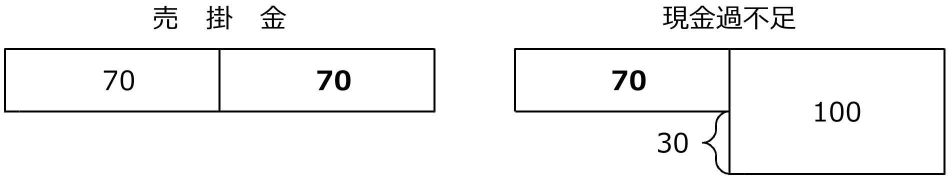
この結果、現金勘定の残高は900円となり、実際有高と一致します。



例題12－６　現金過剰額100円のうち、70円は売掛金の回収であったことが判明した。

「現金過不足」勘定から「売掛金」勘定（資産）に振り替えます。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現 金 過 不 足	**70**	**売 掛 金**	**70**



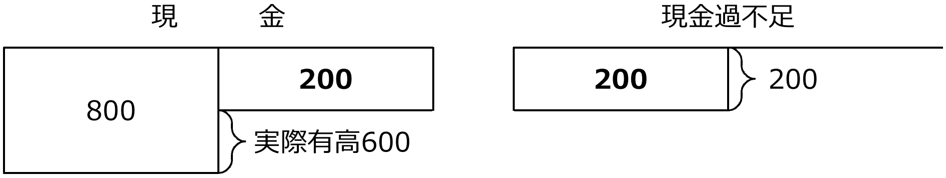
② 帳簿残高 ＞ 実際有高

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を減少させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の借方に記入します。

例題12－７　現金残高が800円であったところ、実際有高は600円であった。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　金　過　不　足	**200**	**現　　　　　金**	**200**

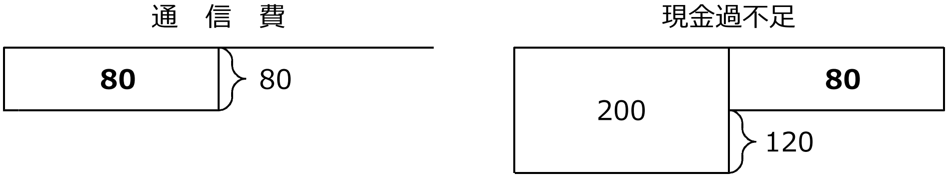
この結果、現金勘定の残高は600円となり、実際有高と一致します。



例題12－８　現金不足額200円のうち、80円は切手代で使用していたことが判明した。

「現金過不足」勘定から「通信費」勘定（費用）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
通　　信　　費	**80**	**現　金　過　不　足**	**80**



（2）原因が判明しなかったとき

現金過不足の不一致原因が判明しなかった時は、「現金過不足」勘定が貸方残高（現金過剰）の場合、「**雑益**（ざつえき）」勘定（**収益**）に振り替えます。また、「現金過不足」勘定が借方残高（現金不足）の場合、「**雑損**（ざつそん）」勘定（**費用**）に振り替えます。

この処理は通常、決算整理で行います。したがって、「現金過不足」勘定は他の勘定に振り替えられますので、決算整理後には「現金過不足」勘定の残高はゼロとなります。

例題12－9　**決算において、現金過剰額100円の原因が判明しなかった。**

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　　金　　100 / 現金過不足　　100

「現金過不足」勘定から「雑益」勘定（収益）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	**100**	**雑益**	**100**

雑	益
100	**100**

現金過不足	
100	100

例題12－10　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現金過不足　　200 / 現　　金　　200

「現金過不足」勘定から「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

雑	損
200	200

現金過不足	
200	**200**

第12章　現金預金②　問題

問題12-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　現金帳簿残高40,000円と実際有高37,000円の差額は原因不明であった。

②　決算において、①の現金過不足のうち、2,000円は交通費として使用した分であることが判明したが、残額は不明であった。

③　決算において、現金の過剰額として現金過不足勘定で処理してある4,500円のうち、3,700円は売掛金の回収であることが判明したが、残額は不明であった。

問題12-2　以下の取引に関して、二勘定制における当座預金勘定および当座借越勘定への転記を行いなさい。なお、決算日は12月31日である。

1月1日　当座預金勘定の期首残高は27,000円であった。また、当店は銀行と当座借越契約を締結しており、借越限度額は50,000円である。

3月3日　仕入先から商品30,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

5月5日　得意先から掛代金15,000円が当座預金に振り込まれた。

第12章　現金預金②　答案用紙

問題12-1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				

問題12-2

当 座 預 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	前　期　繰　越	27,000				

当 座 借 越

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方

第12章　現金預金②　解答解説

問題12-1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	現金過不足	3,000	現金	3,000
②	交通費	2,000	現金過不足	3,000
	雑損	1,000		
③	現金過不足	4,500	売掛金	3,700
			雑益	800

問題12-1　**解説**

①　原因不明の現金は「現金過不足」勘定で処理します。また、帳簿残高を実際有高に合わせるために、「現金」勘定（資産）を3,000減少させます。

②③　現金過不足の原因が判明した場合、適切な勘定に振り替えます。また、原因が決算において不明な場合、「雑損」勘定（費用）または「雑益」勘定（収益）で処理します。

問題12-2 **解答**

当 座 預 金

日付		摘 要	借 方	日付		摘 要	貸 方
1	1	前 期 繰 越	27,000	3	3	仕 入	27,000
5	5	売 掛 金	12,000				

当 座 借 越

日付		摘 要	借 方	日付		摘 要	貸 方
5	5	売 掛 金	3,000	3	3	仕 入	3,000

問題12-2 **解説**

二勘定制における仕訳は以下となります。当座預金残高を上回る小切手を振り出した場合には、「当座借越」勘定（負債）で処理します。また、当座借越が生じている状態で当座預金に入金があった場合、まずは負債としての当座借越の返済として「当座借越」勘定（負債）の減少として処理し、残額は資産としての「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3/3	**仕 入**	**30,000**	**当 座 預 金**	**27,000**
			当 座 借 越	**3,000**
5/5	**当 座 借 越**	**3,000**	**売 掛 金**	**15,000**
	当 座 預 金	**12,000**		

第13章　貸倒引当金

13－1　貸倒損失

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒れの内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒損失」勘定（費用）

（1）貸倒れ

取引先が倒産したことなどにより、売掛金や受取手形といった債権が回収できなくなることを、**貸倒れ**（かしだおれ）といいます。

（2）当期発生売掛金の貸倒れ

売掛金が回収できなくなり、資産としての価値がなくなったので、貸倒れ時に「売掛金」勘定（資産）を減少させます。また、貸倒れに伴う費用を「**貸倒損失**（かしだおれそんしつ）」勘定（**費用**）で処理します。

例題13－1　**得意先に対して、当期に商品を掛けで売り上げていたが、得意先が倒産し、売掛金1,000円が回収不能となった。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　1,000 /　売　　上　1,000

「売掛金」勘定（資産）の減少と「貸倒損失」勘定（費用）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒損失	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

13－２　貸倒引当金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　貸倒引当金の内容を理解しよう！

②　貸倒引当金の算定方法をマスターしよう！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒引当金繰入」勘定（費用）

（1）貸倒引当金

売掛金などの貸倒れに備えて、あらかじめ準備した金額を**貸倒引当金**（かしだおれひきあてきん）といいます。決算にあたり、当期末における売掛金や受取手形などの債権が、次期以降にどれだけ貸し倒れるかを予測し、その見積額（みつもりがく）を貸倒引当金として計上します。

（2）設定方法

① 設定対象

売掛金や受取手形といった**債権の期末残高**が対象となります。

② 実績率

その見積額は、過去の貸倒れの実績に基づいて算定された実績率（じつせきりつ）を用いて設定しますが、全商簿記３級ではその実績率は問題文に与えられます。

③ 計算式

貸倒見積額 ＝ 売掛金・受取手形の期末残高 × 貸倒実績率

（3）仕訳

貸倒見積額は「**貸倒引当金繰入**（かしだおれひきあてきんくりいれ）」勘定（**費用**）と「**貸倒引当金**（かしだおれひきあてきん）」勘定を用いて処理します。**決算整理仕訳**として行われます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	×××	**貸倒引当金**	×××

なお、「貸倒引当金」勘定は、設定対象となった**売掛金や受取手形のマイナス**を表す**評価勘定**（資産のマイナス＝**貸方科目**）です。なお、評価勘定とは、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定のことをいいます。

貸　借　対　照　表

2030年12月31日

⋮			
売　掛　金	10,000		
貸倒引当金	△300	9,700	

例題13－2　**売掛金の期末残高10,000円に対して３％の貸倒れを見積もり、貸倒引当金を設定する。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	**300**	**貸倒引当金**	**300**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

（４）差額補充法

決算で貸倒引当金を設定するにあたり、前期に設定した貸倒引当金に残高がある場合があります。その場合、当期末の見積額と決算整理前の残高の差額を追加で繰り入れます。この方法を**差額補充法**（さがくほじゅうほう）といいます。

例題13－3　**売掛金の期末残高10,000円に対して３％の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。なお、決算整理前の貸倒引当金残高は100円であった。**

①　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

売掛金	10,000	貸倒引当金	100

②　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	**200**	**貸倒引当金**	**200**

売掛金期末残高10,000円×３％＝貸倒見積額300

貸倒見積額300－貸倒引当金決算整理前残高100＝貸倒引当金繰入200

③　決算整理後残高試算表

決算整理後の「貸倒引当金」勘定は見積額300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

売掛金	10,000	貸倒引当金	300
貸倒引当金繰入	200		

13－３　貸倒時の処理

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕訳をマスターしよう！

②　貸倒引当金の残高に注意しよう！

③　いつ発生した売掛金が貸し倒れたのかに注意すること！

主な勘定科目

「貸倒引当金」勘定（資産のマイナス）

「貸倒損失」勘定（費用）

（１）前期以前発生売掛金の貸倒れ

① 貸倒金額 ＜ 貸倒引当金残高

前期以前に発生した売掛金については前期末に貸倒引当金を設定しています。したがって、貸倒れ時に「売掛金」勘定（資産）を減少させるとともに「**貸倒引当金**」勘定を減少させせます。

例題13－４ **得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は2,000円であった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**1,000**	**売掛金**	**1,000**

② 貸倒金額 ＞ 貸倒引当金残高

貸倒引当金の残高を上回る貸倒れが生じた場合、上回った金額は「**貸倒損失**」勘定（費用）の増加として処理します。

例題13－５ **得意先が倒産し、前期の売上に関する売掛金1,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高は800円であった。**

貸倒引当金の残高800円を上回る200円については「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**800**	**売掛金**	**1,000**
貸倒損失	**200**		

（２）当期発生売掛金の貸倒れ

［13－１］で学習しましたが、当期発生売掛金の貸倒れについては、「**貸倒損失**」勘定（**費用**）で処理します。これは当期発生売掛金については決算が到来していないので、貸倒引当金を設定していません。そのため、貸倒引当金を用いることができないと考えてもよいでしょう。

（３）貸倒時の処理のまとめ

①当期発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒損失
②前期以前発生売掛金の貸倒れ　…　貸倒引当金の減少
貸倒引当金残高を上回る場合は、貸倒損失

Point! **貸し倒れた売掛金・受取手形がいつ発生したか確認すること！**

第13章　貸倒引当金　問題

問題13-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

① 得意先が倒産し、前期に販売した商品に関する掛代金50,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は37,000円であった。

② 前期に発生した売掛金20,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は38,000円であった。

③ 当期に売り上げた商品に関する売掛金16,000円が貸し倒れた。なお、貸倒引当金残高は25,000円であった。

④ 受取手形の期末残高200,000円および売掛金の期末残高350,000円に対して、２％の貸倒引当金を差額補充法により設定する。なお、決算整理前残高試算表における貸倒引当金は7,000円であった。

第13章　貸倒引当金　答案用紙

問題13-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				

第13章　貸倒引当金　解答解説

問題13-1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	貸倒引当金	37,000	売掛金	50,000
	貸倒損失	13,000		
②	貸倒引当金	20,000	売掛金	20,000
③	貸倒損失	16,000	売掛金	16,000
④	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000

問題13-1　**解説**

①　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。また、貸倒引当金の残高を上回る貸倒が生じた場合、その超過額を「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

②　前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合、「貸倒引当金」勘定（負債）を取り崩します。

③　当期に発生した売掛金が当期に貸し倒れた場合、「貸倒損失」勘定（費用）で処理します。

④　貸倒見積高と決算整理前の残高との差額を「貸倒引当金繰入」勘定（費用）で処理します。

貸倒見積高：(200,000＋350,000)×2%＝11,000

貸倒引当金繰入：11,000－前T/B 貸倒引当金7,000＝4,000

第14章　純資産

14－１　資本金の増加

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「資本の元入」の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「資本金」勘定（純資産）

（１）資本の元入

商店を開く際には、仕入代金や従業員の給料など、開業資金（かいぎょうしきん）や運転資金（うんてんしきん）が必要となります。通常、お金は店主が自分の個人的なお金から出資することになります。この商店の事業資金として出資することを**資本の元入**（もといれ）といいます。この出資額は「**資本金**（しほんきん）」勘定（**純資産**）で処理します。

例題14－１　**開業にあたり、現金3,000円を元入れした。**

資本の元入により、店主個人の現金は減少しますが、商店のお金は増加しますので、現金勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**3,000**	**資　　本　　金**	**3,000**

（２）資本の追加元入

商店の開業後に資金が必要となり、店主が追加してお金を出資することを**追加元入**（ついかもといれ）といいます。この追加的な出資額についても「**資本金**」勘定（**純資産**）で処理します。

例題14－２　**店主から、現金2,000円の追加元入があった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**2,000**	**資　　本　　金**	**2,000**

14－２　資本の引出

【重要性：A】

【資本金勘定で処理する方法の重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　「資本の引出」の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　特に、決算整理で行う処理（決算整理仕訳）に注意しよう！

主な勘定科目

「引出金」勘定（資本金のマイナス）

「資本金」勘定（純資産）

（1）資本の引出

個人商店では商店の現金などを店主個人のためや家族のために使うことがあります。これを**資本の引出**(ひきだし)といいます。なお、商店の現金だけでなく、当座預金、商品など他の資産を使用した場合も資本の引出(ひきだし)となります。

資本の引出の処理方法としては、①**「引出金」**(ひきだしきん)勘定で処理する方法と、②**「資本金」**勘定（**純資産**）で処理する方法がありますが、全商簿記３級では主に①「引出金」勘定で処理する方法が出題されていますので、②「資本金」勘定で処理する方法は参考として下さい。なお、「引出金」(ひきだしきん)勘定は「資本金」勘定のマイナス（資本金のマイナス＝**借方科目**）を意味する評価勘定です。

例題14－３　**店主個人の所得税1,000円を商店の現金で支払った。**

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
引　出　金	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
資　本　金	**1,000**	**現　　金**	**1,000**

例題14－４　**電気代として2,000円が当座預金から引き落とされた。なお、このうち、800円は店主の家事のために使われたものである。**

商店の事業で使用した電気代1,200円は、「水道光熱費」(すいどうこうねつひ)勘定で費用として処理します。また、店主の家事のために使用した分800円は、資本の引出(ひきだし)であるので費用として処理しません。

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
水 道 光 熱 費	**1,200**	**当 座 預 金**	**2,000**
引　出　金	**800**		

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
水 道 光 熱 費	**1,200**	**当 座 預 金**	**2,000**
資　本　金	**800**		

例題14－5　**商店の商品1,000円を店主が自家消費した。**

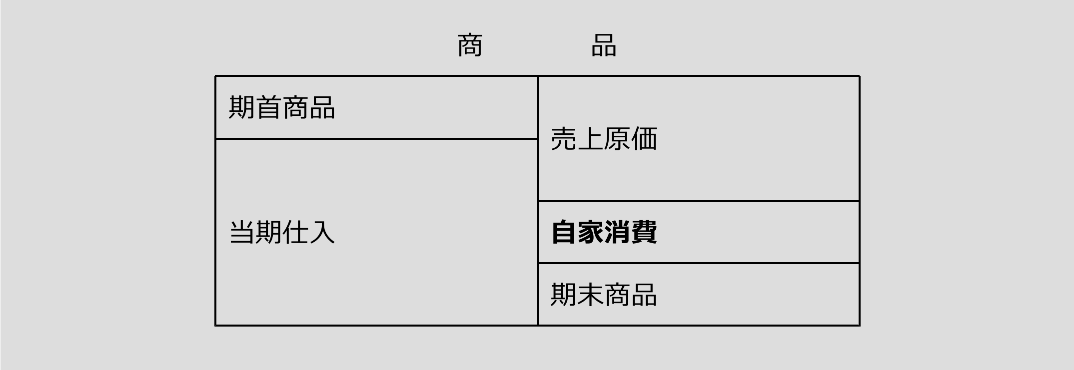
店主が商品を自家消費（店主個人で使うこと）した場合、自家消費分は売上原価に含まれないので「**仕入**」勘定（**費用**）の減少として処理します。

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**1,000**	**仕　　　　入**	**1,000**

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　本　　金	**1,000**	**仕　　　　入**	**1,000**



（2）引出金勘定の整理

資本の引出に関して、引出金勘定で処理する方法を採用している時に、決算にあたり、「引出金」勘定に残高がある場合、「**引出金**」勘定を「**資本金**」勘定（**純資産**）に振り替えます。この仕訳は、通常、決算整理仕訳として行われます。これにより、「引出金」勘定の決算整理後の残高はゼロとなります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　　本　　　金	×××	**引　　　出　　　金**	×××

この結果、資本の引出に関して、「資本金」勘定で処理しても、「引出金」勘定で処理しても、決算整理後の「資本金」勘定の金額は同じとなります。

例題14－6　**決算整理前の資本金勘定残高は20,000円、引出金勘定残高は1,000円であった。**

①　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

引　　　出　　　金	1,000	資　　　本　　　金	20,000

②　決算整理

「引出金」勘定の残高1,000円を「資本金」勘定（純資産）に振り替えるために、貸方に「引出金」勘定、借方に「資本金」勘定として仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　　本　　　金	**1,000**	**引　　　出　　　金**	**1,000**

引　出　金

1,000	**1,000**

資　本　金

1,000	20,000
残高　19,000	

③　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

		資　　　本　　　金	19,000

第14章　純資産　問題

問題14-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　店主から現金500,000円の追加元入があった。

②　火災保険料80,000円を現金により支払ったが、そのうち30,000円は店主の自宅にかかる火災保険料であった。なお、資本の引出に関して引出金勘定を用いている。

③　固定資産税60,000円を現金で支払ったが、そのうち20,000円は店主の自宅にかかる固定資産税であった。なお、資本の引出に関して資本金勘定を用いている。

④　店舗の商品10,000円を店主が自家消費した。なお、資本の引出に関して引出金勘定を用いている。

⑤　決算にあたり、引出金勘定50,000円を整理する。

第14章　純資産　答案用紙

問題14-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

第14章　純資産　解答解説

問題14-1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	現　金	500,000	資　本　金	500,000
②	保　険　料	50,000	現　金	80,000
	引　出　金	30,000		
③	租　税　公　課	40,000	現　金	60,000
	資　本　金	20,000		
④	引　出　金	10,000	仕　入	10,000
⑤	資　本　金	50,000	引　出　金	50,000

問題14-1　解説

①　追加元入があった場合、「資本金」勘定（純資産）の増加として処理します。

②　店主の自宅にかかる保険料は、個人商店の事業に関係しないので、資本の引出となります。したがって、指示により「引出金」勘定で処理します。

③　店主の自宅にかかる固定資産税は、個人商店の事業に関係しないので、資本の引出となります。したがって、指示により「資本金」勘定（純資産）で処理します。

④　店舗の商品を店主が自家消費した場合、資本の引出となります。したがって、指示により「引出金」勘定で処理します。なお、これにより商品が減少しますが、それを「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

⑤　引出金勘定を用いている場合、決算において、「引出金」勘定残高を「資本金」勘定（純資産）に振り替えます。

第15章　帳簿の記入①

15－１　主要簿の記入

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　仕訳帳の記入のルールを覚えよう！

②　総勘定元帳の記入のルールを覚えよう！

③　仕訳帳から総勘定元帳への転記を注意すること！

（１）仕訳帳の記入

仕訳帳(しわけちょう)は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄(てきようらん)には、勘定科目を記入します。真ん中より左側に借方科目、右側に貸方科目を記入します。勘定科目が複数の場合には複数側の上に「諸口(しょくち)」と書きます。なお、諸口とは複数という意味です。また、勘定科目の下に取引の概要(がいよう)を記入します。これを小書(こが)きといいます。小書きは試験では省略されることもあります。

③ 元丁(もとちょう)欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。

④ 借方欄と貸方欄には金額を記入します。

例題15－１　**次の取引について、仕訳帳に仕訳を行いなさい。**

１月１日　開業にあたり、現金10,000円を元入れした。

３月３日　商品2,000円をＡ商店より仕入れ、代金のうち600円は現金で支払い、残額は掛けとした。

なお、総勘定元帳における各勘定の番号は以下のとおりである。

現金：１、買掛金：４、資本金：７、仕入：21

仕　訳　帳

4

日付		摘　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	(現　金)	1	10,000	
		(資　本　金)	7		10,000
		元入れして開業した			
3	3	(仕　入) 諸　口	21	2,000	
		(現　金)	1		600
		(買　掛　金)	4		1,400
		A商店より仕入れ			

（2）総勘定元帳の記入

総勘定元帳（そうかんじょうもとちょう）は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、転記された日（取引が行われた日）を記入します。

② 摘要欄には、仕訳における相手勘定科目を記入します。仕訳の相手勘定科目が複数の場合には「諸口（しょくち）」と書きます。

③ 仕丁（しちょう）欄には、転記元の仕訳帳の番号（ページ数）を記入し、仕訳帳のその番号（ページ数）から転記されたことを示します。

④ 借方欄または貸方欄には金額を記入します。

例題15－2 **例題15－1** **の仕訳帳から、各総勘定元帳へ転記しなさい。**

総 勘 定 元 帳

現　　金　　1

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
1	1	資　本　金	4	10,000	3	3	仕　　入	4	600

買　掛　金　　4

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					3	3	仕　　入	4	1,400

資　本　金　　7

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					1	1	現　　金	4	10,000

仕　　入　　21

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
3	3	諸　　口	4	2,000					

15－２　補助簿の種類

【重要性：Ｃ】

ＰＯＩＮＴ！

どのような補助簿があるか確認しよう！

必要に応じて主要簿である仕訳帳と総勘定元帳以外に、特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**を使用します。

補助簿は特定の取引の明細を記録する**補助記入帳**と特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する**補助元帳**に分けられます。例えば、以下のものがあります。

主 要 簿　仕訳帳、総勘定元帳：[15－１] で学習します。

補 助 簿

- **補助記入帳** …
  - 現金出納帳：[16－１] で学習します。
  - 小口現金出納帳：[５－３、16－３] で学習します。
  - 当座預金出納帳：[16－２] で学習します。
  - 売 上 帳：[15－５] で学習します。
  - 仕入帳：[15－６] で学習します。
  - 受取手形記入帳：[16－４] で学習します。
  - 支払手形記入帳：[16－５] で学習します。
- **補 助 元 帳** …
  - 売掛金元帳：[15－３] で学習します。
  - 買掛金元帳：[15－４] で学習します。
  - 商 品 有 高 帳：[16－６] で学習します。

15－３　売掛金元帳

【重要性：A】

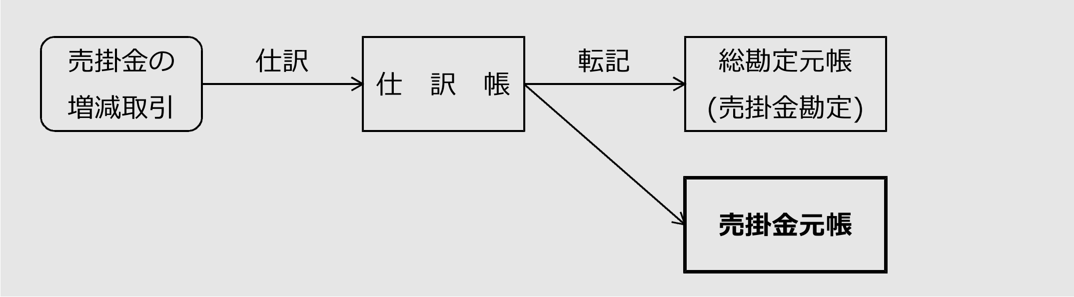
ＰＯＩＮＴ！

①　売掛金元帳の記入のルールを覚えよう！

②　売掛金元帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「売掛金」勘定）との関係に注意しよう！

得意先ごとの売掛金の明細を記録するための補助簿（補助元帳）を、**売掛金元帳**（**得意先元帳**という場合もあります）といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、得意先別の売掛金に関する取引が得意先別の売掛金元帳に記帳されます。この際、取引先の商店名や会社名をつけた勘定を設定しますので、これを**人名勘定**といいます。



売掛金元帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 借方欄には、売掛金の増加取引を記入します。また、貸方欄には売掛金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が借方残高の場合には「借」を、残高が貸方残高の場合には「貸」と記入します（通常は、借方残高となります）。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を借方欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を貸方欄に記入します（赤字で記入します。これを朱記といいます）。

⑤ 借方欄と貸方欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

売　掛　金　元　帳

××商店

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
?	?	前月繰越	×××		借	×××
	?	掛け売上	×××		〃	×××
	?	掛け戻り		×××	〃	×××
	?	次月繰越		×××		
			×××	×××		
?	?	前月繰越	×××		〃	×××

例題15－３　**次の取引について、売掛金元帳（Ｂ商店）に記入し、締め切りなさい。**

７月５日　Ｂ商店へ商品を24,000円で売り上げ、代金は掛けとした。

11日　7月５日に売り上げた商品の一部がＢ商店から返品された。

なお、この代金3,000円は売掛金を減額した。

売　掛　金　元　帳

Ｂ　商　店

日	付	摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
	5	掛け売上	24,000		〃	64,000
	11	掛け戻り		3,000	〃	61,000
	31	次月繰越		61,000		
			64,000	64,000		

仮に、上記売掛金元帳（Ｂ商店）が問題に与えられた場合、この売掛金元帳（Ｂ商店）から読み取れる７月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
7／5	売　　掛　　金	24,000	売　　　　上	24,000
11	売　　　　上	3,000	売　　掛　　金	3,000

また、仮に、上記売掛金元帳（Ｂ商店）が問題に与えられた場合、この売掛金元帳（Ｂ商店）から読み取れる７月の取引に関する「売掛金」勘定の記入は以下のとおりです。

売　掛　金

日	付	摘　　要	仕丁	借　方	日	付	摘　　要	仕丁	貸　方
7	5	売　　　上	省略	24,000	7	11	売　　　上	省略	3,000

15－４　買掛金元帳

【重要性：A】

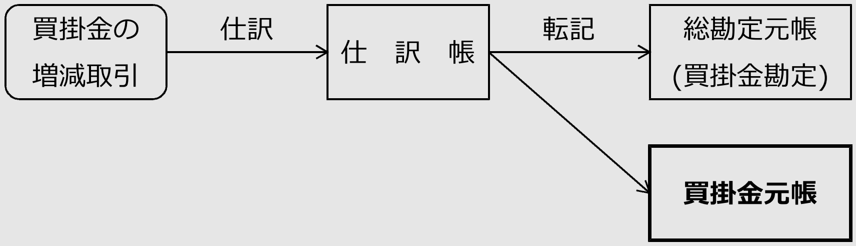
ＰＯＩＮＴ！

①　買掛金元帳の記入のルールを覚えよう！

②　買掛金元帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「買掛金」勘定）との関係に注意しよう！

仕入先ごとの買掛金の明細を記録するための補助簿（補助元帳）を、**買掛金元帳**（**仕入先元帳**という場合もあります）といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、仕入先別の買掛金に関する取引が仕入先別の買掛金元帳に記帳されます。この際、取引先の商店名や会社名をつけた勘定を設定しますので、これを**人名勘定**といいます。



買掛金元帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 貸方欄には、買掛金の増加取引を記入します。また、借方欄には買掛金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が貸方残高の場合には「貸」を、残高が借方残高の場合には「借」と記入します（通常は、貸方残高となります）。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を貸方欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を借方欄に記入します（赤字で記入（朱記）します）。

⑤ 借方欄と貸方欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

買　掛　金　元　帳

××商店

日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
?	?	前月繰越		×××	貸	×××
	?	掛け仕入		×××	〃	×××
	?	掛け戻し	×××		〃	×××
	?	次月繰越	×××			
			×××	×××		
?	?	前月繰越		×××	〃	×××

例題15－４　**次の取引について、買掛金元帳（Ａ商店）に記入し、締め切りなさい。**

７月５日　Ａ商店から商品24,000円を仕入れ、代金は掛けとした。

11日　7月５日に仕入れた商品の一部をＡ商店へ返品した。なお、この代金3,000円は買掛金が減額された。

買　掛　金　元　帳

Ａ　商　店

日	付	摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越		40,000	貸	40,000
	5	掛け仕入		24,000	〃	64,000
	11	掛け戻し	3,000		〃	61,000
	31	次月繰越	61,000			
			64,000	64,000		

仮に、上記買掛金元帳（Ａ商店）が問題に与えられた場合、この買掛金元帳（Ａ商店）から読み取れる７月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
7／5	仕　　　入	24,000	買　掛　金	24,000
11	買　掛　金	3,000	仕　　　入	3,000

また、仮に、上記買掛金元帳（Ａ商店）が問題に与えられた場合、この買掛金元帳（Ａ商店）から読み取れる７月の取引に関する「買掛金」勘定の記入は以下のとおりです。

買　掛　金

日	付	摘　　要	仕丁	借　方	日	付	摘　　要	仕丁	貸　方
7	11	仕　　　入	省略	3,000	7	5	仕　　　入	省略	24,000

15－５　売上帳

【重要性：A】

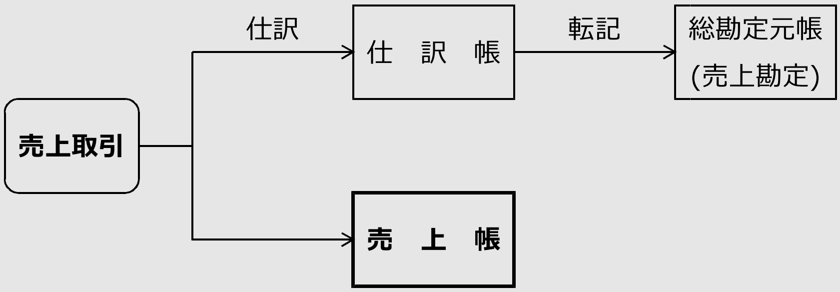
ＰＯＩＮＴ！

①　売上帳の記入のルールを覚えよう！

②　売上帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「売上」勘定）との関係に注意しよう！

商品の売上に関する明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**売上帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、売上に関する取引が売上帳に記帳されます。



売上帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容（得意先、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

③ 複数の商品を売り上げた場合には、商品ごとに内訳欄に金額を記入し、合計金額を金額欄に記入します。

④ 売上戻りや売上値引は赤字で記入（朱記）します。

⑤ 月末に総売上高（売上戻り・値引控除前の売上高）、売上値引・戻り高（赤字で記入（朱記）します）、純売上高（総売上高から売上値引・戻り高を控除した純額）を記入します。

売　　上　　帳

日付		摘要	内訳	金額
?	?	? 店　　当座預金		
		商品甲　？個　＠？		×××
	?	? 商店　　掛け		
		商品乙　？個　＠？	×××	
		商品丙　？個　＠？	×××	×××
	?	? 商店　　掛け戻り		
		商品丙　？個　＠？		×××
	?	総売上高		×××
	〃	売上戻り高		×××
		純売上高		×××

例題15－５　**次の取引について、売上帳に記入し、締め切りなさい。**

６月７日　Ｂ商店へ商品甲を16,000円（200個、@80円）で販売し、代金は当座預金に振り込まれた。

17日　Ｄ商店へ商品乙を2,400円（20個、@120円）で、商品丙を10,000円（40個、@250円）で販売し、代金は掛けとした。

20日　６月17日にＤ商店へ販売した商品丙が４個返品され、この代金は売掛金を1,000円減額した。

売　　上　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
6	7	B商店　当座預金		
		商品甲　200個　@80		16,000
	17	D商店　掛け		
		商品乙　20個　@120	2,400	
		商品丙　40個　@250	10,000	12,400
	20	D商店　掛け戻り		
		商品丙　4個　@250		1,000
	30	総売上高		28,400
	〃	売上戻り高		1,000
		純売上高		27,400

仮に、上記売上帳が問題に与えられた場合、この売上帳から読み取れる６月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
6／7	当　座　預　金	16,000	売　　　上	16,000
17	売　　掛　　金	12,400	売　　　上	12,400
20	売　　　上	1,000	売　　掛　　金	1,000

また、仮に、上記売上帳が問題に与えられた場合、この売上帳から読み取れる６月の取引に関する「売上」勘定の記入は以下のとおりです。

売　　上

日	付	摘　　要	仕丁	借　方	日	付	摘　　要	仕丁	貸　方
6	20	売　掛　金	省	1,000	6	7	当 座 預 金	省	16,000
			略			17	売　掛　金	略	12,400

15－６　仕入帳

【重要性：A】

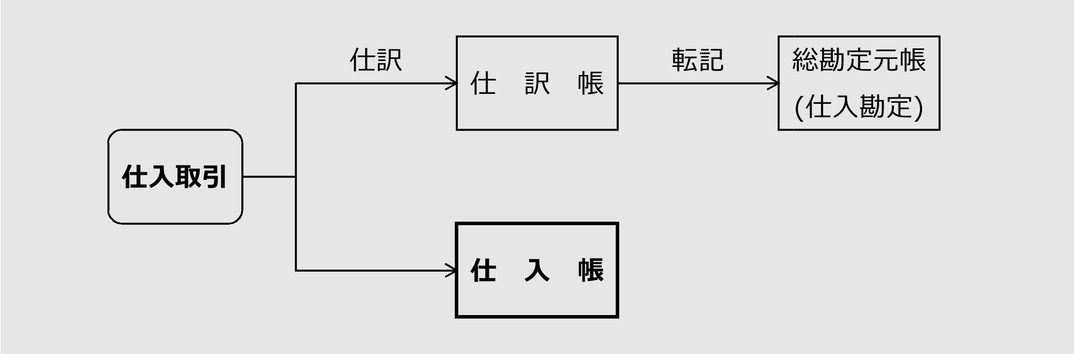
ＰＯＩＮＴ！

①　仕入帳の記入のルールを覚えよう！

②　仕入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

③　総勘定元帳（「仕入」勘定）との関係に注意しよう！

商品の仕入に関する明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**仕入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、仕入に関する取引が仕入帳に記帳されます。



仕入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容（仕入先、商品名、数量、単価、支払条件など）を簡潔に記入します。

③ 複数の商品を仕入れた場合には、商品ごとに内訳欄に金額を記入し、合計金額を金額欄に記入します。

④ 仕入戻しや仕入値引は赤字で記入（朱記）します。

⑤ 月末に総仕入高（仕入戻し・値引控除前の仕入高）、仕入値引・戻し高（赤字で記入（朱記）します）、純仕入高（総仕入高から仕入値引・戻し高を控除した純額）を記入します。

仕　　入　　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
?	?	?商店　当座預金		
		商品甲　?個　@?		×××
	?	?商店　掛け		
		商品乙　?個　@?	×××	
		商品丙　?個　@?	×××	×××
	?	?商店　掛け戻し		
		商品丙　?個　@?		×××
	?	総仕入高		×××
	〃	仕入戻し高		×××
		純仕入高		×××

例題15－6　**次の取引について、仕入帳に記入し、締め切りなさい。**

5月7日　Ａ商店から商品甲を5,000円（100個、@50円）で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

17日　Ｃ商店から商品乙を1,000円（10個、@100円）で、商品丙を6,000円（30個、@200円）で仕入れ、代金は掛けとした。

20日　５月17日にＣ商店から仕入れた商品丙を４個返品し、この代金は買掛金を800円減額された。

仕　入　帳

日	付	摘　要			内　訳	金　額
5	7	A商店	当座預金			
		商品甲	100個	@50		5,000
	17	C商店	掛け			
		商品乙	10個	@100	1,000	
		商品丙	30個	@200	6,000	7,000
	20	C商店	掛け戻し			
		商品丙	4個	@200		800
	31		総仕入高			12,000
	〃		仕入戻し高			800
			純仕入高			11,200

仮に、上記仕入帳が問題に与えられた場合、この仕入帳から読み取れる５月の取引に関する仕訳は以下のとおりです。

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5/7	仕　入	5,000	当座預金	5,000
17	仕　入	7,000	買掛金	7,000
20	買掛金	800	仕　入	800

また、仮に、上記仕入帳が問題に与えられた場合、この仕入帳から読み取れる５月の取引に関する「仕入」勘定の記入は以下のとおりです。

仕　入

日	付	摘　要	仕丁	借　方	日	付	摘　要	仕丁	貸　方
5	7	当座預金	省	5,000	5	20	買掛金	省	800
	17	買掛金	略	7,000				略	

第15章　帳簿の記入①　問題

問題15-1　**以下の取引と仕入帳にもとづき、買掛金元帳（B商店）の記入を行いなさい。なお、当店では月末に補助簿の締切を行っている。**

5月2日　B商店に対する買掛金8,000円について小切手を振り出して支払った。
7日　A商店に対する買掛金5,000円を現金にて支払った。
11日　A商店に対する買掛金1,800円について小切手を振り出して支払った。
12日　B商店に対する買掛金12,000円を支払うために、約束手形を振り出した。
17日　B商店に対する買掛金17,000円を支払うために、所有していた得意先振出約束手形を裏書譲渡した。

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
5	3	A商店　　掛け		
		商品甲　150個　@50		7,500
	5	B商店　　掛け		
		商品乙　20個　@100		2,000
	11	A商店　　掛け		
		商品甲　100個　@50		5,000
	18	B商店　　掛け		
		商品乙　30個　@100	3,000	
		商品丙　30個　@120	3,600	6,600
	20	B商店　　掛け戻し		
		商品丙　5個　@120		600
	31	総仕入高		21,100
	〃	仕入値引・戻し高		600
		純仕入高		20,500

問題15-2 **以下の取引と売上帳にもとづき、売掛金元帳（A商店）の記入を行いなさい。なお、当店では月末に補助簿の締切を行っている。**

7月2日　B商店に対する売掛金10,000円を現金で回収した。
6日　A商店に対する売掛金15,000円をA商店振出小切手で回収した。
11日　A商店に対する売掛金の決済として、A商店振出約束手形21,000円を受け取った。
17日　B商店に対する売掛金12,000円の回収として当座預金に振り込まれた。
23日　A商店に対する売掛金17,000円の回収として、X商店振出約束手形を裏書譲渡された。

売　上　帳

日付		摘要	内訳	金額
7	7	A商店　掛け		
		商品甲　300個　@80		24,000
	9	B商店　掛け		
		商品乙　100個　@120		12,000
	18	A商店　掛け		
		商品甲　400個　@80		32,000
	19	B商店　掛け		
		商品乙　30個　@120	3,600	
		商品丙　60個　@250	15,000	18,600
	20	A商店　掛け戻し		
		商品甲　5個　@80		400
	31	総売上高		86,600
	〃	売上値引・戻り高		400
		純売上高		86,200

第15章　帳簿の記入①　答案用紙

問題15-1

買　掛　金　元　帳

B　商　店

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
5	1	前月繰越		80,000	貸	80,000
	31	次月繰越				
6	1	前月繰越			貸	

問題15-2

売　掛　金　元　帳

A　商　店

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
8	1	前月繰越			借	

第15章　帳簿の記入①　解答解説

問題15-1　**解答**

買　掛　金　元　帳

B　商　店

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
5	1	前月繰越		80,000	貸	80,000
	2	小切手振り出し	8,000		〃	72,000
	5	掛け仕入		2,000	〃	74,000
	12	約束手形振り出し	12,000		〃	62,000
	17	手形の裏書譲渡	17,000		〃	45,000
	18	掛け仕入		6,600	〃	51,600
	20	掛け戻し	600		〃	51,000
	31	次月繰越	51,000			
			88,600	88,600		
6	1	前月繰越		51,000	貸	

問題15-1　**解説**

買掛金元帳（B商店）の記入が求められているので、5月の取引および仕入帳で関連する仕訳は以下のとおりです。これをもとに買掛金元帳（B商店）の記入を行って下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
5/2	買掛金（B商店）	8,000	当座預金	8,000
5	仕入	2,000	買掛金（B商店）	2,000
12	買掛金（B商店）	12,000	支払手形	12,000
17	買掛金（B商店）	17,000	受取手形	17,000
18	仕入	6,600	買掛金（B商店）	6,600
20	買掛金（B商店）	600	仕入	600

問題15-2 **解答**

売　掛　金　元　帳

A　商　店

日付		摘　　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
7	1	前月繰越	40,000		借	40,000
	6	小切手による回収		15,000	〃	25,000
	7	掛け売上	24,000		〃	49,000
	11	約束手形による回収		21,000	〃	28,000
	18	掛け売上	32,000		〃	60,000
	20	掛け戻り		400	〃	59,600
	23	約束手形による回収		17,000	〃	42,600
	31	次月繰越		42,600		
			96,000	96,000		
8	1	前月繰越	42,600		借	42,600

問題15-2 **解説**

売掛金元帳（A商店）の記入が求められているので、7月の取引および売上帳で関連する仕訳は以下のとおりです。これをもとに売掛金元帳（A商店）の記入を行って下さい。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
7/6	現　金	15,000	売掛金（A商店）	15,000
7	売掛金（A商店）	24,000	売　上	24,000
11	受取手形	21,000	売掛金（A商店）	21,000
18	売掛金（A商店）	32,000	売　上	32,000
20	売　上	400	売掛金（A商店）	400
23	受取手形	17,000	売掛金（A商店）	17,000

第16章　帳簿の記入②

16－1　現金出納帳

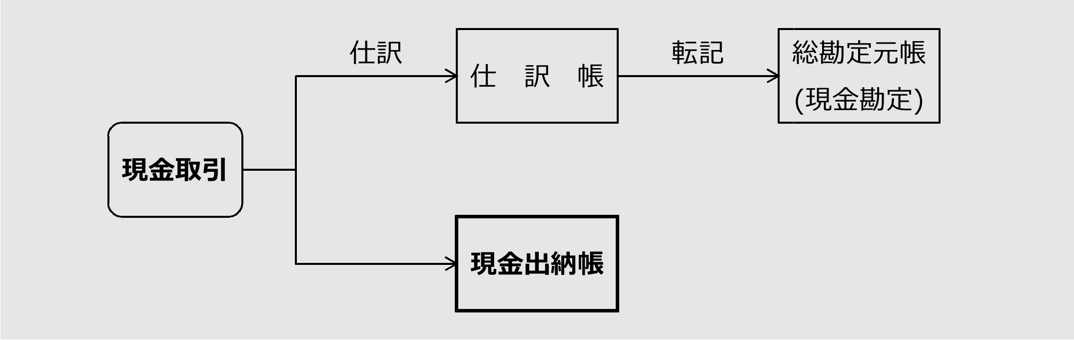
【重要性：B】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「現金」勘定）との関係に注意しよう！

現金の入金（収入）と出金（支出）の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**現金出納帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、現金に関する取引が現金出納帳に記帳されます。



現金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 収入欄には、現金の増加取引を記入します。また、支出欄には現金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を収入欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を支出欄に記入します（赤字で記入（朱記）します）。

⑤ 収入欄と支出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

現　金　出　納　帳

日　付		摘　　要	収　　入	支　　出	残　　高
?	1	前月繰越	×××		×××
	?	A商店より仕入		×××	×××
	?	B商店へ売上	×××		×××
	?	通信費の支払		×××	×××
	?	次月繰越		×××	
			×××	×××	
?	1	前月繰越	×××		×××

例題16－1　**次の現金出納帳から読み取れる3月の取引について、仕訳を行いなさい。**

現　金　出　納　帳

日	付	摘　要	収　入	支　出	残　高
3	1	前月繰越	50,000		50,000
	5	A商店より仕入		15,000	35,000
	17	B商店へ売上	24,000		59,000
	25	通信費の支払		2,000	57,000
	31	次月繰越		57,000	
			74,000	74,000	

日付	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3／5	仕　入	15,000	現　金	15,000
17	現　金	24,000	売　上	24,000
25	通信費	2,000	現　金	2,000

なお、この現金出納帳から読み取れる３月の取引に関する「現金」勘定の記入は以下のとおりです。

現　　金

日	付	摘　要	仕丁	借　方	日	付	摘　要	仕丁	貸　方
3	17	売　上	省	24,000	3	5	仕　入	省	15,000
			略			25	通信費	略	2,000

16－２　当座預金出納帳

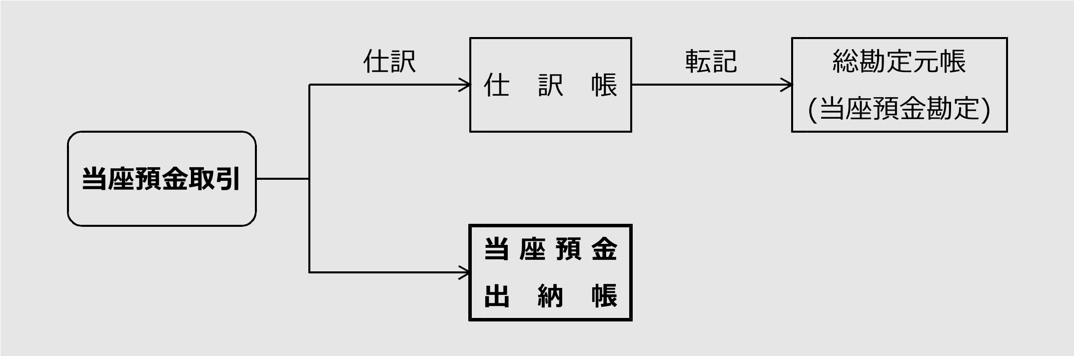
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「当座預金」勘定）との関係に注意しよう！

当座預金の預入（増加）と引出（減少）の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**当座預金出納帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、当座預金に関する取引が当座預金出納帳に記帳されます。



当座預金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 預入欄には、当座預金の増加取引を記入します。また、引出欄には当座預金の減少取引を記入します。残高欄には、取引後の残高を記入します。また、「借または貸」欄には残高が借方残高の場合（資産としての当座預金）には「借」を、残高が貸方残高の場合（負債としての当座借越）には「貸」と記入します。

④ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を預入欄と残高欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を引出欄に記入します（赤字で記入（朱記）します）。

⑤ 預入欄と引出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

当 座 預 金 出 納 帳

日	付	摘　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
?	1	前月繰越	×××		借	×××
	?	A商店に買掛金の支払		×××	〃	×××
	?	B商店の売掛金の回収	×××		〃	×××
	?	備品の購入		×××	〃	×××
	?	次月繰越		×××		
			×××	×××		
?	1	前月繰越	×××		〃	×××

例題16－２　次の当座預金出納帳から読み取れる４月の取引について、仕訳を行いなさい。

当 座 預 金 出 納 帳

日付		摘　　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	70,000		借	70,000
	5	A商店に買掛金の支払		34,000	〃	36,000
	11	B商店の売掛金の回収	45,000		〃	81,000
	20	備品の購入		50,000	〃	31,000
	30	次月繰越		31,000		
			115,000	115,000		

日付	借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
4／5	買　掛　金	34,000	当　座　預　金	34,000
11	当　座　預　金	45,000	売　掛　金	45,000
20	備　品	50,000	当　座　預　金	50,000

なお、この当座預金出納帳から読み取れる４月の取引に関する「当座預金」勘定の記入は以下のとおりです。

当 座 預 金

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
4	11	売　掛　金	省	45,000	4	5	買　掛　金	省	34,000
			略			20	備　品	略	50,000

16－３　小口現金出納帳

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金出納帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「小口現金」勘定）との関係に注意しよう！

[5 − 3]で学習した小口現金出納帳の記入の仕方を説明します。

小口現金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 受入欄には小口現金として受け入れた金額を記入します。また、支払欄には支払金額を記入します。

④ 内訳欄には、支払金額を勘定科目ごとにそれぞれの欄に記入します。

⑤ 月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残高を支払欄に記入します（赤字で記入（朱記）します)。

⑥ 受入欄と支払欄の合計金額を記入し（両者は一致します)、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

⑦ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初残高を受入欄に記入します。

小 口 現 金 出 納 帳

受　入	日　付		摘　　要	支　払	内訳		
					交通費	通信費	雑　費
×××	?	?	小口現金受け入れ				
		?	電車代	×××	×××		
		?	切手代	×××		×××	
		?	お茶菓子代	×××			×××
		?	切手代	×××		×××	
			合　計	×××	×××	×××	×××
×××		?	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	×××			
×××				×××			
×××	?	?	前月繰越				

例題16－3　**次の小口現金出納帳から読み取れる１月の取引について、仕訳を行いなさい。なお、小口現金の補給は小切手振出により行っており、毎月末に庶務係から経理に1ヶ月の支払報告を行っている。**

小 口 現 金 出 納 帳

受 入	日 付		摘 要	支 払	内訳		
					交通費	通信費	雑 費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合 計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			

日付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1／1	小口現金	2,000	当座預金	2,000
31	交通費	300	小口現金	600
	通信費	200		
	雑費	100		
〃	小口現金	600	当座預金	600

なお、この小口現金出納帳から読み取れる１月の取引に関する「小口現金」勘定の記入は以下のとおりです。なお、１月31日における１つ目の仕訳において「小口現金」勘定の相手勘定科目が複数であるので、摘要欄には「諸口（しょくち）」と記入されます。

小 口 現 金

日 付		摘 要	仕丁	借 方	日 付		摘 要	仕丁	貸 方
1	1	当座預金	省	2,000	1	31	諸口	省	600
	31	当座預金	略	600				略	

16－4　受取手形記入帳

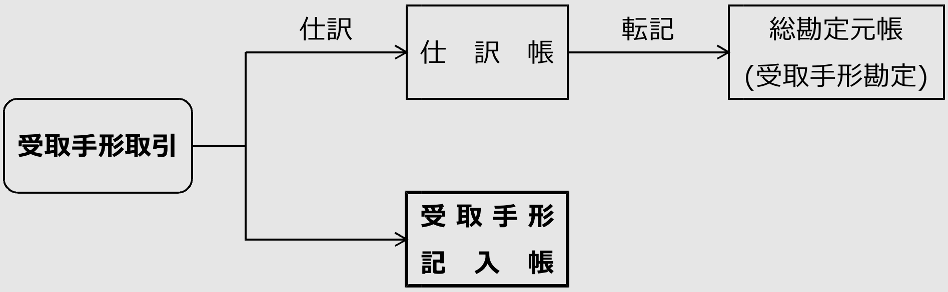
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　受取手形記入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「受取手形」勘定）との関係に注意しよう！

受取手形の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**受取手形記入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、受取手形に関する取引が受取手形記入帳に記帳されます。



受取手形記入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。
② 手形種類欄には、約束手形なら「約手」、為替手形なら「為手」と記入します。
③ 手形番号欄には、手形の番号を記入します。
④ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入します。
⑤ 支払人欄には、手形代金の支払人を記入します。
⑥ 振出人または裏書人欄には、手形の振出人または手形の裏書人を記入します。
⑦ 振出日欄には手形の振出日を、満期日欄には手形の満期日を記入します。
⑧ 支払場所欄には、手形代金が支払われる金融機関名を記入します。
⑨ 手形金額欄には、手形金額を記入します。
⑩ てん末欄には、受取手形の減少した日付とその内容を記入します。手形代金を当座により回収したら「当座入金」、裏書譲渡したら「裏書き」、割り引いたら「割引」と記入します。なお、てん末欄に何も記入されていない場合は、決済されず保有していることを示します。

受　取　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
?	?	約手	22	売　　上	A商店	A商店	?	?	?	?	x銀行	×××	?	?	当座入金
?	?	約手	52	売 掛 金	A商店	A商店	?	?	?	?	x銀行	×××	?	?	裏 書 き
?	?	約手	10	売　　上	D商店	D商店	?	?	?	?	x銀行	×××	?	?	割　　引
?	?	約手	77	売 掛 金	A商店	A商店	?	?	?	?	x銀行	×××			

例題16－４ 次の受取手形記入帳から読み取れる取引について、仕訳を行いなさい。なお、手形の裏書きは仕入代金の支払として行われ、手形の割引にかかる割引料は100円で手取額は当座預金に預け入れた。

受　取　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
4	8	約手	22	売　　上	A商店	A商店	4	8	7	7	x銀行	1,000	7	7	当座入金
5	2	約手	52	売 掛 金	A商店	A商店	5	2	8	2	x銀行	2,000	7	9	裏 書 き
6	5	約手	10	売　　上	D商店	D商店	6	5	9	5	x銀行	3,000	8	1	割　　引
7	1	約手	77	売 掛 金	A商店	A商店	7	1	9	9	x銀行	4,000			

日付	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
4／8	受　取　手　形	1,000	売　　　　上	1,000
5／2	受　取　手　形	2,000	売　掛　金	2,000
6／5	受　取　手　形	3,000	売　　　　上	3,000
7／1	受　取　手　形	4,000	売　掛　金	4,000
7／7	当　座　預　金	1,000	受　取　手　形	1,000
7／9	仕　　　　入	2,000	受　取　手　形	2,000
8／1	当　座　預　金	2,900	受　取　手　形	3,000
	手　形　売　却　損	100		

なお、この受取手形記入帳から読み取れる取引に関する「受取手形」勘定の記入は以下のとおりです。なお、８月１日の仕訳において受取手形勘定の相手勘定科目が複数であるので、摘要欄には「諸口(しょくち)」と記入されます。

受 取 手 形

日	付	摘　　要	仕丁	借　方	日	付	摘　　要	仕丁	貸　方
4	8	売　　上	省略	1,000	7	7	当 座 預 金	省略	1,000
5	2	売　掛　金		2,000		9	仕　　入		2,000
6	5	売　　上		3,000	8	1	諸　　口		3,000
7	1	売　掛　金		4,000					

16－5　支払手形記入帳

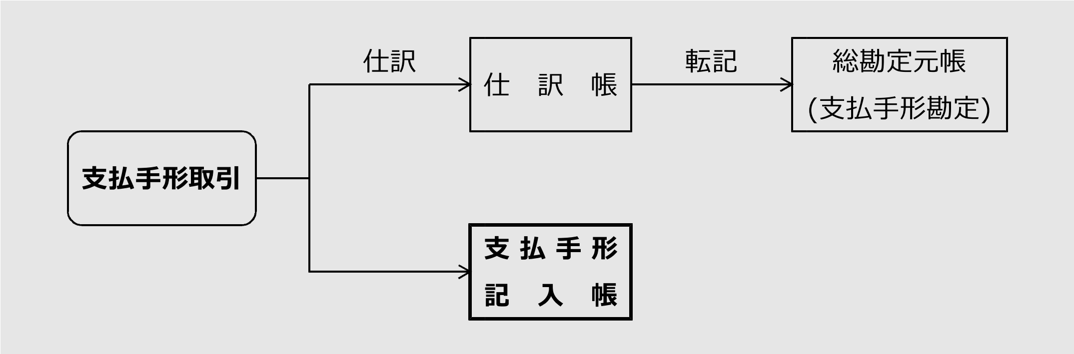
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　支払手形記入帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「支払手形」勘定）との関係に注意しよう！

支払手形の明細を記録するための補助簿（補助記入帳）を、**支払手形記入帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、支払手形に関する取引が支払手形記入帳に記帳されます。



支払手形記入帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。
② 手形種類欄には、約束手形なら「約手」、為替手形なら「為手」と記入します。
③ 手形番号欄には、手形の番号を記入します。
④ 摘要欄には、仕訳の相手勘定科目を記入します。
⑤ 受取人欄には、手形代金の受取人を記入します。
⑥ 振出人欄には、手形の振出人を記入します。
⑦ 振出日欄には手形の振出日を、満期日欄には手形の満期日を記入します。
⑧ 支払場所欄には、手形代金が支払われる金融機関名を記入します。
⑨ 手形金額欄には、手形金額を記入します。
⑩ てん末欄には、支払手形の減少した日付とその内容を記入します。手形代金を当座により支払った場合には「当座支払」と記入します。なお、てん末欄に何も記入されていない場合は満期日が到来しておらず、支払っていないことを示します。

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
?	?	約手	22	仕　入	B商店	当店	?	?	?	?	x銀行	×××	?	?	当座支払
?	?	約手	23	買掛金	D商店	当店	?	?	?	?	x銀行	×××			

例題16－5 **次の支払手形記入帳から読み取れる取引について、仕訳を行いなさい。**

支払手形記入帳

日付		手形種類	手形番号	摘要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘要
4	8	約手	22	仕入	B商店	当店	4	8	7	7	x銀行	1,000	7	7	当座支払
6	5	約手	23	買掛金	D商店	当店	6	5	9	5	x銀行	3,000			

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4／8	仕入	1,000	支払手形	1,000
6／5	買掛金	3,000	支払手形	3,000
7／7	支払手形	1,000	当座預金	1,000

なお、この支払手形記入帳から読み取れる取引に関する「支払手形」勘定の記入は以下のとおりです。

支払手形

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
7	7	当座預金	省略	1,000	4	8	仕入	省略	1,000
					6	5	買掛金	省略	3,000

16－6　商品有高帳

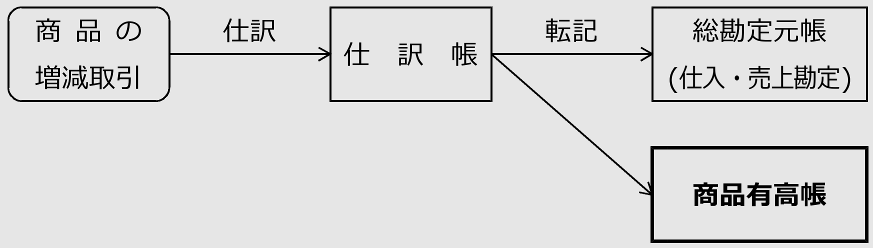
【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　商品有高帳から情報を読み取り、仕訳を行えるようにしよう！

②　総勘定元帳（「仕入」勘定、「売上」勘定）との関係に注意しよう！

商品の種類ごとの受入や払出などの明細を記録するための補助簿（補助元帳）を、**商品有高帳**といいます。仕訳帳と総勘定元帳への記帳のほかに、**商品の原価**に関する取引が商品種類別の商品有高帳に記帳されます。



商品有高帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 摘要欄には、取引の内容を簡潔に記入します。

③ 受入欄には、受け入れた商品の数量、単価、金額（＝単価×数量）を記入します。

④ 払出欄には、払い出した商品の数量、単価（仕入単価）、金額を原価（取得原価）で記入します。売価ではないので注意して下さい。

⑤ 残高欄には、取引後の数量、単価、金額を記入します。

⑥ 月初には摘要欄に「前月繰越」と記入し、月初の商品の数量、単価、金額を受入欄に記入します。また、月末には摘要欄に「次月繰越」と記入し、月末残の商品の数量、単価、金額を払出欄に記入します（赤字で記入（朱記）します）。

⑦ 受入欄と払出欄の合計金額を記入し（両者は一致します）、二重線（締切線ともいいます）を引いて締め切ります。

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
?	?	前月繰越	××	××	×××				××	××	×××
	?	仕　　入	××	××	×××				××	××	×××
	?	売　　上				××	××	×××	××	××	×××
	?	仕　　入	××	××	×××				××	××	×××
	?	売　　上				××	××	×××	××	××	×××
	?	次月繰越				××	××	×××			
			××		×××	××		×××			

例題16－６　次の商品有高帳から読み取れる９月の取引について、仕訳を行いなさい。なお、商品売買はすべて掛取引であり、売価は@150円であった。

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　入	30	100	3,000				50	100	5,000
	10	売　上				40	100	4,000	10	100	1,000
	15	仕　入	50	100	5,000				60	100	6,000
	20	売　上				45	100	4,500	15	100	1,500
	30	次月繰越				15	100	1,500			
			100		10,000	100		10,000			

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
9／5	仕入	3,000	買掛金	3,000
10	売掛金	6,000	売上	6,000
15	仕入	5,000	買掛金	5,000
20	売掛金	6,750	売上	6,750

９月10日売上金額：@150×40個＝6,000

９月20日売上金額：@150×45個＝6,750

また、この仕入帳から読み取れる９月の取引に関する「売上」勘定、「仕入」勘定の記入は以下のとおりです。

売　　上

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
			省		9	10	売掛金	省	6,000
			略			20	売掛金	略	6,750

仕　　入

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
9	5	買掛金	省	3,000				省	
	15	買掛金	略	5,000				略	

第16章　帳簿の記入②　問題

問題16-1　以下の現金出納帳および当座預金出納帳から読み取れる仕訳を行いなさい。

現　金　出　納　帳

日	付	摘　　要	収　　入	支　　出	残　　高
4	1	前月繰越	60,000		60,000
	7	買掛金の支払い		33,000	27,000
	19	売掛金の回収	34,000		61,000
	21	当座預金へ預入		10,000	51,000
	27	旅費の支払い		9,000	42,000
	30	次月繰越		42,000	
			94,000	94,000	
5	1	前月繰越	42,000		42,000

当 座 預 金 出 納 帳

日	付	摘　　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
4	1	前月繰越	120,000		借	120,000
	3	A商店より仕入		70,000	〃	50,000
	11	B商店へ売上	65,000		〃	115,000
	21	現金の預入	10,000		〃	125,000
	28	買掛金の支払い		50,000	〃	75,000
	30	次月繰越		75,000		
			195,000	195,000		
5	1	前月繰越	75,000		〃	75,000

問題16-2 以下の小口現金出納帳から読み取れる仕訳を行いなさい。なお、当店は小口現金の管理方法として定額資金前渡制度を採用しており、１ヶ月の終わりに用度係は会計係に支払明細の報告を行うことにしている。

小口現金出納帳

受入	日付		摘要	支払	内訳		
					交通費	通信費	雑費
3,000	6	1	小切手				
		3	はがき	400			
		5	電車代	200			
		7	バス代	300			
		9	電話料金	100			
		11	お茶代	500			
		15	切手代	700			
		24	お菓子代	600			
			合計	?	?	?	?
		30	次月繰越	?			
?				?			
?	7	1	前月繰越				
?		〃	小切手				

問題16-3　以下の受取手形記入帳と支払手形記入帳から読み取れる仕訳を行いなさい。なお、6月9日の手形の裏書きは、商品の仕入代金の支払いのためである。また、7月1日の手形の割引にかかる割引料は200円であり、手取額は当座預金に預け入れた。

受　取　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
2	9	約手	22	売　　上	A商店	A商店	2	9	5	9	x銀行	50,000	5	9	当座入金
4	7	約手	52	売 掛 金	A商店	A商店	4	7	7	7	x銀行	20,000	6	9	裏 書 き
6	5	約手	10	売　　上	E商店	E商店	6	5	8	5	x銀行	30,000	7	1	割　　引
8	3	約手	77	売 掛 金	A商店	A商店	8	3	9	9	x銀行	40,000			

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
3	3	約手	22	仕　　入	B商店	当 店	4	8	7	7	x銀行	28,000	7	7	当座支払
6	1	約手	23	買 掛 金	D商店	当 店	6	1	9	1	x銀行	42,000			

第16章　帳簿の記入②　答案用紙

問題16-1

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
4/3				
7				
11				
19				
21				
27				
28				

問題16-2

	借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
6/1				
30				
7/1				

問題16-3

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
2/9				
3/3				
4/7				
5/9				
6/1				
5				
9				
7/1				
7				
8/3				

第16章　帳簿の記入②　解答解説

問題16-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
4/3	仕　入	70,000	当座預金	70,000
7	買掛金	33,000	現　金	33,000
11	当座預金	65,000	売　上	65,000
19	現　金	34,000	売掛金	34,000
21	当座預金	10,000	現　金	10,000
27	旅　費	9,000	現　金	9,000
28	買掛金	50,000	当座預金	50,000

問題16-1　**解説**

現金出納帳における4/21「当座預金へ預入」と当座預金出納帳における4/21「現金の預入」は同じ取引なので、２重に仕訳を行わないように注意して下さい。

問題16-2 **解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/1	小口現金	3,000	当座預金	3,000
30	交通費	500	現金	2,800
	通信費	1,200		
	雑費	1,100		
7/1	小口現金	2,800	当座預金	2,800

問題16-2 **解説**

問題文の小口現金出納帳の空欄を埋めると以下となります。電車代・バス代は交通費、はがき・電話料金・切手代は通信費、お茶代・お菓子代は雑費となります。また、仕訳を行うのは会計係であり、小口現金の支払明細の報告を受けた6/30に仕訳を行うことに注意して下さい。

小 口 現 金 出 納 帳

受入	日付		摘要	支払	内訳		
					交通費	通信費	雑費
3,000	6	1	小切手				
		3	はがき	400		400	
		5	電車代	200	200		
		7	バス代	300	300		
		9	電話料金	100		100	
		11	お茶代	500			500
		15	切手代	700		700	
		24	お菓子代	600			600
			合計	2,800	500	1,200	1,100
		30	次月繰越	200			
3,000				3,000			
200	7	1	前月繰越				
2,800		〃	小切手				

問題16-3　解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/9	受取手形	50,000	売上	50,000
3/3	仕入	28,000	支払手形	28,000
4/7	受取手形	20,000	売掛金	20,000
5/9	当座預金	50,000	受取手形	50,000
6/1	買掛金	42,000	支払手形	42,000
5	受取手形	30,000	売上	30,000
9	仕入	20,000	受取手形	20,000
7/1	当座預金 手形売却損	29,800 200	受取手形	30,000
7	支払手形	28,000	当座預金	28,000
8/3	受取手形	40,000	売掛金	40,000

問題16-3 **解説**

受取手形記入帳から読み取れる仕訳は以下のとおりである。受取手形記入帳のてん末欄に注意して下さい。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/9	受取手形	50,000	売上	50,000
4/7	受取手形	20,000	売掛金	20,000
5/9	当座預金	50,000	受取手形	50,000
6/5	受取手形	30,000	売上	30,000
9	仕入	20,000	受取手形	20,000
7/1	当座預金	29,800	受取手形	30,000
	手形売却損	200		
8/3	受取手形	40,000	売掛金	40,000

支払手形記入帳から読み取れる仕訳は以下のとおりである。支払手形記入帳のてん末欄に注意して下さい。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
3/3	仕入	28,000	支払手形	28,000
6/1	買掛金	42,000	支払手形	42,000
7/7	支払手形	28,000	当座預金	28,000

第17章　商品売買③

17－1　先入先出法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　先入先出法のルールを覚えよう！

②　商品有高帳に記入できるようになろう！

③　売上原価や期末商品の金額を算定できるようになろう！

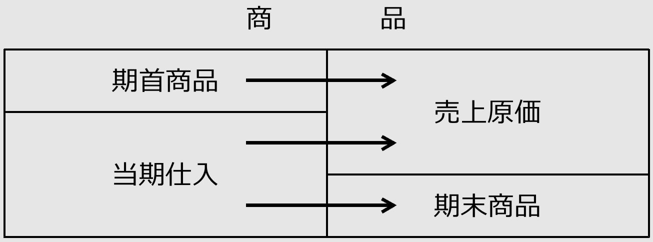
（１）払出単価の計算

同一の商品を複数回に分けて仕入れた場合、仕入の単価が異なる場合があります。この場合、売上原価や期末商品の算定にあたり、払い出した商品にどの単価をつけるのかが問題となります。この論点を**商品の払出単価（はらいだしたんか）の計算**といいます。

商品の払出単価の計算方法には様々な方法がありますが、全商簿記３級では、**先入先出法（さきいれさきだしほう）**と**移動平均法（いどうへいきんほう）**が出題されます。

（２）先入先出法

先入先出法とは、先に受け入れた商品から先に払い出されたと仮定して、商品の払出単価を計算する方法です。したがって、古く仕入れた商品が売上原価を構成し、期末商品は新しく仕入れた商品から構成されることになります。



例題17－1　**９月の商品の仕入と売上の状況は以下のとおりです。先入先出法を採用している場合の９月の売上原価と９月末における商品の金額を答えなさい。**

９月初　商品在庫　20個　@100円
５日　仕　　入　30個　@110円
10日　売　　上　40個
15日　仕　　入　50個　@112円
20日　売　　上　45個
９月末　商品在庫　15個

商　品　有　高　帳

(先入先出法)

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　　入	30	110	3,300				20	100	2,000
									30	110	3,300
	10	売　　上				20	100	2,000			
						20	110	2,200	10	110	1,100
	15	仕　　入	50	112	5,600				10	110	1,100
									50	112	5,600
	20	売　　上				10	110	1,100			
						35	112	3,920	15	112	1,680
	30	次月繰越				15	112	1,680			
			100		10,900	100		10,900			

①　売上原価を払出にしたがって計算する場合

９月10日の払出40個は、先に仕入れた月初在庫20個（@100円）と後に仕入れた９月５日仕入分20個（@110円）です。また、９月20日の払出45個は、先に仕入れた９月５日仕入分10個（@110円）と９月15日仕入分35個（@112円）です。

したがって、売上原価は、

月初在庫@100×20個＋９月５日仕入分(@110×20個＋@110×10個)

＋９月15日仕入分@112円×35個＝9,220円となります。

② 期末（月末）商品を求め、売上原価を差額で計算する場合

先入先出法は、先に仕入れた商品から先に払い出したと仮定して計算する方法ですが、後から仕入れた商品が期末（または月末）に残ることになります。

最後の仕入である９月15日の仕入50個に対して、月末の在庫数は15個なので、月末の在庫はすべて９月15日仕入分から構成されます。

したがって、月末商品は、９月15日仕入分@112円×15個＝1,680円となります。

そして、売上原価は以下のように逆算で求めた方が早いでしょう。

月初在庫@100円×20個＋仕入(９月５日仕入分@110円×30個
＋９月15日仕入分@112円×50個)－月末在庫@112円×15個＝売上原価9,220円

ボックス図で示すと以下のようになります。

① 売上原価を払出にしたがって計算する場合

商　　品

月初商品 @100×20個＝2,000	売上原価
当月仕入	9/10 @100×20個＝2,000
9/5 @110×30個＝3,300	@110×20個＝2,200
	9/20 @110×10個＝1,100
9/15 @112×50個＝5,600	@112×35個＝3,920
	月末商品 差額 1,680
合　計 10,900	合　計 10,900

② 期末（月末）商品を求め、売上原価を差額で計算する場合

商　　品

月初商品 @100×20個＝2,000	売上原価
当月仕入	
9/5 @110×30個＝3,300	差額 9,220
9/15 @112×50個＝5,600	
	月末商品 @112×15個＝1,680
合　計 10,900	合　計 10,900

17－2　移動平均法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　移動平均法のルールを覚えよう！

②　商品有高帳に記入できるようになろう！

③　売上原価や期末商品の金額を算定できるようになろう！

移動平均法（いどうへいきんほう）とは、商品の受入の都度、平均単価を計算して、平均単価を払出単価とする方法です。なお、移動平均単価は以下の式で算定します。

$$\textbf{移動平均単価} = \frac{\textbf{仕入前商品残高} + \textbf{仕入金額}}{\textbf{仕入前商品数量} + \textbf{仕入数量}}$$

例題17－２　**９月の商品の仕入と売上の状況は以下のとおりです。移動平均法を採用している場合の９月の売上原価と９月末における商品の金額を答えなさい。**
(例題17－１と同じ数値です)

９月初	**商品在庫**		**20個**	**@100円**
５日	**仕**	**入**	**30個**	**@110円**
10日	**売**	**上**	**40個**	
15日	**仕**	**入**	**50個**	**@112円**
20日	**売**	**上**	**45個**	
９月末	**商品在庫**		**15個**	

商　品　有　高　帳

(移動平均法)

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
9	1	前月繰越	20	100	2,000				20	100	2,000
	5	仕　入	30	110	3,300				50	106	5,300
	10	売　上				40	106	4,240	10	106	1,060
	15	仕　入	50	112	5,600				60	111	6,660
	20	売　上				45	111	4,995	15	111	1,665
	30	次月繰越				15	111	1,665			
			100		10,900	100		10,900			

９月５日仕入後の移動平均単価は、(2,000円＋3,300円)÷(20個＋30個)＝106円となります。したがって、９月10日の払出40個は、９月５日仕入後の移動平均単価@106円で計算されます。

９月15日仕入後の移動平均単価は、(1,060円＋5,600円)÷(10個＋50個)＝111円となります。したがって、９月20日の払出45個は、９月15日仕入後の移動平均単価@111円で計算されます。

その結果、売上原価は、９月10日払出分@106円×40個＋９月20日払出分@111円×45個＝9,235円となり、月末商品は、@111円×15個＝1,665円となります。

ボックス図で示すと以下のようになります。なお、１ヶ月単位で計算する場合、期首商品は月初商品、当期仕入は当月仕入、期末商品は月末商品となります。

商　　品

借方		貸方	
月初商品	@100×20個＝2,000	売上原価	
当月仕入		9/10	@106×40個＝4,240
9/5	@110×30個＝3,300	9/20	@111×45個＝4,995
9/15	@112×50個＝5,600	月末商品	@111×15個＝1,665
合　計	10,900	合　計	10,900

17－3　分記法

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　分記法とはどのような記帳方法か理解しよう！

②　分記法における勘定科目を覚えよう！

③　分記法における仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「商品」勘定（資産）

「商品売買益」勘定（収益）

（１）分記法

分記法(ぶんきほう)とは、商品売買取引を「**商　品**(しようひん)」勘定（**資産**）、「**商品売買益**(しようひんばいばいえき)」勘定（**収益**）の２つの勘定を用いて仕訳する方法です。なお、「商品売買益」勘定は実際には「収益－費用」である利益を表しますが、通常、貸方に仕訳されますので収益と考えればよいでしょう。

（２）期首商品がない場合

例題17－３　**@100円の商品10個を仕入れ、代金1,000円は現金で支払った。そのうち、８個を@120円で販売し、代金960円は現金で受け取った。その結果、期末に、商品200円（@100円、２個）が在庫として残っている。（例題４－１と同じ数値です）**

①　仕入時（期中取引）

商品を購入すると資産である商品が増加しますので、「商品」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
商　　　品	**1,000**	**現　　　金**	**1,000**

②　売上時（期中取引）

商品を販売した時には資産である商品が800円（＝@100円×８個）減少しましたので、「商品」勘定（資産）を減少させるとともに、売価と原価の差額を「商品売買益」勘定（収益）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　金	**960**	**商　　　品**	**800**
		商 品 売 買 益	**160**

③　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

商　　　品	200	商 品 売 買 益	160

④　決算整理

前T/Bにおいて、「商品」勘定（資産）が期末商品200円（＝@100円×２個）を示し、「商品売買益」勘定（収益）は当期の販売利益を示しており、経営成績と財政状態を正しく表しています。したがって、決算整理仕訳はありません。

⑤　決算整理後残高試算表（前T/Bと同じです）

決算整理後残高試算表（一部）

商　　　　　　品	200	商　品　売　買　益	160

⑥　損益計算書・貸借対照表での表示

分記法を採用していても、損益計算書、貸借対照表は三分法と同じになります。つまり、当期の販売高960円（＝@120円×８個）を**売上高**として表示し、当期の売上原価800円（＝@100円×８個）を**売上原価**として表示します。

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	800	売　　上　　高	960

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　　　　品	200		

（３）期首商品がある場合

例題17－４ **期首に商品200円（@100円、２個）があった。@100円の商品11個を仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、３個）が在庫として残っている。（例題４－２ と同じ数値です）**

① 繰越試算表

前期から商品200円が「商品」勘定（資産）で繰り越されます。

繰　越　試　算　表（一部）

商　　　品	200		

② 仕入時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
商　　　品	**1,100**	**現　　　金**	**1,100**

③ 売上時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　金	**1,200**	**商　　　品**	**1,000**
		商品売買益	**200**

商品：@100×10個＝1,000

商品売買益：売上高1,200－売上原価1,000＝1,000

④ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

商　　　品	300	商品売買益	200

⑤ 決算整理

決算整理仕訳はありません

⑥ 決算整理後残高試算表（前T/Bと同じです）

決算整理後残高試算表（一部）

商　　　品	300	商品売買益	200

⑦　損益計算書・貸借対照表での表示

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	1,000	売　上　高	1,200

売 上 高：@120円×10個＝1,200
売上原価：@100円×10個＝1,000

貸　借　対　照　表（一部）

商　品	300		

⑧　ボックス図（**例題17－4** の数値を使っています）
分記法でも、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　品

期首商品	200	売上原価	1,000
当期仕入	1,100		
		期末商品	300

商品売買益 200
売上原価 1,000 ←→ 売上高 1,200

（4）返品

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

① 仕入戻し

仕入れた商品を返品した場合、仕入がなかったことになるため、「商品」勘定（資産）の減少として処理します。

例題17－5　仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。(例題10－2 と同じです)

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　品　100 / 買　掛　金　100

仕入戻し時には、仕入時の仕訳を取り消す処理を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**100**	**商品**	**100**

これにより、仕入はなかったことになります。

② 売上戻り

売り上げた商品が返品された場合、売上がなかったことになるため、「商品売買益」勘定（収益）の減少と「商品」勘定（資産）の増加として処理します。

例題17－6　得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。(例題10－3 と同じです)

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 商　品　100
　　　　　　　　　商品売買益　20

売上戻り時には、売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	**100**	**売掛金**	**120**
商品売買益	**20**		

これにより、売上はなかったことになります。

（5）値引

値引があると、当初の仕入価額や売上金額より安くなったことになるので、「商品」勘定（資産）や「商品売買益」勘定（収益）を減少する処理を行います。

① 仕入値引

仕入値引を受けると、仕入価額が安くなりますので、「商品」勘定（資産）を減少させます。

例題17－7　仕入先から掛仕入した商品100円に傷があったので値引10円を受けた。(例題10－4 と同じです)

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　品　100 / 買　掛　金　100

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
買　掛　金	**10**	**商　品**	**10**

これにより、90円で商品を仕入れたことになります。

② 売上値引

売上値引を行うと、その分だけ売価が減少するとともに、販売益も減少します。したがって、分記法では「商品売買益」勘定（収益）を減少させます。

例題17－8　得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）に傷があったので値引10円を行った。(例題10－5 と同じです)

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 商　品　100
　　　　　　　　　商 品 売 買 益　20

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
商 品 売 買 益	**10**	**売　掛　金**	**10**

これにより、110円で商品を売り上げたことになり、商品売買益は10円（＝110円－100円）となります。

第17章　商品売買③　問題

問題17-1　**以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（先入先出法）と、1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。**

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	3	A商店　　　掛け		
		商品X　　15個　　@80		1,200
	20	B商店　　　掛け		
		商品X　　14個　　@70		980

売　　上　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	15	P商店　　　掛け		
		商品X　　12個　　@105		1,260
	28	M商店　　　掛け		
		商品X　　16個　　@100		1,600

問題17-2　以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（移動平均法）と、1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。

仕　入　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	3	A商店　　掛け		
		商品X　15個　@80		1,200
	20	B商店　　掛け		
		商品X　25個　@76		1,900

売　上　帳

日	付	摘　要	内　訳	金　額
1	15	P商店　　掛け		
		商品X　10個　@105		1,050
	28	M商店　　掛け		
		商品X　23個　@100		2,300

第17章　商品売買③　答案用紙

問題17-1

(先入先出法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入									
	15	売　　上									
	20	仕　　入									
	28	売　　上									
	31	次月繰越									

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　　　)
当月商品仕入高	(　　　　　)
合　　計	(　　　　　)
月末商品棚卸高	(　　　　　)
売　上　原　価	(　　　　　)

売上総利益の計算

売　　上　　高	(　　　　　)
売　上　原　価	(　　　　　)
売 上 総 利 益	(　　　　　)

問題17-2

(移動平均法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　入									
	15	売　上									
	20	仕　入									
	28	売　上									
	31	次月繰越									

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　)
当月商品仕入高	(　　　)
合　　計	(　　　)
月末商品棚卸高	(　　　)
売　上　原　価	(　　　)

売上総利益の計算

売　上　高	(　　　)
売　上　原　価	(　　　)
売 上 総 利 益	(　　　)

第17章　商品売買③　解答解説

問題17-1　**解答**

(先入先出法)　　　商品有高帳

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入	15	80	1,200				{ 10	90	900
									15	80	1,200
	15	売　　上				{ 10	90	900			
						2	80	160	13	80	1,040
	20	仕　　入	14	70	980				{ 13	80	1,040
									14	70	980
	28	売　　上				{ 13	80	1,040			
						3	70	210	11	70	770
	31	次月繰越				11	70	770			
			39		3,080	39		3,080			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(900)
当月商品仕入高	(2,180)
合　　計	(3,080)
月末商品棚卸高	(770)
売　上　原　価	(2,310)

売上総利益の計算

売　　上　　高	(2,860)
売　上　原　価	(2,310)
売上総利益	(550)

問題17-1　**解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋980＝2,180

月末商品棚卸高：@70×11個＝770

売上原価：900＋160＋1,040＋210=2,310

売上高：1,260＋1,600＝2,860

売上総利益：売上高2,860－売上原価2,310＝550

問題17-2　**解答**

(移動平均法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受入			払出			残高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　入	15	80	1,200				25	84	2,100
	15	売　上				10	84	840	15	84	1,260
	20	仕　入	25	76	1,900				40	79	3,160
	28	売　上				23	79	1,817	17	79	1,343
	31	次月繰越				17	79	1,343			
			50		4,000	50		4,000			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(900)
当月商品仕入高	(3,100)
合　計	(4,000)
月末商品棚卸高	(1,343)
売上原価	(2,657)

売上総利益の計算

売上高	(3,350)
売上原価	(2,657)
売上総利益	(693)

問題17-2　**解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋1,900＝3,100

月末商品棚卸高：@79×17個＝1,343

売上原価：840＋1,817=2,657

売上高：1,050＋2,300＝3,350

売上総利益：売上高3,350－売上原価2,657＝693

第18章　帳簿の締切

18－1　損益振替

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 決算振替では何が行われるかを大まかにとらえよう！

② 損益振替の目的を理解しよう！

③ 損益振替仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「損益」勘定

（１）決算振替

　決算整理を行うことによって、当期の経営成績を表す正しい収益と費用になり、また、当期の財政状態を表す正しい資産、負債及び純資産となり、損益計算書と貸借対照表を作成しました。

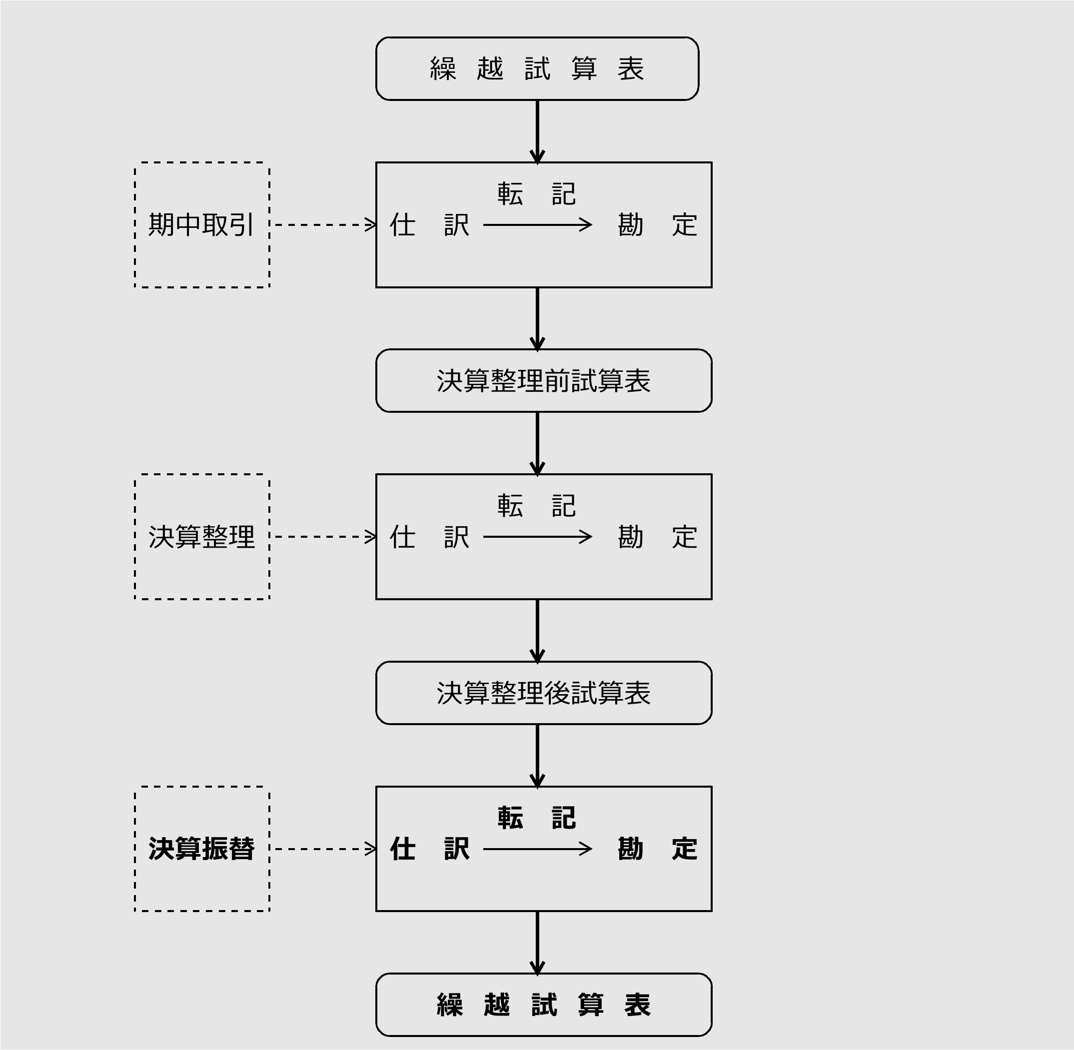
　しかし、損益計算書と貸借対照表は財務諸表であり、帳簿ではありません。帳簿においても当期の勘定記入と次期の勘定記入を区別するため、**帳簿の締切**（しめきり）という手続きを行います。

　帳簿の締切の手続きは、次の流れで行います。

①　損益振替（そんえきふりかえ）
②　資本振替（しほんふりかえ）
③　資産、負債及び純資産の勘定残高の繰越
④　繰越試算表（くりこししさんひょう）の作成

　損益振替と資本振替をあわせて**決算振替**（けつさんふりかえ）といい、決算振替で行う仕訳を**決算振替仕訳**（けつさんふりかえしわけ）といいます。

決算振替が簿記一巡の中でどこに該当するのかを理解していただくために、簿記一巡の図を再度、記載します。



（2）損益振替

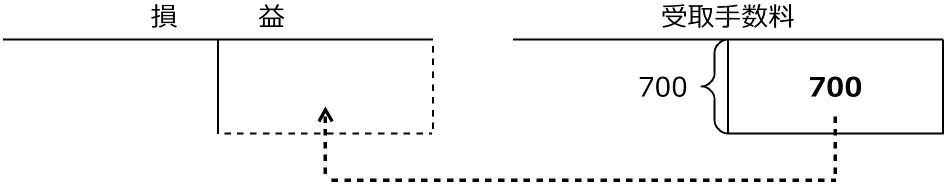
決算整理で正しい残高となった収益、費用をもとに損益計算書で当期純利益を算定しますが、帳簿においても当期純利益を算定するために、収益と費用の各勘定残高を「**損益**」勘定に振り替えます。これを**損益振替**といいます。なお、「損益」勘定は決算振替の際にのみ利用し、期中取引や決算整理においては利用されません。

損益振替を行うと収益と費用のすべての勘定残高が「損益」勘定に集まり、その差額で当期純利益を算定します。また、損益振替を行うことで収益、費用の各勘定の残高がゼロとなり、収益と費用の勘定は締め切られます。

実際の勘定記入とは異なりますが、損益振替のイメージは以下のようになります。

・収益勘定の振替

①　損益振替前

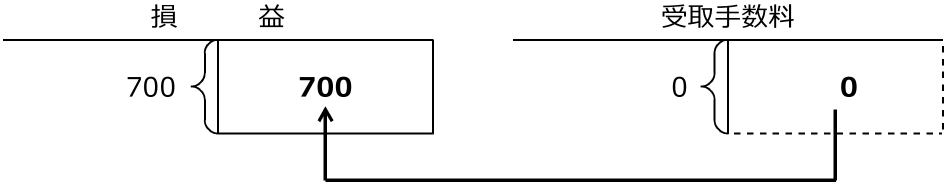


②　損益振替仕訳

「受取手数料」勘定（収益）の貸方残高700を「損益」勘定の貸方に振り替えます。損益振替を行うと、「損益」勘定の貸方に700が記入され、「受取手数料」勘定の残高はゼロとなります（③損益振替後を見て下さい）。そこで、借方に「受取手数料」勘定700、貸方に「損益」勘定700として仕訳を行います。

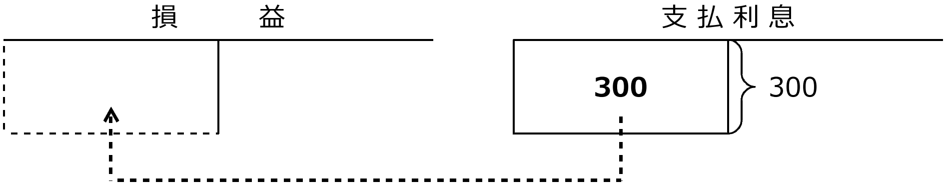
借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手数料	**700**	**損益**	**700**

③　損益振替後



・費用勘定の振替

①　損益振替前

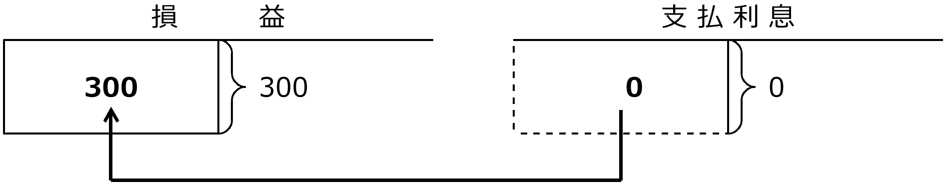


②　損益振替仕訳

「支払利息」勘定（費用）の借方残高300を「損益」勘定の借方に振り替えます。損益振替を行うと、「損益」勘定の借方に300が記入され、「支払利息」勘定の残高はゼロとなります（③損益振替後を見て下さい）。そこで、借方に「損益」勘定300、貸方に「支払利息」勘定300として仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
損　　益	**300**	**支　払　利　息**	**300**

③　損益振替後



実際の勘定の記入は以下となります。「損益」勘定の差額で当期純利益400を算定します。また、損益振替を行うと収益と費用の各勘定は残高がゼロとなり、締め切られます。

受取手数料

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	損　　益	700	4	4	現　　金	700

支払利息

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	3	現　　金	300	12	31	損　　益	300

損　益

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	支　払　利　息	300	12	31	受　取　手　数　料	700

18－2　資本振替

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　資本振替の目的を理解しよう！

②　資本振替仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「損益」勘定

「資本金」勘定（純資産）

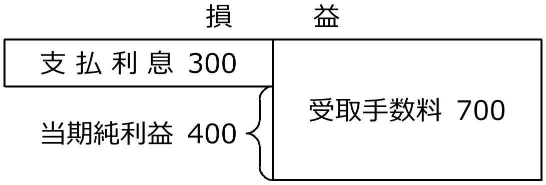
損益振替（そんえきふりかえ）によって、収益と費用の各勘定残高が「損益」勘定に振り替えられ、その差額で当期純利益を算定します。当期純利益は元手をもとにして獲得した利益であり、その分だけ純資産が増加します。

そこで、「損益」勘定で算定した当期純利益を「**資本金**」勘定（**純資産**）に振り替えます。これを**資本振替**（しほんふりかえ）といいます。

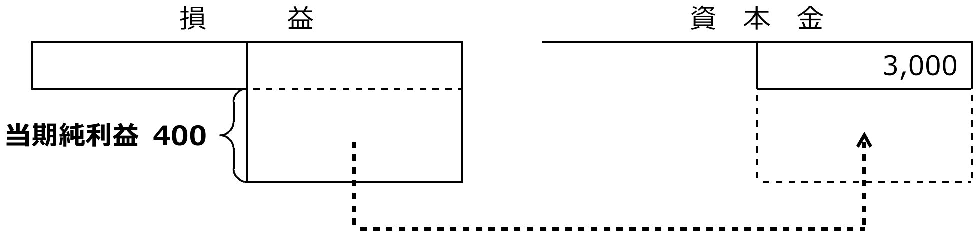
実際の勘定記入とは異なりますが、資本振替のイメージは以下のようになります。

・損益振替後の「損益」勘定

受取手数料（収益）700と支払利息（費用）300を損益勘定に振り替えています。



① 資本振替前

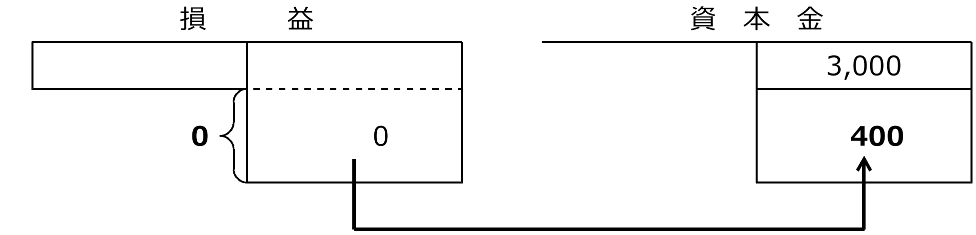


② 資本振替仕訳

「損益」勘定の貸方残高400（当期純利益）を「資本金」勘定の貸方に振り替えます。資本振替を行うと、「資本金」勘定の貸方に400が記入され、「損益」勘定の残高はゼロとなります（③資本振替後を見て下さい）。そこで、借方に「損益」勘定400、貸方に「資本金」勘定400として仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
損　　　　益	**400**	**資　　本　　金**	**400**

③ 資本振替後



実際の勘定の記入は以下となります。

損　　益

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
12	31	支払利息	300	12	31	受取手数料	700
	〃	資本金	400				
			700				700

資　本　金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
				1	1	現金	3,000
				12	31	損益	400

18－3　勘定の締切

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

勘定の締切方法をマスターしよう！

（１）資産、負債及び純資産の勘定残高の繰越

資産、負債及び純資産の各勘定は残高がある側とは貸借反対側の摘要欄に「**次期繰越**（じきくりこし）」、金額欄（借方欄または貸方欄）に**残高の金額**を記入（赤字で書きます）して締め切ります。

現　　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000	12	31	次期繰越	5,400
4	4	受取手数料	700				
			5,700				5,700

借　入　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	2,000	2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘要	借方	日付		摘要	貸方
12	31	次期繰越	3,400	1	1	現金	3,000
				12	31	損益	400
			3,400				3,400

（２）繰越試算表の作成

資産、負債及び純資産の各勘定を締め切ったら、**繰越試算表**（くりこししさんひょう）を作成します。**繰越試算表**とは、資産、負債、純資産の次期繰越金額を集計した試算表です。

繰　越　試　算　表

借方	勘定科目	貸方
5,400	現金	
	借入金	2,000
	資本金	3,400
5,400		5,400

例題18－1　**次の決算整理後残高試算表に基づいて、①決算振替仕訳を行い、②各勘定の締切を行い、③繰越試算表を作成しなさい。（例題３－２　と同じ数値です）**

決算整理後残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
5,400	現　　　　金	
	借　　入　　金	2,000
	資　　本　　金	3,000
	受　取　手　数　料	700
300	支　払　利　息	
5,700		5,700

①　決算振替仕訳

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
受　取　手　数　料	**700**	**損　　　　益**	**700**
損　　　　益	**300**	**支　払　利　息**	**300**
損　　　　益	**400**	**資　　本　　金**	**400**

②　各勘定の締切

受取手数料

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	損　　　　益	700	4	4	現　　　　金	700

支 払 利 息

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
3	3	現　　　　金	300	12	31	損　　　　益	300

損　　益

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	支　払　利　息	300	12	31	受　取　手　数　料	700
	〃	資　　本　　金	400				
			700				700

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	資本金	3,000	3	3	支払利息	300
2	2	借入金	2,000	12	31	次期繰越	5,400
4	4	受取手数料	700				
			5,700				5,700

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	次期繰越	2,000	2	2	現金	2,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	次期繰越	3,400	1	1	現金	3,000
				12	31	損益	400
			3,400				3,400

③　繰越試算表

繰　越　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
5,400	現金	
	借入金	2,000
	資本金	3,400
5,400		5,400

［参考］
本問において、損益計算書と貸借対照表を作成すると、以下のようになります。実質的には、「損益」勘定が損益計算書と、繰越試算表が貸借対照表と同じです。
ただし、当期純利益について、貸借対照表では資本金と区別して計上されますが、勘定では「資本金」勘定に含められる点が異なるので注意して下さい。

損　益　計　算　書

支払利息	300	受取手数料	700
当期純利益	400		
	700		700

貸　借　対　照　表

現金	5,400	借入金	2,000
		資本金	3,000
		当期純利益	400
	5,400		5,400

18－4　開始記入

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

開始記入をマスターしよう！

決算が終わり、次期になりました。資産、負債、純資産の各勘定の残高は前期から繰り越されてきます。しかし、前期の決算（帳簿の締切）によって残高がゼロとなっています。しかし、実際にはその残高がなくなるわけではありません。例えば、「現金」勘定の残高はゼロですが、繰越金額が5,400の場合、実際の現金5,400がゼロになるわけではありません。現金5,400は実際に次期に繰り越されます。

そこで、残高がゼロとなっている資産、負債、純資産の各勘定に、次期繰越金額（当期からみたら前期繰越金額）を戻す必要があります。これを**開始記入**（かいしきにゅう）といいます。前期末に「次期繰越」と記入した貸借反対側の摘要欄に「**前期繰越**（ぜんきくりこし）」、金額欄（借方欄または貸方欄）に**繰越金額**を記入します。

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	資　　本　　金	3,000	3	3	支　払　利　息	300
2	2	借　　入　　金	2,000	12	31	次　期　繰　越	5,400
4	4	受 取 手 数 料	700				
			5,700				5,700
1	1	前　期　繰　越	5,400				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	次　期　繰　越	2,000	2	2	現　　　　金	2,000
				1	1	前　期　繰　越	2,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
12	31	次　期　繰　越	3,400	1	1	現　　　　金	3,000
				12	31	損　　　　益	400
			3,400				3,400
				1	1	前　期　繰　越	3,400

第18章　帳簿の締切　問題

問題18-1　以下の〔資料〕にもとづいて、答案用紙に示した各勘定について、(　　)内に必要な記入を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算する。また、当期中の仕入、仕入値引、売上、売上戻りは便宜上、全部一括して記帳している。

〔資料〕

期首商品棚卸高30,000円、仕入値引高16,000円、売上戻り高10,000円

総仕入高480,000円、総売上高600,000円、期末商品棚卸高36,000円

第18章　帳簿の締切　答案用紙

問題18-1

仕　入

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	買　掛　金	480,000	省	略	買　掛　金	16,000
12	31	(　　　)	(　　　)	12	31	(　　　)	(　　　)
					〃	(　　　)	(　　　)
			(　　　)				(　　　)

売　上

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	売　掛　金	10,000	省	略	売　掛　金	600,000
12	31	(　　　)	(　　　)				
			(　　　)				(　　　)

繰越商品

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
1	1	前　期　繰　越	(　　　)	12	31	(　　　)	(　　　)
12	31	(　　　)	(　　　)		〃	(　　　)	(　　　)
			(　　　)				(　　　)

損　益

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
12	31	(　　　)	(　　　)	12	31	(　　　)	(　　　)
	〃	(　　　)	(　　　)				
			(　　　)				

資　本　金

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
12	31	(　　　)	(　　　)	1	1	前　期　繰　越	500,000
				12	31	(　　　)	(　　　)
			(　　　)				(　　　)

第18章　帳簿の締切　解答解説

問題18-1　**解答**

仕　　入

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	買掛金	480,000	省	略	買掛金	16,000
12	31	(繰越商品)	(30,000)	12	31	(繰越商品)	(36,000)
					〃	(損益)	(458,000)
			(510,000)				(510,000)

売　　上

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
省	略	売掛金	10,000	省	略	売掛金	600,000
12	31	(損益)	(590,000)				
			(600,000)				(600,000)

繰越商品

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
1	1	前期繰越	(30,000)	12	31	(仕入)	(30,000)
12	31	(仕入)	(36,000)		〃	(次期繰越)	(36,000)
			(66,000)				(66,000)

損　　益

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
12	31	(仕入)	(458,000)	12	31	(売上)	(590,000)
	〃	(資本金)	(132,000)				
			(590,000)				(590,000)

資　本　金

日	付	摘　要	借　方	日	付	摘　要	貸　方
12	31	(次期繰越)	(632,000)	1	1	前期繰越	500,000
				12	31	(損益)	(132,000)
			(632,000)				(632,000)

問題18-1 **解説**

・期中仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	480,000	買掛金	480,000
買掛金	16,000	仕入	16,000
売掛金	600,000	売上	600,000
売上	10,000	売掛金	10,000

・決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	30,000	繰越商品	30,000
繰越商品	36,000	仕入	36,000

・決算振替仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	590,000	損益	590,000
損益	458,000	仕入	458,000
損益	132,000	資本金	132,000

売上：総売上高600,000－売上戻り10,000＝590,000

仕入：総仕入高480,000－仕入値引16,000
＋期首商品30,000－期末商品36,000＝458,000

資本金：売上590,000－仕入458,000＝132,000

第19章　伝票

19－1　３伝票制

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

①　３つの伝票の違いを理解しよう！

②　３つの伝票への記入方法をマスターしよう！

主な勘定科目

「現金」勘定（資産）

伝票（でんぴょう）とは、仕訳帳の代わりに取引を記入する紙片（しへん）です。仕訳帳は帳簿（ノート）なので、担当者を分けて処理することが難しいのですが、伝票は１枚ずつの紙なので、担当者を分けることが可能となります。伝票は仕訳帳の代わりに用いるので、伝票に記入した取引は仕訳を行う必要はありません。なお、伝票に記入することを、**起票**（きひょう）といいます。正式な伝票への記入方法は、試験対策で学習します。全商簿記３級では３伝票制が出題されます。

３伝票制（さんでんぴょうせい）とは、**入金伝票**（にゅうきんでんぴょう）、**出金伝票**（しゅっきんでんぴょう）、**振替伝票**（ふりかえでんぴょう）の３種類の伝票を用いる方法です。

（1）入金伝票

入金伝票には、現金の増加取引である**入金取引**を起票します。仕訳で考えますと、借方が「現金」勘定となる取引です。したがって、借方は必ず「現金」勘定となるので、入金伝票の科目欄には**貸方の相手勘定科目**しか記入しません。

入　金　伝　票

×年×月×日

科　　目	金　　額
売　　掛　　金	**1,000**

例題19－１　**商品を1,000円で売り上げ、代金は現金で受け取った。**

仕訳で示すと、以下になります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　金	**1,000**	**売　　上**	**1,000**

入金伝票には以下のように起票されます。

入　金　伝　票

×年×月×日

科　　目	金　　額
売　　上	**1,000**

（２）出金伝票

出金伝票には、現金の減少取引である**出金取引**を起票します。仕訳で考えますと、貸方が「現金」勘定となる取引です。したがって、貸方は必ず「現金」勘定となるので、出金伝票の科目欄には**借方の相手勘定科目**しか記入しません。

出　金　伝　票

×年×月×日

科　　目	金　　額
買　　掛　　金	**2,000**

例題19－２　**商品2,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。**

仕訳で示すと、以下になります。

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
仕　　入	**2,000**	**現　　金**	**2,000**

出金伝票には以下のように起票されます。

出　金　伝　票

×年×月×日

科　　目	金　　額
仕　　入	**2,000**

（3）振替伝票

振替伝票には、入金取引と出金取引以外の取引を起票します。振替伝票には、仕訳の形式で記入します。

振　替　伝　票

×年×月×日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	**3,000**	**売　　　　上**	**3,000**

例題19－3　**備品3,000円を購入し、代金は月末に支払うこととした。**

仕訳で示すと、以下になります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
備　　　　品	**3,000**	**未　　払　　金**	**3,000**

振替伝票には以下のように起票されます。

振　替　伝　票

×年×月×日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
備　　　　品	**3,000**	**未　　払　　金**	**3,000**

第19章　伝票　問題

問題19-1　次の取引について各伝票に起票しなさい。なお、3伝票制を採用している。
商品を50,000円で販売し、代金は現金で受け取った。

問題19-2　次の取引について各伝票に起票しなさい。なお、3伝票制を採用している。
商品10,000円を仕入れ、代金は掛けとした。

第19章　伝票　答案用紙

問題19-1

入金伝票

科目	金額

出金伝票

科目	金額

振替伝票

借方科目	金額	貸方科目	金額

問題19-2

入金伝票

科目	金額

出金伝票

科目	金額

振替伝票

借方科目	金額	貸方科目	金額

第19章　伝票　解答解説

問題19-1　**解答**

入　金　伝　票

科　　目	金　　額
売　　上	**50,000**

出　金　伝　票

科　　目	金　　額

振　替　伝　票

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額

問題19-1　**解説**

入金取引については、入金伝票に起票します。

問題19-2　**解答**

入　金　伝　票

科　　目	金　　額

出　金　伝　票

科　　目	金　　額

振　替　伝　票

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
仕　　入	**10,000**	**買　掛　金**	**10,000**

問題19-2　**解説**

入金・出金取引以外の取引については、振替伝票に起票します。

第20章　精算表

20－1　精算表の作成

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

①　精算表がどのようなものか理解しよう！

②　精算表の記入方法をマスターしよう！

精算表（せいさんひょう）とは、決算整理前残高試算表から決算整理を行い、損益計算書と貸借対照表を作成するまでの一連の手続きをまとめた表です。精算表は以下の手順で記入します。

① 試算表欄に決算整理前の各勘定の残高を記入します（試験では通常、記入されています）。
② 決算整理仕訳を修正記入欄に記入します。勘定科目が新たに発生した場合は、勘定科目欄に追加します。
③ 試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減算して、収益、費用は損益計算書欄へ、資産、負債、純資産は貸借対照表欄に記入します。
④ 損益計算書欄の差額で当期純利益を算定し、損益計算書欄の借方に記入するとともに、貸借対照表欄の貸方に記入します。なお、当期純利益は貸借対照表欄の差額でも算定できます。

精　　算　　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
資　産	A		B				A＋B	
資　産	C			D			C－D	
負債・純資産		E		F				E＋F
負債・純資産		G	H					G－H
収　益		I		J		I＋J		
収　益		K	L			K－L		
費　用	M		N		M＋N			
費　用	O			P	O－P			
	××	××						
当期純利益					Q			Q
			××	××	××	××	××	××

例題20－1　**精算表を作成しなさい。なお、期首商品は700円、期末商品は800円であり、備品の減価償却費100円を計上する。**

決算整理仕訳を示しますと、以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**
減価償却費	**100**	**備品**	**100**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	200						200	
繰越商品	700		800	700			800	
備品	1,000			100			900	
資本金		1,300						1,300
売上		3,200				3,200		
仕入	2,000		700	800	1,900			
給料	600				600			
	4,500	4,500						
減価償却費			100		100			
当期純利益					600			600
			1,600	1,600	3,200	3,200	1,900	1,900

第20章　精算表　問題

問題20-1　**精算表を作成しなさい。**

〔決算整理事項〕

1．期末商品は180円であった。

2．支払利息100円を次期へ繰り延べる。

3．決算において、貸倒引当金50円を設定する。

第20章　精算表　答案用紙

問題20-1

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現　　金	100							
売　掛　金	1,000							
繰越商品	200							
借　入　金		300						
資　本　金		1,000						
売　　上		3,700						
仕　　入	3,000							
支払利息	700							
	5,000	5,000						
(　　　)								
貸倒引当金繰入								
貸倒引当金								
当期純利益								

第20章　精算表　解答解説

問題20-1　**解答**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	100						100	
売掛金	1,000						1,000	
繰越商品	200		180	200			180	
借入金		300						300
資本金		1,000						1,000
売上		3,700				3,700		
仕入	3,000		200	180	3,020			
支払利息	700			100	600			
	5,000	5,000						
(前払利息)			100				100	
貸倒引当金繰入			50		50			
貸倒引当金				50				50
当期純利益					30			30
			530	530	3,700	3,700	1,380	1,380

問題23-1　**解説**

決算整理仕訳を示すと、以下となります。精算表では修正記入欄に仕訳を行って下さい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**200**	**繰越商品**	**200**
繰越商品	**180**	**仕入**	**180**
前払利息	**100**	**支払利息**	**100**
貸倒引当金繰入	**50**	**貸倒引当金**	**50**

試　験　対　策

1　傾向と解き方

（１）出題傾向

最近の全商簿記３級では、大問が５つ出題されています。

第１問が「**仕訳問題**」で８つの仕訳が問われています。仕訳問題では、勘定科目が与えられますので、その中から適当な勘定科目を使用し、仕訳を解答します。

第２問は「**伝票の記入問題**」が出題されています。２つの取引が与えられ、入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、適当な伝票への記入を行います。

第３問は「**帳簿の記入問題**」が出題されています。仕訳帳や特定の勘定への記入、補助記入帳（売上帳や仕入帳等）や補助元帳（売掛金元帳や買掛金元帳等）の記入が求められます。

第４問は「**勘定分析**」、「**帳簿の空欄推定（帳簿の読取）**」、「**語句選択**」等、小問が３つ出題されます。「勘定分析」は与えられた情報をもとに、問われている金額を推定する問題で、パズル的な問題です。「帳簿の空欄推定（帳簿の読取）」は与えられた帳簿から必要な情報を読み取り、解答する問題です。「語句選択」は文章が与えられ、文章中の空欄にあてはまる語句を語群の中から選択する問題です。

第５問は「**総合問題**」で、精算表作成問題か、損益計算書または貸借対照表作成問題が出題されます。また、関連して、決算整理仕訳や特定の勘定への記入が問われもします。

（２）解き方

合格するためには１時間30分という限られた時間の中で、70点以上の得点を獲得する必要があります。そこで大事なことは「**簡単な問題（得点しやすい問題）から解く**」ことです。第１問から順番に解く必要はありませんので、難しい問題や苦手な論点は後回しにしましょう。

第３問の「帳簿の記入問題」は一番時間がかかりますので、最後に解くとよいでしょう。また、第４問の「勘定分析」と「帳簿の空欄推定（帳簿の読取）」も時間がかかることが多いので、後回しにした方がよいでしょう。

そこで、以下の順番で解くことをおすすめします。

第１問　→　第２問　→　第５問　→　第４問　→　第３問

公益財団法人全国商業高等学校協会のホームページに、全商簿記３級の過去問が公表されていますので、是非、最近の過去問を上記の順番で解いて下さい。

2　仕訳問題

最近の全商簿記３級の第１問は、仕訳形式の問題が８問出題されています。勘定科目の候補が与えられますので、その中から適切な勘定科目を選び、仕訳を解答します。与えられた勘定科目以外で解答した場合は、正解となりませんので注意して下さい。

ここでは、よく出題されている問題を論点ごとに復習していきます。

（１）現金預金

①　現金過不足

試験対策問題２－１　**現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より1,000円多かった。よって、帳簿残高を修正して、その原因を調査することにした。**

帳簿の金額を実際有高に合わせるために「現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、現金過不足の原因が不明な場合は、その原因が判明するまで「現金過不足」勘定として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**1,000**	**現　金　過　不　足**	**1,000**

試験対策問題２－２　**現金の実際有高が帳簿残高より1,000円多かったので、帳簿残高を修正してその原因を調査していたところ、本日、受取利息1,000円の記帳もれであることが判明した。**

帳簿の金額と実際有高が異なっていたことが判明した時に「現金過不足」勘定で処理していましたので、原因が判明した時には適切な勘定へ振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　金　過　不　足	**1,000**	**受　取　利　息**	**1,000**

② 当座借越

試験対策問題２－３　買掛金15,000円を小切手を振り出して支払った。ただし、当座預金勘定の残高は10,000円であり、限度額を80,000円とする当座借越契約を結んでいる。

小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。ただし、当座預金残高を小切手振出金額が上回った場合、当座借越限度額内であれば、その上回った金額を「当座借越」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
買　掛　金	**15,000**	**当　座　預　金**	**10,000**
		当　座　借　越	**5,000**

当座借越：15,000－10,000＝5,000

試験対策問題２－４　得意先から売掛金7,000円を得意先振り出しの小切手で受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた。ただし、当座借越勘定の残高が500円あった。

小切手を受け取り、直ちに、当座預金に預け入れた場合、「現金」勘定（資産）でなく、「当座預金」勘定（資産）で処理します。

ただし、「当座借越」勘定（負債）に残高がある場合で当座預金に入金があった場合、まず、「当座借越」勘定（負債）を減少させ、次に、残額を「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
当　座　借　越	**500**	**売　掛　金**	**7,000**
当　座　預　金	**6,500**		

当座預金：7,000－500＝6,500

③　小口現金

試験対策問題２－５　**定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を採用することとし、小口現金として小切手6,000円を振り出して庶務係に渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**6,000**	**当座預金**	**6,000**

試験対策問題２－６　**定額資金前渡制度を採用している千葉商店の会計係は、庶務係に小口現金として20,000円を前渡ししていたが、本日、当月分の支払高について、次のとおり報告を受けたので、直ちに小切手を振り出して補給した。**

交通費3,000円　　消耗品費2,000円　　雑費1,000円

直ちに小切手を振り出して小口現金の補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の減少及び増加の処理をしないで、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
交通費	**3,000**	**当座預金**	**6,000**
消耗品費	**2,000**		
雑費	**1,000**		

④　その他の預金

試験対策問題２－７　**銀行に普通預金として現金3,000円を預け入れた。**

「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	**3,000**	**現金**	**3,000**

試験対策問題２－８　**小切手4,000円を振り出して、定期預金とした。**

「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
定期預金	**4,000**	**当座預金**	**4,000**

（2）商品売買

① 前払金・前受金

試験対策問題２－９ 得意先に商品1,200円を売り上げ、代金はさきに受け取っていた内金1,000円を差し引き、残額は掛けとした。

売上代金の内金は受け取った時に「前受金」勘定（負債）で処理していますので、それを減少させます。また、残額は「売掛金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前受金	**1,000**	**売上**	**1,200**
売掛金	**200**		

試験対策問題２－10 仕入先から商品8,000円を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金2,000円を差し引き、残額は掛けとした。

仕入代金の内金は支払った時に「前払金」勘定（資産）で処理していますので、それを減少させます。また、残額は「買掛金」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**8,000**	**前払金**	**2,000**
		買掛金	**6,000**

② 商品券

試験対策問題２－11 商品券1,000円を発行し、代金は現金で受け取った。

商品券を発行した場合、「商品券」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**商品券**	**1,000**

試験対策問題２－12 商品1,200円を売り上げ、代金のうち1,000円は現金で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。

当店が発行した商品券を受け取った場合、「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**売上**	**1,200**
商品券	**200**		

（３）手形

試験対策問題２－13　仕入先に対する買掛金の支払いとして、さきに得意先から商品代金として受け取っていた約束手形20,000円を裏書譲渡した。

保有する手形を裏書譲渡した場合、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**20,000**	**受取手形**	**20,000**

試験対策問題２－14　以前に売上代金として受け取った約束手形20,000円を銀行で割り引き、割引料120円を差し引かれた手取り金は当座預金とした。

手形の割引によって保有していた手形が減少しますので、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。また、割引料は「手形売却損」勘定（費用）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**19,880**	**受取手形**	**20,000**
手形売却損	**120**		

当座預金：20,000－120＝19,880

（４）有価証券

試験対策問題２－15　売買目的で大阪物産株式会社の株式30株を１株につき50円で買い入れ、代金は買入手数料100円とともに小切手を振り出して支払った。

買入手数料は有価証券の購入に関する付随費用ですので、有価証券の取得原価に含めるために「有価証券」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**1,600**	**当座預金**	**1,600**

有価証券：@50×30株＋買入手数料100＝1,600

試験対策問題２－16　**売買目的で愛知株式会社の額面20,000円の社債を額面100円につき97円で買い入れ、買入手数料50円とともに小切手を振り出して支払った。**

買入手数料は有価証券の購入に関する付随費用ですので、有価証券の取得原価に含めるために「有価証券」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**19,450**	**当座預金**	**19,450**

有価証券：額面総額20,000÷@額面100＝200口

@97×200口＋買入手数料50＝19,450

試験対策問題２－17　**売買目的で保有している東京商事株式会社の株式20株（１株の帳簿価額80円）を１株につき100円で売却し、代金は当店の当座預金口座に振り込まれた。**

有価証券を売却した場合、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。また、帳簿価額より高く売却した場合、売却価額と帳簿価額の差額を「有価証券売却益」勘定（収益）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**有価証券**	**1,600**
		有価証券売却益	**400**

当座預金：@100×20株＝売却価額2,000

有価証券：@80×20株＝帳簿価額1,600

有価証券売却益：2,000－1,600＝400

（５）固定資産

試験対策問題２－18　**工場の用地のため土地100,000円を購入し、代金は登記料と買入手数料の合計2,000円とともに小切手を振り出して支払った。**

登記料及び買入手数料は固定資産の購入に関する付随費用ですので、固定資産の取得原価に含めるために「土地」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
土地	**102,000**	**当座預金**	**102,000**

土地：100,000＋付随費用2,000＝102,000

試験対策問題２－19　**建物100,000円を購入し、代金は翌月末払いとした。また、不動産会社へ仲介手数料2,000円は現金で支払った。**

支払代金の未払について、商品の仕入以外は「未払金」勘定（負債）で処理します。また、仲介手数料は固定資産の購入に関する付随費用ですので、固定資産の取得原価に含めるために「建物」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**102,000**	**未払金**	**100,000**
		現金	**2,000**

建物：100,000＋付随費用2,000＝102,000

試験対策問題２－20　**帳簿価額7,000円の備品を6,000円で売却し、代金は小切手で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。**

帳簿価額より安く売却した場合、売却価額と帳簿価額の差額を「固定資産売却損」勘定（費用）で処理します。また、小切手を受け取り、直ちに、当座預金に預け入れた場合、「現金」勘定（資産）でなく、「当座預金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**6,000**	**備品**	**7,000**
固定資産売却損	**1,000**		

固定資産売却損：帳簿価額7,000－売却価額6,000＝1,000

（６）貸倒引当金

試験対策問題２－21　**長崎商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金90,000円が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が100,000円ある。**

売掛金が貸し倒れたため、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。また、前期以前の売掛金に対して貸倒引当金を設定してあるので、「貸倒引当金」勘定（資産の評価勘定）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**90,000**	**売掛金**	**90,000**

試験対策問題２－22　**青森商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金90,000円が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が80,000円ある。**

売掛金が貸し倒れたため、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。また、前期以前の売掛金に対して貸倒引当金を設定してあるので、「貸倒引当金」勘定（資産の評価勘定）の減少として処理します。貸倒引当金残高を上回る貸し倒れが生じた場合、差額を「貸倒損失」勘定（費用）として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
貸 倒 引 当 金	**80,000**	**売　掛　金**	**90,000**
貸　倒　損　失	**10,000**		

（７）仮払金・仮受金

試験対策問題２－23　**出張中の従業員から当座預金口座に3,000円の振り込みがあったが、その内容は不明である。**

内容が不明であるため、一時的に「仮受金」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**3,000**	**仮　受　金**	**3,000**

試験対策問題２－24　**出張中の従業員から3,000円が当座預金口座に振り込まれ、仮受金として処理していたが、本日、売掛金の回収額であることが判明した。**

入金時に「仮受金」勘定（負債）で処理しているので、「仮受金」勘定（負債）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仮　受　金	**3,000**	**売　掛　金**	**3,000**

試験対策問題２－25　**従業員の出張にあたり、旅費の概算額として60,000円を現金で渡した。**

仮払時には「仮払金」勘定（資産）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仮　払　金	**60,000**	**現　金**	**60,000**

試験対策問題２－26　**従業員の出張にさいし、旅費の概算額として60,000円を仮払いしていたが、本日、従業員が帰店して精算を行い、残額1,000円を現金で受け取った。**

仮払時に「仮払金」勘定（資産）で処理しているので、精算時には「仮払金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,000**	**仮払金**	**60,000**
旅費	**59,000**		

（８）資金の貸付・借入

①　貸付金

試験対策問題２－27　**取引先A店へ借用証書によって貸し付けていた10,000円の返済を受け、その利息250円とともに同店振り出しの小切手で受け取った。**

小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、貸付金の返済を受けたので「貸付金」勘定（資産）の減少として処理し、利息の受取は「受取利息」勘定（収益）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**10,250**	**貸付金**	**10,000**
		受取利息	**250**

②　借入金

試験対策問題２－28　**取引先から借用証書によって40,000円を借り入れていたが、支払期限が到来したため、利息1,200円とともに現金で返済した。**

借入金を返済した場合、「借入金」勘定（負債）の減少として処理し、利息の支払は「支払利息」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
借入金	**40,000**	**現金**	**41,200**
支払利息	**1,200**		

（９）純資産

試験対策問題２－29　損益勘定に記入された当期の収益合計は99,000円で、費用合計は69,000円であった。この差額を資本金へ振り替える。

「損益」勘定で算定した当期純利益の金額は、「損益」勘定から「資本金」勘定（純資産）へ振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
損　　　益	**30,000**	**資　　本　　金**	**30,000**

損益：収益合計99,000－費用合計69,000＝30,000

試験対策問題２－30　事業主が、所得税の予定納税額第１期分30,000円を、店の現金で納付した。

事業主の所得税は事業主個人のお金で支払うべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**30,000**	**現　　　金**	**30,000**

試験対策問題２－31　事業主が私用のため、店の現金10,000円を引き出した。

私用で使ったお金は事業主個人で負担すべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**10,000**	**現　　　金**	**10,000**

試験対策問題２－32　事業主が私用のため、原価20,000円の商品を使用した。

私用で使った商品は事業主個人で負担すべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。また、当該商品はもともと販売する目的で仕入れたため「仕入」勘定（費用）で処理していましたが、販売目的ではなくなったため、販売目的の仕入を取り消すために、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**20,000**	**仕　　　入**	**20,000**

試験対策問題２－33　事業規模を拡大するため、事業主が現金50,000円を追加元入れした。

元手が増加しますので、「資本金」勘定（純資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　金	**50,000**	**資　本　金**	**50,000**

（10）その他

試験対策問題２－34　従業員に対する給料80,000円から、所得税額8,000円を差し引いて、手取り額を現金で支払った。

従業員の所得税額は「所得税預り金（または、預り金）」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
給　　料	**80,000**	**所得税預り金**	**8,000**
		現　　金	**72,000**

試験対策問題２－35　建物に関する１年分の火災保険料40,000円を現金で支払った。

火災保険料は「保険料」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
保　険　料	**40,000**	**現　　金**	**40,000**

試験対策問題２－36　営業用店舗の固定資産税1,200円を現金で納付した。

営業用店舗の固定資産税は、「租税公課」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
租　税　公　課	**1,200**	**現　　金**	**1,200**

試験対策問題２－37　**得意先へ商品を43,200円（消費税3,200円を含む）で売り渡し、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜方式により、仮受消費税勘定を用いている。**

税抜方式では「売上」勘定（収益）は消費税の金額を控除した金額（税抜金額）で計上し、消費税は「仮受消費税」勘定（負債）で処理します。なお、「売掛金」勘定（資産）は消費税の金額を含んだ金額（税込金額）で計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**43,200**	**売上**	**40,000**
		仮受消費税	**3,200**

試験対策問題２－38　**商品54,000円（消費税4,000円を含む）を仕入れ、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜方式により、仮払消費税勘定を用いている。**

税抜方式では「仕入」勘定（費用）は消費税の金額を控除した金額（税抜金額）で計上し、消費税は「仮払消費税」勘定（資産）で処理します。なお、「買掛金」勘定（負債）は消費税の金額を含んだ金額（税込金額）で計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**50,000**	**買掛金**	**54,000**
仮払消費税	**4,000**		

3　伝票の記入

最近の全商簿記３級の第２問は、伝票の記入が出題されています。

出題内容としては、取引が与えられ、３伝票のうち該当する伝票の記入が求められています。ただし、伝票Noや摘要欄まで記入する必要がありますので、注意して下さい。

（１）伝票のひな型

第19章では簡略版の伝票で学習しましたが、正式な伝票のひな型は以下です。なお、入金伝票は赤色、出金伝票は青色、振替伝票は黒色で印刷している場合があります。

①　入金伝票

入　金　伝　票

年　月　日

No

科　目		入金先	殿

摘　要	金　額
合　計	

②　出金伝票

出　金　伝　票

年　月　日

No

科　目		支払先	殿

摘　要	金　額
合　計	

③　振替伝票

振　替　伝　票

年　月　日　　　　No ＿＿＿＿

勘定科目	借　方	勘定科目	貸　方
合　計		合　計	
摘要			

（２）伝票の記入方法

①　取引日を「日付」欄（各伝票名の下）に記入します。

②　問題に与えられた伝票番号を「No」欄に記入します。

③　問題に与えられた取引から、該当する勘定科目を「科目」欄または「勘定科目」欄に記入します。入金伝票と出金伝票では相手勘定科目のみを「科目」欄に記入します。なお、入金伝票では相手勘定科目は貸方科目、出金伝票では相手勘定科目は借方科目となります。

④　入金伝票では取引先を「入金先」欄に、出金伝票では取引先を「支払先」欄に記入します。

⑤　「摘要」欄には取引内容がわかるように小書きを行います。なお、小書きには決まったルールはありませんので、問題文を使って取引内容を簡潔に記入して下さい。

⑥　「合計」欄にそれぞれの合計額を記入して下さい。

（３）解き方

まず、下書用紙に通常の仕訳を書いて下さい。なぜなら、いきなり答案用紙に記入すると、間違えた場合に手間がかかるからです。

次に、その仕訳が「現金の増加」を含む取引であれば答案用紙の入金伝票に記入し、「現金の減少」を含む取引であれば答案用紙の出金伝票に記入し、「現金の増減がない」取引であれば答案用紙の振替伝票に記入して下さい。

試験対策問題３－１　**５月16日　東京商店から貸付金に対する利息15,000円を現金で受け取った。（伝票番号　No77）**

実際に答案用紙に記入する前に、下書用紙に通常の仕訳を書いて下さい。本問では以下となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　金	**15,000**	**受　取　利　息**	**15,000**

現金が増加しますので、入金伝票に起票します。入金伝票への記入は以下となります。

入　金　伝　票

×年 **5** 月 **16** 日　　No **77**

科　目	**受　取　利　息**	入金先	**東　京　商　店** 殿

摘　　要	金　　額
貸付金の利息の受け取り	**15000**
合　　計	**15000**

試験対策問題３－２　**6月17日　千葉郵便局で郵便切手2,000円を購入し、代金は現金で支払った。（伝票番号　No88）**

通常の仕訳で示すと以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**2,000**	**現金**	**2,000**

現金が減少しますので、出金伝票に起票します。出金伝票への記入は以下となります。

出金伝票

×年 **6** 月 **17** 日　　No **88**

科目	**通信費**	支払先	**千葉郵便局** 殿

摘要							金額
郵便切手購入				**2**	**0**	**0**	**0**
合計				**2**	**0**	**0**	**0**

試験対策問題３－３　**7月18日　商品代金として京都商店あてに振り出した約束手形＃９　200,000円が本日満期となり、当座預金から支払った。（伝票番号　No99）**

通常の仕訳で示すと以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手形	**200,000**	**当座預金**	**200,000**

現金の増減がありませんので、振替伝票に起票します。振替伝票への記入は以下となります。

振　替　伝　票

×年 **7** 月 **18** 日　　No **99**

勘定科目	借方	勘定科目	貸方
支払手形	**200000**	**当座預金**	**200000**
合計	**200000**	合計	**200000**
摘要	**京都商店あて約束手形＃９の期日支払い**		

４　語句選択

最近の全商簿記３級では、主に第４問で語句選択が出題されています。語句選択は、文章の空欄にあてはまる語句を語群の中から選ぶ問題です。対策をしっかりすれば得点を獲得できる問題ですので、以下の例題をもとに復習しましょう。

試験対策問題４－１　**企業の一会計期間の収益と費用の内容を示した報告書を損益計算書という。企業がこれを作成するのは、一会計期間の（　　）を明らかにするためである。**

・解答　経営成績

試験対策問題４－２　**企業では、資産・負債・純資産の内容を示した貸借対照表を作成することによって、簿記の目的の一つである企業の一定時点における（　　）を明らかにすることができる。**

・解答　財政状態

試験対策問題４－３　**企業の経営活動は継続的に営まれているので、財政状態や経営成績を明らかにするためには、経営活動を一定の期間に区切る必要がある。この区切られた期間を（　　）という。**

・解答　会計期間

試験対策問題４－４　**簿記では、現金や備品などの財貨や、売掛金や貸付金などの債権を（　　）という。**

・解答　資産

試験対策問題４－５　簿記では、支払手形や買掛金のように、将来、仕入先などに一定の金額を支払わなければならない義務を（　　）という。

・解答　負債

試験対策問題４－６　仕訳を記入する帳簿を仕訳帳といい、仕訳帳から総勘定元帳へ転記を行う。この仕訳帳と総勘定元帳は、すべての取引が記入される重要な帳簿であり、この２つの帳簿を（　　）という。

・解答　主要簿

試験対策問題４－７　簿記上の取引は、すべて主要簿に記帳される。この主要簿には、すべての取引を発生順に記入し、経営活動の歴史的な記録をする（　　）と、すべての勘定口座を集めた総勘定元帳がある。

・解答　仕訳帳

試験対策問題４－８　帳簿には、すべての取引を記録する仕訳帳や総勘定元帳のほかに、現金出納帳や商品有高帳のように、特定の取引や特定の勘定についてその明細を記入する（　　）がある。

・解答　補助簿

試験対策問題４－９　総勘定元帳の売掛金勘定だけでは、得意先別の売掛金の増減や残高を知ることはできない。そこで、得意先別に分けられた売掛金元帳を用いることがある。このように、売掛金勘定の記録を補う売掛金元帳のような帳簿を（　　）という。

・解答　補助簿

試験対策問題４－10　**総勘定元帳のすべての勘定の記録を集計すると、借方に記入した金額の合計と貸方に記入した金額の合計は、必ず等しくなる。これは（　　）によるものである。**

・解答　貸借平均の原理

試験対策問題４－11　**合計試算表は、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたかを確かめるために作成する表であり、合計試算表の借方欄と貸方欄は必ず一致する。これは（　　）によるものである。**

・解答　貸借平均の原理

試験対策問題４－12　**簿記では、一定期間ごとに総勘定元帳の各勘定口座の記録を計算・整理し、諸帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成する。この一連の手続きを（　　）という。**

・解答　決算

試験対策問題４－13　**総勘定元帳のすべての勘定の借方合計金額と貸方合計金額は、貸借平均の原理によって必ず一致する。この原理を利用して、仕訳帳から総勘定元帳への転記が、正しく行われているかと確かめるために作成する表を（　　）という。**

・解答　試算表

試験対策問題４－14　**総勘定元帳への転記が正しく行われているかどうかを確かめるために、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額の差額を集めて（　　）を作成する。この表は、精算表の作成や決算の基礎的な資料としても用いられる。**

・解答　残高試算表
・解説　「各勘定の借方合計金額と貸方合計金額の差額」は各勘定の残高となります。その残高を集めた表は「残高試算表」です。

試験対策問題４－15　仕訳帳から総勘定元帳への転記が、正しく行われているかどうかを確かめるために、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額を集めて作成する表を（　　）という。

・解答　合計試算表

試験対策問題４－16　企業では、決算の概要を知りたい場合に、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを、一つにまとめた表を作成することがある。この一覧表を（　　）という。

・解答　精算表

試験対策問題４－17　企業では、決算において総勘定元帳を締め切る前に、一会計期間の経営成績や財政状態を知るため、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを、一つにまとめた（　　）を作成することがある。

・解答　精算表

試験対策問題４－18　売掛金勘定に対する貸倒引当金勘定や資本金勘定に対する引出金勘定のように、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定を（　　）という。

・解答　評価勘定

試験対策問題４－19　商品に関する取引を３分法で記帳している場合、決算整理後の仕入勘定の残高は（　　）を意味している。

・解答　売上原価

試験対策問題４－20　**手形に関する明細を記録する補助簿のうち、商品代金の決済などで生じた手形債権の発生・消滅を記入する帳簿を（　　）という。**

・解答　受取手形記入帳

試験対策問題４－21　**個人企業の決算において、損益勘定の貸方に残高が生じた場合には純利益を意味し、（　　）勘定の貸方に振り替える。**

・解答　資本金

5　勘定分析

最近の全商簿記３級では、主に第４問で勘定分析が出題されています。勘定分析は、与えられた情報から、解答を推定する問題です。以下の例題をもとに学習しましょう。

試験対策問題５－１　**下記の資本金勘定と［資料］によって、関東商店（個人商店）の①期間中の収益総額、②期首の負債総額の金額を算定しなさい。**

資　本　金

12/31	次期繰越	2,000,000	1/1	前期繰越	(　　　　)
			12/31	損　　益	(　　　　)
		2,000,000			2,000,000

［資料］

１．期間中の費用総額：800,000円

２．当期純利益：300,000円

３．期首の資産総額：3,200,000円

・解答　①　1,100,000円　　　②　1,500,000円

・解説

①　期間中の収益総額

「収益総額－費用総額＝当期純利益」ですので、収益総額は「費用総額＋当期純利益」で算定されます。

費用総額800,000＋当期純利益300,000＝1,100,000

② 期首の負債総額

問題文に与えられている「資本金」勘定の貸方「12/31 損益」の金額は、当期純利益300,000円です。仕訳を行うと以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
損　　益	**300,000**	**資　本　金**	**300,000**

「資本金」勘定の貸借差額により、貸方の「1/1 前期繰越」の金額は1,700,000円と算定できます。「資本金」勘定の空欄を記入すると以下となります。

資　本　金

12/31	次期繰越	2,000,000	1/1	前期繰越	(∴1,700,000)
			12/31	損　益	(　300,000)
		2,000,000			2,000,000

「資本金」勘定の貸方「1/1 前期繰越」の金額1,700,000円は、期首の資本金の金額です。期首の繰越資産表（または、貸借対照表）では「期首の資産総額＝期首の負債総額＋期首の資本金」ですので、負債総額は、「期首の資産総額－期首の資本金」で算定されます。

期首の資産総額3,200,000－期首の資本金1,700,000＝1,500,000

以下のような、繰越試算表（または、貸借対照表）を下書用紙に書いて、算定してもよいでしょう。

期首の繰越試算表

資産総額	3,200,000	負債総額	∴1,500,000
		資本金	1,700,000
	2,000,000		2,000,000

試験対策問題５－２　**下記の［資料］によって、関西商店（個人商店）の①期間中の費用総額、②期首の資産総額の金額を算定しなさい。**

［資料］

1．期首の負債総額：4,500,000円

2．期末の資産及び負債

現　　金	**800,000円**	**当座預金**	**3,400,000円**	**商　　品**	**900,000円**
備　　品	**700,000円**	**買 掛 金**	**1,200,000円**	**借 入 金**	**2,000,000円**

3．期間中の収益総額：5,000,000円

4．当期純利益：400,000円

・解答　①　4,600,000円　　　②　6,700,000円

・解説

①　期間中の費用総額

「収益総額－費用総額＝当期純利益」ですので、費用総額は「収益総額－当期純利益」で算定されます。

収益総額5,000,000－当期純利益400,000＝4,600,000

②　期首の資産総額

まず、「資産総額＝負債総額＋純資産総額」ですので、期末の純資産総額は、「資産総額－負債総額」により2,600,000円と算定されます。

資産総額(現金800,000＋当座預金3,400,000＋商品900,000＋備品700,000)
－負債総額(買掛金1,200,000＋借入金2,000,000)＝2,600,000

次に、この期末の純資産総額のうち、当期純利益が400,000円ですので、差額で資本金の金額が2,200,000円と算定されます。なお、特に指示がありませんので、期末の資本金と期首の資本金は同額と考えます。

期末の純資産総額2,600,000－当期純利益400,000＝2,200,000

期首の繰越資産表（または、貸借対照表）では「期首の資産総額＝期首の負債総額＋期首の資本金」ですので、資産総額は、「期首の負債総額＋期首の資本金」で算定されます。

期首の負債総額4,500,000＋期首の資本金2,200,000＝6,700,000

以下のような、繰越試算表（または、貸借対照表）を下書用紙に書いて、算定してもよいでしょう。

期首の繰越試算表

資産総額	∴6,700,000	負債総額	4,500,000
		資 本 金	2,200,000
	6,700,000		6,700,000

6　帳簿の読取

最近の全商簿記３級では、主に第４問で帳簿の読取が出題されています。帳簿の読取は、与えられた帳簿から、解答を推定する問題です。総勘定元帳と補助簿の関係、補助簿と補助簿の関係に注意して下さい。

また、出題頻度は乏しいのですが、為替手形が出題されることがありますので、ここで補足いたします。

試験対策問題６－１　**四国商店（個人商店）における次の勘定記録と当座預金出納帳から、（ア）と（イ）に入る金額を求めなさい。ただし、借越限度額を200,000円とする当座借越契約を結んでいる。**

当　座　預　金

1/1	前期繰越	100,000	1/3	仕　入	100,000

当　座　借　越

1/5	売　上	45,000	1/3	仕　入	(　ア　)

売　　上

			1/5	当座借越	45,000

当 座 預 金 出 納 帳

日付		摘　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
1	1	前月繰越	100,000		借	100,000
	3	A商店から商品仕入 小切手＃35		(　　)	貸	60,000
	5	B商店に商品売上	(　　)		(　)	(　イ　)

・解答　（ア）60,000円　　　（イ）15,000円
・解説
（ア）について
当座預金出納帳の１月３日の残高が貸方残高60,000円であることから、１月１日の借方残高100,000円（資産としての当座預金）と１月３日の残高が貸方残高60,000円（負債としての当座借越）の合計が、１月３日の仕入による小切手振出（引出）160,000円であることがわかります。したがって、160,000円のうち、100,000円は「当座預金」勘定（資産）の減少、差額の60,000円は「当座借越」勘定（負債）の増加として処理されます。したがって、（ア）の金額は60,000円となります。
（イ）について
「売上」勘定（収益）の１月５日の金額が45,000円（貸方）より、１月５日の当座による売上の金額は45,000円とわかりますので、当座預金出納帳の１月５日の「預入」に該当する金額は45,000円となります。したがって、当座預金出納帳の１月５日の残高は60,000円－45,000円＝15,000円（貸方）となります。
なお、本問における仕訳は以下となります。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/3	**仕入**	**160,000**	**当座預金**	**100,000**
			当座借越	**60,000**
1/5	**当座借越**	**45,000**	**売上**	**45,000**

また、各勘定と当座預金出納帳の空欄を記入したものは以下となります。

当座預金

1/1	前期繰越	100,000	1/3	仕入	100,000

当座借越

1/5	売上	45,000	1/3	仕入	**ア 60,000**

売上

			1/5	当座借越	45,000

当座預金出納帳

日付		摘要	預入	引出	借または貸	残高
1	1	前月繰越	100,000		借	100,000
	3	A商店から商品仕入 小切手＃35		（**160,000**）	貸	60,000
	5	B商店に商品売上	（**45,000**）		（**貸**）	（**イ15,000**）

補足　為替手形

【重要性：C】

（1）為替手形とは？

為替手形とは、振出人が名宛人（支払人、引受人）に対して満期日（または支払日）に手形金額（または額面金額）を受取人に支払うことを依頼する証券です。名宛人は為替手形の支払を承認（これを引受といいます）して、引受欄に署名することで支払人となります。したがって、名宛人は支払人なので「**支払手形**」勘定（**負債**）で処理し、受取人は「**受取手形**」勘定（**資産**）で処理します。簡略化した為替手形の見本は次のとおりです。

為　替　手　形

支払人(引受人)　C商店殿

金額　1,000,000円

支払期日
2030年×月×日

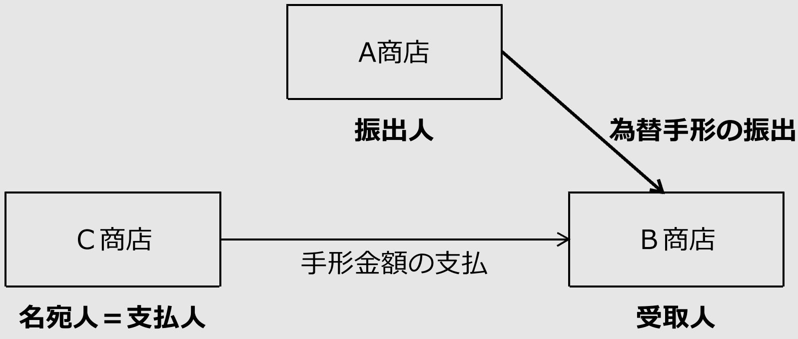
受取人B商店殿へこの為替手形と引換えに上記金額を**お支払い下さい。**

振出日　2030年×月×日

振出人　A商店

引受2030年×月×日
C商店

下図を用いて説明すると、A商店はC商店に対して売掛金があり、Ｂ商店に対して買掛金があるとします。Ａ商店は「C商店から売掛金の代金を回収し、そのお金でＢ商店への買掛金を支払う」代わりに、「C商店がＢ商店へ支払う」ことをC商店に依頼するのが為替手形です。



（２）為替手形の振出時の処理

① 振出人（Ａ商店）

例題１　Ｂ商店に対する買掛金2,000円の支払のために、売掛金がある得意先Ｃ商店を名宛人、仕入先Ｂ商店を受取人とする為替手形を振り出した。

為替手形の振出人（Ａ商店）は、受取人（Ｂ商店）に対する買掛金を名宛人（Ｃ商店）にある売掛金を受け取る代わりに手形金額を支払ってもらいます。したがって、「買掛金」勘定（負債）の減少と「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買　掛　金	**2,000**	**売　掛　金**	**2,000**

② 名宛人（Ｃ商店）

例題２　買掛金のあるＡ商店から、Ｂ商店を受取人とする為替手形2,000円の引き受けを求められ、これを引き受けた。

為替手形の名宛人（Ｃ商店）は、振出人（Ａ商店）に対する買掛金を支払う代わりに、手形金額を支払うという負債が増加しました。したがって、「買掛金」勘定（負債）の減少と「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。なお、支払手形が増加しますので、支払手形記入帳に記帳します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買　掛　金	**2,000**	**支　払　手　形**	**2,000**

なお、支払手形記入帳への記載は以下となります。

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
？	？	為手	？	買 掛 金	B商店	A商店	？	？	？	？	？銀行	2,000			

③　受取人（Ｂ商店）

例題３　**売掛金のあるＡ商店から、Ｃ商店を名宛人とする為替手形2,000円を受け取った。**

為替手形の受取人（Ｂ商店）は、振出人（Ａ商店）に対する売掛金の代金を受け取る代わりに、手形金額を受け取るという資産が増加しました。したがって、「売掛金」勘定（資産）の減少と「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。なお、受取手形が増加しますので、受取手形記入帳に記帳します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
受　取　手　形	**2,000**	**売　掛　金**	**2,000**

なお、受取手形記入帳への記載は以下となります。

受　取　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
?	?	為手	?	売 掛 金	C商店	A商店	?	?	?	?	?銀行	2,000			

（３）為替手形の満期時の処理

① 振出人（Ａ商店）

例題４　名宛人Ｃ商店、受取人Ｂ商店として振り出した為替手形2,000円の満期日が到来し、無事決済された。

為替手形の振出人（Ａ商店）は、振り出した為替手形の満期日に仕訳はありません。

② 名宛人（Ｃ商店）

例題５　引き受けたＢ商店を受取人とする為替手形2,000円を当座により支払った。

為替手形の名宛人（Ｃ商店）は、手形金額を支払うと支払手形という負債が減少するので「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
支　払　手　形	**2,000**	**当　座　預　金**	**2,000**

③ 受取人（Ｂ商店）

例題６　以前受け取った為替手形2,000円が決済され、代金は当座に預け入れた。

為替手形の受取人（Ｂ商店）は、手形金額を受け取ると受取手形という資産が減少するので「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
当　座　預　金	**2,000**	**受　取　手　形**	**2,000**

（４）まとめ

問題の文章の文末に着目して処理を判断して下さい。

「為替手形を**振り出した**」＝ 振出人 → 受取手形・支払手形勘定は使わない。
「為替手形を**引き受けた**」＝ 名宛人 → 支払手形勘定を使う。
「為替手形を**受け取った**」＝ 受取人 → 受取手形勘定を使う。

（５）約束手形と為替手形のまとめ

	名宛人	**振出人**
約束手形	**受取人**	**支払人**
為替手形	**支払人**	**ー**

試験対策問題６－２　**為替手形を引き受けた人は、手形債務を負うことになるので、その債務額を（　　）勘定の貸方に記入する。**

・解答　支払手形

試験対策問題６－３　九州商店（個人商店）における下記の買掛金勘定、仕入帳、支払手形記入帳によって、以下の各問いに答えなさい。

（ア）１月８日に減少した買掛金はどの商店に対するものか、番号を記入しなさい。

１．A商店　　２．B商店

（イ）支払手形記入帳の（イ）の金額を求めなさい。

（ウ）1月11日にC商店から仕入れた商品代金のうち現金で支払った金額を答えなさい。

買　　掛　　金

1/8	支払手形	5,000	1 / 1	前期繰越	40,000
			11	仕　　入	15,000

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	9	D商店　　　約　手		
		甲商品　　300個　　@30		9,000
	11	C商店　　　現金・掛け		
		乙商品　　200個　　@90		18,000

支　払　手　形　記　入　帳

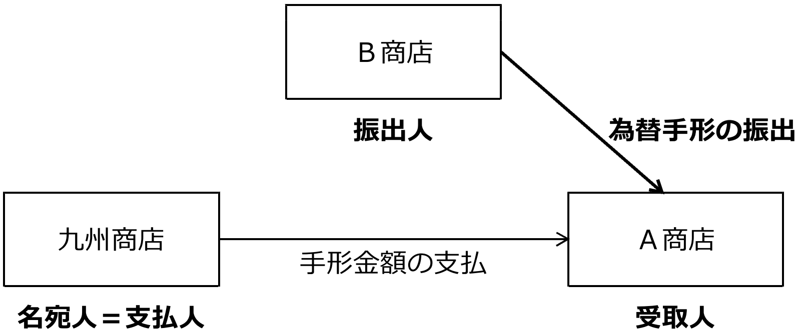
日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
1	8	為手	2	買 掛 金	A商店	B商店	1	8	3	8	x銀行	5,000			
	9	約手	23	仕　　入	D商店	当 店	1	9	2	9	x銀行	(イ)			

・解答　（ア）２　　（イ）9,000円　　（ウ）3,000円

・解説

（ア）について

「買掛金」勘定の借方「1/8　支払手形　5,000」より、買掛金の減少は支払手形の増加によることがわかります。次に、支払手形記入帳の１月８日は、為替手形であるため、振出人Ｂ商店の買掛金を決済するために、当該為替手形を引き受けたことがわかります。したがって、１月８日に減少した買掛金は、「２．Ｂ商店」に対するものとなります。



（イ）について

仕入帳より、１月９日に約束手形を振り出して商品仕入9,000円を行ったことがわかります。したがって、（イ）に該当する金額は9,000円となります。

（ウ）について

仕入帳より、１月11日に現金支払いと掛けにより商品仕入18,000円を行ったことがわかります。また、「買掛金」勘定の貸方「1/11　仕入　15,000」より、商品仕入18,000円のうち、買掛金は15,000円であったことがわかります。したがって、（ウ）に該当する金額は3,000円となります。

なお、本問における仕訳は以下となります。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/8	**買掛金**	**5,000**	**支払手形**	**5,000**
1/9	**仕入**	**9,000**	**支払手形**	**9,000**
1/11	**仕入**	**18,000**	**買掛金**	**15,000**
			現金	**3,000**

また、支払手形記入帳の空欄を記入したものは以下となります。

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
1	8	為手	2	買 掛 金	A商店	B商店	1	8	3	8	x銀行	5,000			
	9	約手	23	仕　　入	D商店	当 店	1	9	2	9	x銀行	**(イ)** **9,000**			

７　総合問題（精算表）

（１）出題形式

第５問で精算表の作成問題が出題されることがあります。

決算整理前の残高が答案用紙に記入されており、問題文に与えられた決算整理事項を処理して精算表を作成する問題です。

（２）出題論点

精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますので、決算整理が出題されます。

下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないようにしっかり復習して下さい。

①　期末商品（売上原価の算定）[４－１]

②　貸倒引当金の設定［13－２］

③　減価償却［８－２］

④　現金過不足の整理［12－２］

⑤　引出金勘定の整理［14－２］

試験対策問題７－１　**精算表を作成しなさい。なお、期末商品は800円である。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700							
仕入	2,000							

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕入**	**800**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700		**800**	**700**			**800**	
仕入	2,000		**700**	**800**	**1,900**			

試験対策問題７－２　**精算表を作成しなさい。なお、売掛金残高の２％と見積もり、貸倒引当金を設定する。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売　掛　金	8,000							
貸倒引当金		100						
貸倒引当金繰入								

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
貸倒引当金繰入	**60**	**貸倒引当金**	**60**

貸倒引当金繰入：8,000×２％－前T/B 貸倒引当金100＝60

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売　掛　金	8,000						**8,000**	
貸倒引当金		100		**60**				**160**
貸倒引当金繰入			**60**		**60**			

試験対策問題７－３　**当期首に取得した建物（取得原価108,000円、残存価額ゼロ、耐用年数30年、定額法）について、減価償却を行う。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	**3,600**	**建物**	**3,600**

減価償却費：取得原価108,000÷耐用年数30年＝3,600

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
〜〜								
建物	108,000			**3,600**			**104,400**	
〜〜								
減価償却費			**3,600**		**3,600**			

試験対策問題７－４　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
〜〜								
現金過不足	200			**200**				
〜〜								
雑損	500		**200**		**700**			

試験対策問題７－５　**決算において、引出金500円を整理する。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	**500**	**引出金**	**500**

精算表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
資本金		100,000	**500**					99,500
引出金	500			**500**				

8　総合問題（P/L・B/S作成）

第５問で、損益計算書か貸借対照表の作成問題が出題されることがあります。損益計算書か貸借対照表のどちらか一方が問われており、両方問われる出題可能性は低いです。

出題形式としては、**決算整理前の元帳残高**が与えられていますので、精算表と同様に、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを行いますので、決算整理仕訳を行い、それを加味して、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損益計算書と貸借対照表を作成する場合には、以下に注意して下さい。

① 「仕入」勘定は、**売上原価**として表示します。

② 「繰越商品」勘定は、**商品**として表示します。

③ 「貸倒引当金」勘定は、原則として、売掛金や受取手形などの対象債権から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。

④ 損益計算書で算定した当期純利益は、貸借対照表の貸方に当期純利益として表示します。

また、決算整理としては精算表と同様に下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないようにしっかり復習して下さい。

① 期末商品（売上原価の算定）［４－１］

② 貸倒引当金の設定［13－２］

③ 減価償却［８－２］

④ 現金過不足の整理［12－２］

⑤ 引出金勘定の整理［14－２］

試験対策問題８－１　**次の決算整理前残高試算表にもとづいて、損益計算書を作成しなさい。期末商品は800円であり、備品の減価償却費100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　方	勘定科目	貸　方
200	現　　金	
700	繰越商品	
1,000	備　　品	
	資 本 金	1,300
	売　　上	3,200
2,000	仕　　入	
600	給　　料	
4,500		4,500

・解説

問題では損益計算書しか問われていませんが、決算整理仕訳を行うと良いでしょう。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　　入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕　　入**	**800**
減価償却費	**100**	**備　　品**	**100**

・解答

収益と費用の勘定科目について、決算整理仕訳を加味して、解答して下さい。

損益計算書

費　用	金　額	収　益	金　額
売上原価	1,900	売 上 高	3,200
給　　料	600		
減価償却費	100		
当期純利益	600		
	3,200		3,200

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700－800＝1,900

試験対策問題８－２　**次の決算整理前残高試算表にもとづいて、貸借対照表を作成しなさい。期末商品は800円であり、備品の減価償却費100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
200	現　　　　　金	
700	繰　越　商　品	
1,000	備　　　　　品	
	資　　本　　金	1,300
	売　　　　　上	3,200
2,000	仕　　　　　入	
600	給　　　　　料	
4,500		4,500

・解説

問題では貸借対照表しか問われていませんが、決算整理仕訳を行うと良いでしょう。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**700**	**繰　越　商　品**	**700**
繰　越　商　品	**800**	**仕　　　　入**	**800**
減　価　償　却　費	**100**	**備　　　　品**	**100**

・解答

資産、負債及び純資産の勘定科目について、決算整理仕訳を加味して、解答して下さい。ただし、当期純利益を算定する必要がありますので、注意して下さい。

貸　借　対　照　表

資　　産	金　　額	負債・純資産	金　　額
現　　　　金	200	資　　本　　金	1,300
商　　　　品	800	当　期　純　利　益	600
備　　　　品	900		
	1,900		1,900

当期純利益：収益3,200－費用(売上原価1,900＋給料600＋減価償却費100)＝600

または、貸借差額（＝借方合計1,900－資本金1,300）

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700－800＝1,900

9　帳簿の記入

帳簿作成問題は主に第２問で出題されます。仕訳帳の記入及び総勘定元帳への転記、さらに、関連する補助簿への記入が問われます。帳簿作成問題は時間がかかりますので、ほかの問題を解いた後、最後に取り掛かることをお勧めします。

必要な仕訳を行い、それを各勘定に記入して解答します。特に、摘要欄の記入に注意して下さい。

試験対策問題９－１　**近畿商店（個人商店）の下記の［取引］について、**

(1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の当座預金勘定と買掛金勘定に転記しなさい。

(2) 仕入帳と買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、 i 　商品に関する勘定は３分法によること。

ii 　仕訳帳の小書きは省略する。

iii 　元丁欄は、当座預金勘定と買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

［取引］

1月３日　京都商店に対する買掛金の一部10,000円を約束手形＃３を振り出して支払った。

７日　滋賀商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A商品　100個　@150円　15,000円

B商品　300個　@200円　60,000円

８日　滋賀商店から仕入れた上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

B商品　10個　@200円　2,000円

14日　和歌山商店に次の商品を売り渡し、代金のうち20,000円は同店振り出しの小切手＃５で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、残額は掛けとした。

A商品　150個　@230円　34,500円

24日　京都商店から次の商品を仕入れ、代金のうち30,000円は小切手＃９を振り出して支払い、残高は掛けとした。

C商品　400個　@120円　48,000円

[答案用紙]

仕　訳　帳

1

日付		摘　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	前期繰越高	✓	3,000,000	3,000,000

総勘定元帳

当座預金

2

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
1	1	前期繰越	✓	230,000					

買　掛　金　　8

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					1	1	前期繰越	✓	99,000

仕　入　帳

1

日　付		摘　要	内　訳	金　額

買掛金元帳

京都商店　1

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		33,000	貸	33,000

滋賀商店　2

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		66,000	貸	66,000

・解答及び解説

取引ごとに、仕訳を行い、関連する帳簿（総勘定元帳、仕入帳、買掛金元帳）への記入を行うことが効率的でしょう。

例えば、１月３日の取引を考えると、①仕訳を行い、②買掛金勘定へ転記し、③買掛金元帳（京都商店）の記入を行う、といった流れで処理して下さい。

また、試験時間が足りない場合には、仕訳帳だけすべて記入するなども一つの戦略です。

仕　訳　帳

1

日付		摘　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	前期繰越高	✓	3,000,000	3,000,000
	3	(買掛金)	8	10,000	
		(支払手形)			10,000
	7	(仕入)		75,000	
		(買掛金)	8		75,000
	8	(買掛金)	8	2,000	
		(仕入)			2,000
	14	諸口 (売上)			34,500
		(当座預金)	2	20,000	
		(売掛金)		14,500	
	24	(仕入) 諸口		48,000	
		(当座預金)	2		30,000
		(買掛金)	8		18,000

総勘定元帳

当座預金　2

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
1	1	前期繰越	✓	230,000	1	24	仕入	1	30,000
	14	売上	1	20,000					

買掛金　8

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
1	3	支払手形	1	10,000	1	1	前期繰越	✓	99,000
	8	仕入	1	2,000		7	仕入	1	75,000
						24	仕入	1	18,000

仕入帳

1

日付		摘要	内訳	金額
1	7	滋賀商店　掛け		
		A商品　100個　@150	15,000	
		B商品　300個　@200	60,000	75,000
	8	滋賀商店　掛け返品		
		B商品　10個　@200		2,000
	24	京都商店　小切手・掛け		
		C商品　400個　@120		48,000
	31	総仕入高		123,000
		仕入返品高		2,000
		純仕入高		121,000

買 掛 金 元 帳

京 都 商 店　　1

日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
1	1	前 月 繰 越		33,000	貸	33,000
	3	支　払　い	10,000		〃	23,000
	24	掛 け 仕 入		18,000	〃	41,000
	31	次 月 繰 越	41,000			
			51,000	51,000		

滋 賀 商 店　　2

日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
1	1	前 月 繰 越		66,000	貸	66,000
	7	掛 け 仕 入		75,000	〃	141,000
	8	返　　品	2,000		〃	139,000
	31	次 月 繰 越	139,000			
			141,000	141,000		

資料　出題される収益・費用の勘定一覧

（１）全商簿記３級で出題される主な収益

売上高（売上）　…　［４－１］参照
受取手数料　…　取引を仲介したことによって生じる収益
受取家賃　…　建物を貸したことによって生じる収益
受取地代　…　土地を貸したことによって生じる収益
受取利息　…　［11－３］参照
雑益　…　少額の収益
有価証券売却益　…　［７－２］参照
固定資産売却益　…　［８－４］参照

（２）全商簿記３級で出題される主な費用

売上原価（仕入）	…	［４－１］参照
給料	…	従業員の労働の対価として支払う費用
広告料	…	広告宣伝のための費用
旅費	…	出張などで生じた交通費
交通費	…	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代などの費用
通信費	…	切手代、はがき代、電話代などの費用
消耗品費	…	固定資産に計上しない程度の金額の物品、または、使用可能期間が１年以内のもの
水道光熱費	…	水道代、電気代、ガス代などの費用
支払手数料	…	取引を仲介してもらったことによって生じる費用
支払家賃	…	建物を借りることによって生じる費用
支払地代	…	土地を借りることによって生じる費用
保険料	…	保険料の支払
発送費	…	商品を送付することによって生じる費用
租税公課	…	［11－１］参照
減価償却費	…	［８－２］参照
修繕費	…	固定資産を修繕することによって生じた費用
貸倒損失	…	［13－１］参照
貸倒引当金繰入	…	［13－２］参照
雑費	…	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目
支払利息	…	［11－３］参照
手形売却損	…	［６－３］参照
雑損	…	少額の損失
有価証券売却損	…	［７－２］参照
固定資産売却損	…	［８－４］参照